

## 平成 30 年度 第 2 回

# 高知市地域福祉計画推進協議会 資料

日時：平成 30 年 10 月 2 日（火）18：30～20：30

場所：総合あんしんセンター 3階 大会議室

## 目次

高知市地域福祉計画推進協議会委員名簿	．．．．．	P. 1
高知市地域福祉計画庁内検討委員名簿	．．．．．	P. 2
高知市地域福祉計画推進協議会条例	．．．．．	P. 3
1. 平成30年度 地域福祉に関するアンケート調査結果	．．．．	P. 5
(1) 地域福祉に関する調査の概要		P. 6
(2) 市民対象調査		P. 11
(3) 民生委員・児童委員対象調査		P. 39
(4) 町内会長・自治会長対象調査		P. 46
(5) 福祉委員・気くばりさん対象調査		P. 55
(6) 専門職対象調査		P. 59
2. 平成30年度 地域福祉に関する意見交換会結果	．．．．	P. 67
3. 高知市の地域福祉に関する現状・課題と方向性	．．．．	P. 72
4. 次期高知市地域福祉活動推進計画(平成31～36年度)概要(案)		P. 81

### <配布資料>

【別紙資料】 地域福祉活動推進計画体系（新旧比較・概要）

【資料①】 地域福祉に関するアンケート調査 報告書

【資料②】 民生委員・児童委員調査結果

【資料③】 町内会長・自治会長調査結果

【資料④】 福祉委員・気くばりさん

## 高知市地域福祉計画推進協議会委員名簿

委嘱期間:平成 28 年4月1日～平成 31 年3月 31 日

	所属	役職等	氏名
1	一宮コミュニティ計画推進市民会議	事務局次長	石橋 照久
2	高知市地区社会福祉協議会連合会	副代表	川崎 洋輝
3	高知市民生委員児童委員協議会連合会	監事	島元 健三
4	社会福祉法人みその児童福祉会 児童家庭支援センター高知みその	センター長	武樋 保恵
5	国立大学法人 高知大学 教育研究部 地域協働学部	教授	玉里 恵美子
6	高知市町内会連合会	会長	長尾 達雄
7	社会福祉法人すずめ福祉会 すずめ共同作業所	所長	西村 昇
8	特定非営利法人 NPO高知市民会議	理事長	東森 歩
9	社会福祉法人秦ダイヤライフ福祉会	理事	福田 晃代
10	NPO法人いきいき百歳応援団	理事長	細川 芙美
11	NPO法人地域サポートの会さわやか高知	会長	三谷 英子
12	高知市西部地域高齢者支援センター旭出張所	社会福祉士	三橋 満美
13	公募委員		山下 等生
14	社会福祉法人明成会	理事	吉永 宣生
15	高知県保育士会	理事	渡辺 秀一

高知市地域福祉計画庁内検討委員会委員名簿

	役 職	氏 名
1	健康福祉部部長	村岡 晃
2	健康推進担当理事	堀川 俊一
3	健康福祉部副部長	田中 弘訓
4	福祉事務所所長	中村 仰
5	地域防災推進課課長	葛目 京子
6	地域コミュニティ推進課課長	藤原 美穂
7	人権同和・男女共同参画課課長	明坂 通子
8	健康福祉総務課課長	大北 新
9	介護保険課課長	川村 弘
10	健康増進課課長	池内 章
11	参事障がい福祉課長事務取扱	上田 和久
12	高齢者支援課課長	石塚 栄一
13	福祉管理課課長	坂田 弘之
14	子育て給付課課長	中屋 雅克
15	子ども育成課課長	谷脇 由人
16	母子保健課課長	谷脇 聖児
17	教育政策課教育企画監	和田 広信
18	人権・こども支援課課長	西原 知佐子



# ●高知市地域福祉計画推進協議会条例

(平成 27 年 4 月 1 日条例第 46 号)

(設置)

第 1 条 高知市地域福祉計画（以下「地域福祉計画」という。）の策定及び推進等に当たり、広範な市民の意見を反映するため、高知市地域福祉計画推進協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(所掌事項)

第 2 条 協議会は、次に掲げる事項について協議する。

- (1) 地域福祉計画の策定に関すること。
- (2) 地域福祉計画に基づく諸施策の進捗状況に関すること。
- (3) 地域福祉計画の推進の方策に関すること。
- (4) 地域福祉計画の見直しに関すること。
- (5) その他地域福祉計画の推進に関すること。

(組織)

第 3 条 協議会は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する委員 20 人以内で組織する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係団体の役職員
- (3) 市民
- (4) その他市長が特に必要と認める者

2 前項第 3 号の委員は、公募によるものとし、その選考に当たっては、高知市地域福祉計画推進協議会公募委員選考委員会（以下「選考委員会」という。）において審査する。

3 委員の公募の実施並びに選考委員会の組織及び運営について必要な事項は、市長が別に定める。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、3 年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第 5 条 協議会に会長及び副会長 1 人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を行う。

(会議)

第 6 条 協議会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

(資料提供その他の協力等)

第 7 条 協議会は、その所掌事務を遂行するため必要があると認めるときは、関係部局その他の者に対し、資料の提出、意見の表明、説明その他必要な協力を求めることができる。

(守秘義務)

第8条 委員は、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も同様とする。

(専門部会)

第9条 協議会の所掌事項について専門的に協議する必要があるときは、協議会に専門部会を置くことができる。

2 専門部会の組織及び運営について必要な事項は、市長が別に定める。

(庶務)

第10条 協議会の庶務は、健康福祉部において処理する。

(その他)

第11条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の日（以下「施行日」という。）の前日において置かれていた高知市地域福祉計画推進協議会（高知市地域福祉計画推進協議会設置要綱（平成24年3月13日制定）の規定に基づき組織されたものをいう。以下「旧協議会」という。）は、協議会となり、同一性をもって存続するものとする。

3 この条例の施行の際現に旧協議会の委員として市長から委嘱されている者及び旧協議会の会長又は副会長に選任されている者は、施行日において協議会の委員に委嘱され、又は会長若しくは副会長に選任されたものとみなす。ただし、その任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、旧協議会の委員並びに会長及び副会長としての残任期間に相当する期間とする。

# 1. 平成30年度 地域福祉に関する アンケート調査結果

- (1) 地域福祉に関する調査の概要
- (2) 市民アンケート調査結果
- (3) 民生委員・児童委員調査結果
- (4) 町内会長・自治会長調査結果
- (5) 福祉委員・気くばりさん調査結果
- (6) 専門職調査結果

# 地域福祉に関する調査の結果について

## 1 地域福祉に関する調査の概要

---

# 1 地域福祉に関する調査の概要

## (1) 目的

第2期地域福祉活動推進計画策定にあたり、地域福祉に関する市民の意向やニーズを把握するための基礎資料とする。

## (2) 調査対象

①高知市に住民票のある20歳以上の方 3,000人(平成30年5月1日時点)

※以下の地区別の人口に応じて無作為に抽出

上街・高知街・南街・北街・下知・江ノ口・小高坂・旭街・潮江・三里・五台山・高須・布師田・一宮・秦・初月・朝倉・鴨田・長浜・御畳瀬・浦戸・大津・介良・鏡・土佐山・春野

②高知市民生委員・児童委員全数 706人(平成30年4月1日時点)

③高知市内の町内会長・自治会長 1,133団体

(地域コミュニティ推進課登録団体 平成30年6月10日時点)

④福祉委員・気くばりさん登録者 712人(平成30年6月1日時点)

⑤専門職 489人(市役所所属専門職, 高齢・障害分野の委託及び民間事業所 平成30年8月10日時点回答者)

(3)調査期間 平成30年6月～8月

2

# 1 地域福祉に関する調査の概要

## (4)① 市民対象調査項目(31問+自由記載)

1. 回答者の属性について(性別・年齢・居住地区・職業・居住年数・住居形態・家族構成)		
2.同居家族	10.手助けしてほしい具体的な内容	18.今後参加したい活動の内容
3.暮らし向き(経済)	11.自身の悩み・不安について	19.活動を阻害する要因
4.助け合いの範囲	12.相談相手	20.参加したい地域の集いの場
5.近所付き合いの程度	13.地域の生活課題について	21.福祉目的の寄付経験の有無
6.地域での助け合いの現状	14.地域活動・ボランティア活動への参加の有無	22.福祉目的の寄付に対する考え
7.住民同士の助け合いの必要性	15.参加している活動の内容	23.高知市社会福祉協議会の周知度
8.助け合いの意識	16.活動に参加したきっかけ	24.地区社会福祉協議会の周知度
9.手助けできる具体的な内容	17.今後の活動意向	25.生活支援相談センターの周知度

3

# 1 地域福祉に関する調査の概要

## (4)②民生委員・児童委員対象 調査項目(17問+自由記載)

1. 性別	7. 今後必要と思われる集いの場の内容	13. 担当区域の「8050問題」世帯の把握
2. 年齢	8. 担当区域の生活課題について	14. 「ダブルケア」の周知度
3. 民生委員・児童委員の経験年数	9. 生活支援相談センターの周知度	15. 担当区域の「ダブルケア」世帯の把握
4. 担当区域(民児協ごと)	10. 担当区域の生活困窮世帯の有無	16. 担当区域の「ごみ屋敷」の把握
5. 担当区域の助け合いの現状	11. 困窮内容	17. 市社協の周知度
6. 既存の集いの場の内容	12. 「8050問題」の周知度	

## (4)③町内会長対象 調査項目(20問+自由記載)

1. 性別	8. 今後必要と思われる集いの場の内容	14. 困窮内容
2. 年齢	9. お住まいの地域の生活課題について	15. 「8050問題」の周知度
3. 町内会長・自治会長の経験年数	10. 町内会・自治会の活動内容	16. 担当区域の「8050問題」世帯の把握
4. お住まいの地域(行政区ごと)	11. 町内会・自治会の見守りや助け合い活動	17. 「ダブルケア」の周知度
5. 担当区域の助け合いの現状	12. 生活支援相談センターの周知度	18. 担当区域の「ダブルケア」世帯の把握
6. 住民同士の助け合いの必要性	13. お住まいの地域の生活困窮世帯の有無	19. 担当区域の「ごみ屋敷」の把握
7. 既存の集いの場の内容		20. 市社協の周知度

# 1 地域福祉に関する調査の概要

## (4)④福祉委員・気くばりさん対象 調査項目(20問+自由記載)

1. 性別	8. お住まいの地域の生活課題について	15. 参加の妨げになっている要因
2. 年齢	9. 生活支援相談センターの周知度	16. 福祉委員・気くばりさん活動支援として求めるもの
3. 福祉委員・気くばりさんとしての登録状況	10. ボランティア活動の有無	17. 既存の集いの場の内容
4. 福祉委員・気くばりさんの経験年数	11. 活動内容	18. 今後必要と思われる集いの場の内容
5. 福祉委員・気くばりさんになったきっかけ	12. 活動のきっかけ	19. 福祉目的の寄付経験の有無
6. お住まいの地区(行政区ごと)	13. 今後のボランティアとしての活動意向	20. 福祉目的の寄付に対する考え
7. お住いの地域の助け合いの現状	14. 今後参加したい活動内容	

## (4)⑤専門職対象 調査項目(7問)

1. 地域福祉コーディネーターの周知度	4. 「8050」問題への直面状況	7. 「ごみ屋敷」問題への直面状況
2. 地域福祉コーディネーターとの協働	5. 「ダブルケア」問題の周知度	
3. 「8050問題」の周知度	6. 「ダブルケア」門谷の直面状況	

(5) 調査方法・回収

調査対象	調査方法	配付数	回収数	回収率 (回収数/配付数)
①高知市に住民票のある 20歳以上の方 3,000人 (平成30年5月1日時点)	郵送による 配付・回収	3,000人	1,345人	44.8%
②高知市民生委員・児童 委員 706人 (平成30年4月1日時点)	地区定例会で の配布・回収	706人	583人	82.6%
③高知市内の町内会長・ 自治会長 1,133団体 (地域コミュニティ推進課登 録団体 平成30年6月10日 時点)	郵送による 配付・回収	1,133人	421人	37.1%
④福祉委員・気くばりさん 登録者(平成30年6月1日 時点)	郵送・メールに よる配布・回収	712人	208人	29.2%

6

【参考】 調査回収率(経年変化)

調査対象	平成24年度	平成27年度	平成30年度
①高知市に住民票のある20歳以 上の方 (平成30年5月1日時点)	1,854/ 4,000人 【46.4%】		1,345/ 3,000人 【44.8%】
②高知市民生委員・児童委員 (平成30年4月1日時点)	614/ 725人 【84.6%】	399/ 746人 【56.3%】	583/ 706人 【82.6%】
③高知市内の町内会長・自治会長 (地域コミュニティ推進課登録団体 平成30年6月10日時点)		541/ 1,194団体 【45.3%】	421/ 1,133団体 【37.1%】
④福祉委員・気くばりさん登録者 (平成30年6月1日時点)		117/ 220人 【53.2%】	208/ 712人 【29.2%】

7



## ①指標結果【全体目標 指標】

調査実施項目	設問内容	回答内容等	H24 結果	H30 結果	指標 (H30割合)	備考
地域の活動やボランティア活動への参加	あなたは地域の活動やボランティア活動へ参加していますか。	「参加している」人の割合	17.2%	16.8%	50.0%	全体目標 指標
地区社協の周知度	住民一人ひとりが社会福祉に参加し、生活上のいろいろな問題や課題について話し合い、地域の中の助け合いを育てていくための組織として、「地区社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織を知っていますか。	「名前も活動の中身も良く知っている」「名前は知っており活動内容も少しは知っている」と答えた人の割合		21.6%	50.0%	全体目標 指標

## ②指標結果【基本目標 指標】

調査実施項目	設問内容	回答内容等	H24 結果	H30 結果	指標 (H30割合)	備考
地域での助け合いの現状	【市民】 あなたのお住いの地域では、お互いに助け合いができていますか。	「大変そう思う」「そう思う」と答えた人の割合	40.5%	26.9%	50.0%	基本目標2 指標
	【民生委員】 あなたの担当区域の住民は、お互いに助け合いができていますか。		46.1%	61.2%	60.0%	
住民同士の助け合いの必要性	【市民】 あなたは地域で生じているさまざまな福祉分野の生活課題（障害のある人・高齢者の生活、子育て、健康づくりに関する問題など）に対し、地域住民が自主的にお互いに支え合い、助け合う関係が必要だと思いますか。	「必要だと思う」「あった方がよい」と答えた人の割合	88.6%	80.9%	95.0%	基本目標1 指標
今後の地域活動への意向	【市民】 あなたは今後、地域の活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。	「ぜひ参加したい」「友人などが一緒なら参加したい」「時間ができたら参加したい」「学習の機会があったら参加したい」と答えた人の割合（H30「現在している活動を継続したい」を含む）	69.6%	43.1%	80.0%	基本目標1 指標
市社協の周知度	【市民】 【民生委員】 地域福祉を推進し、住民主体の地域福祉活動のお手伝いをする団体に、「高知市社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織を知っていますか。	「名前も活動の中身も良く知っている」「名前は知っており活動内容も少しは知っている」と答えた人の割合	17.6%	21.6%	50.0%	基本目標5 指標
			87.7%	91.6%	100.0%	

8



## 2 市民対象調査

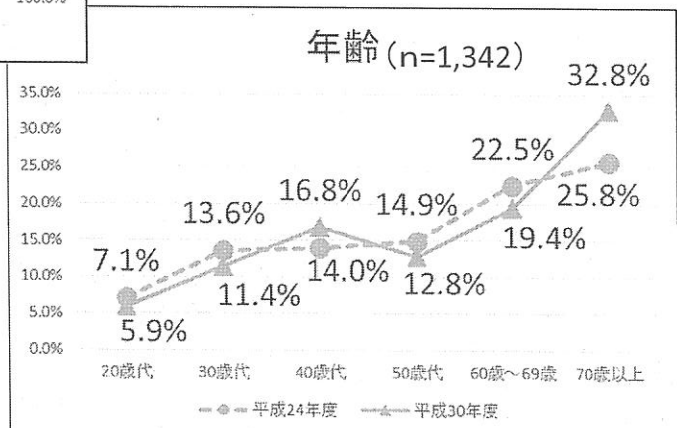
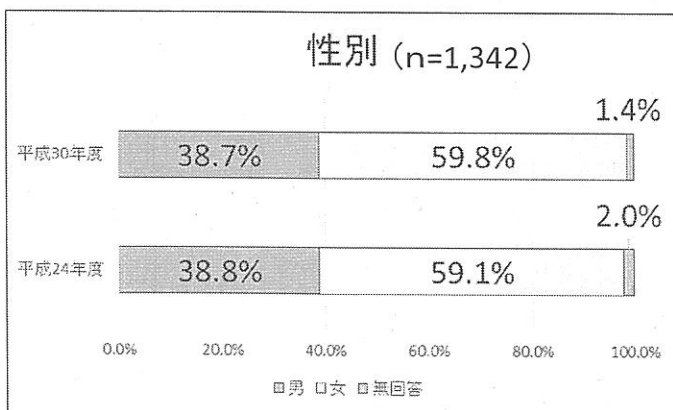
10

### 2 市民対象調査 結果詳細

【性別】【年齢】 ⇒ 報告書P.2参照

【性別】は男性が約4割、女性が約6割と平成24年度と平成30年度では同様の傾向であった。

【年齢】は40歳代の回答が2.8%増加、70歳以上の回答が7.0%増加していた。

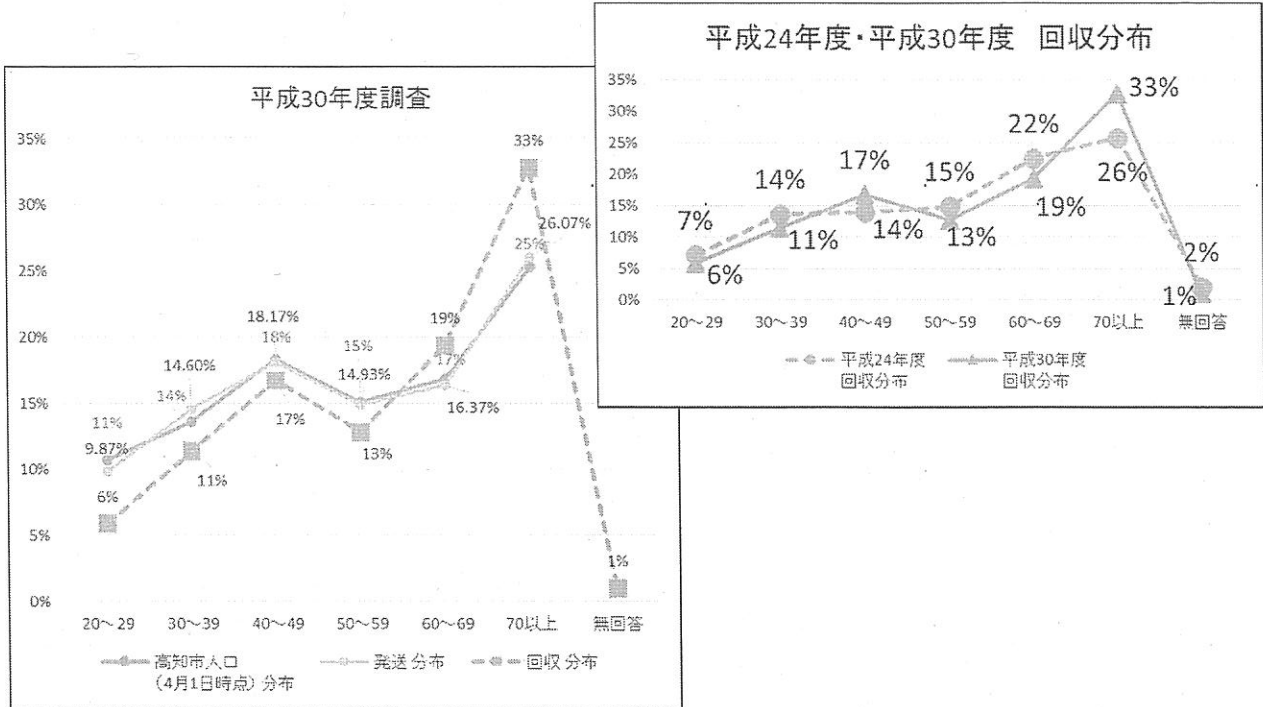


11

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【年齢】高知市人口分布・調査票回収分布

調査票の回収分布をみると、高知市の人口分布よりも60歳以上の方の回収率が高い。平成24年度の回収分布と比較すると、40～49歳と70歳以上の回収率が高くなっている。特に70歳以上の回収率は前回と比較すると7%高くなっている。

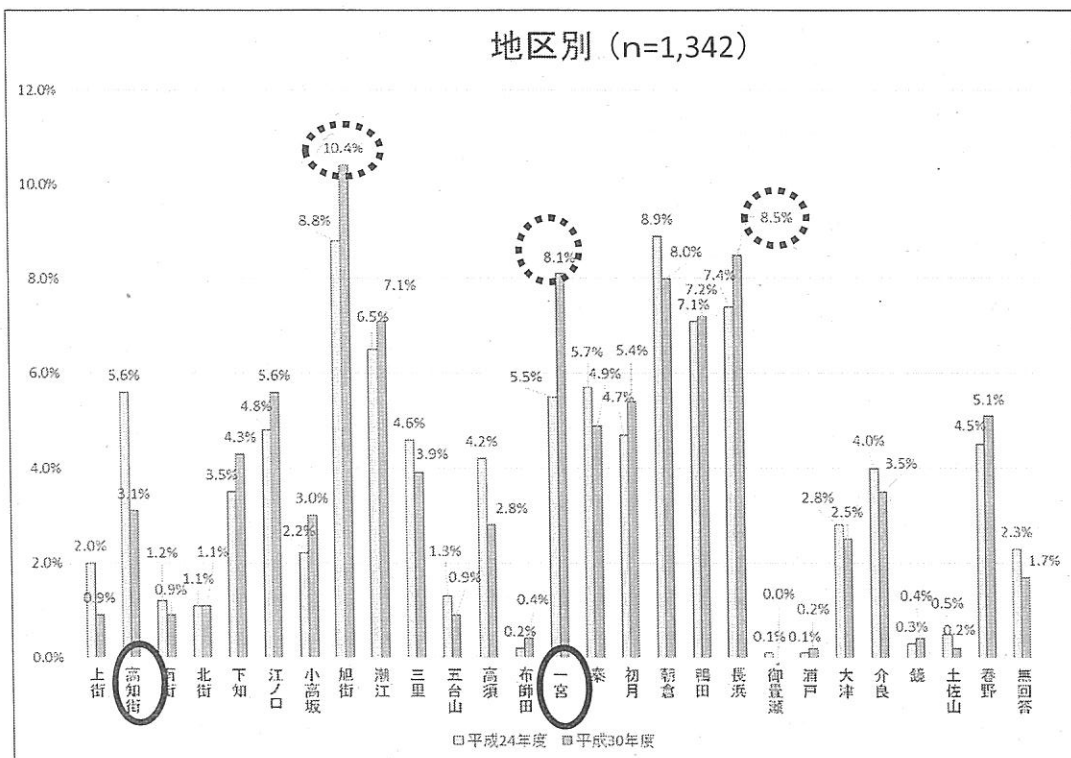


12

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【地区別】 ⇒ 報告書P.3参照

回答率は「旭街(10.4%)」、「長浜(8.5%)」、「一宮(8.1%)」の順で高かった。回答率が大きく上がった地区は「一宮」(2.6%増)。大きく下がった地区は「高知街」(2.5%減)だった。

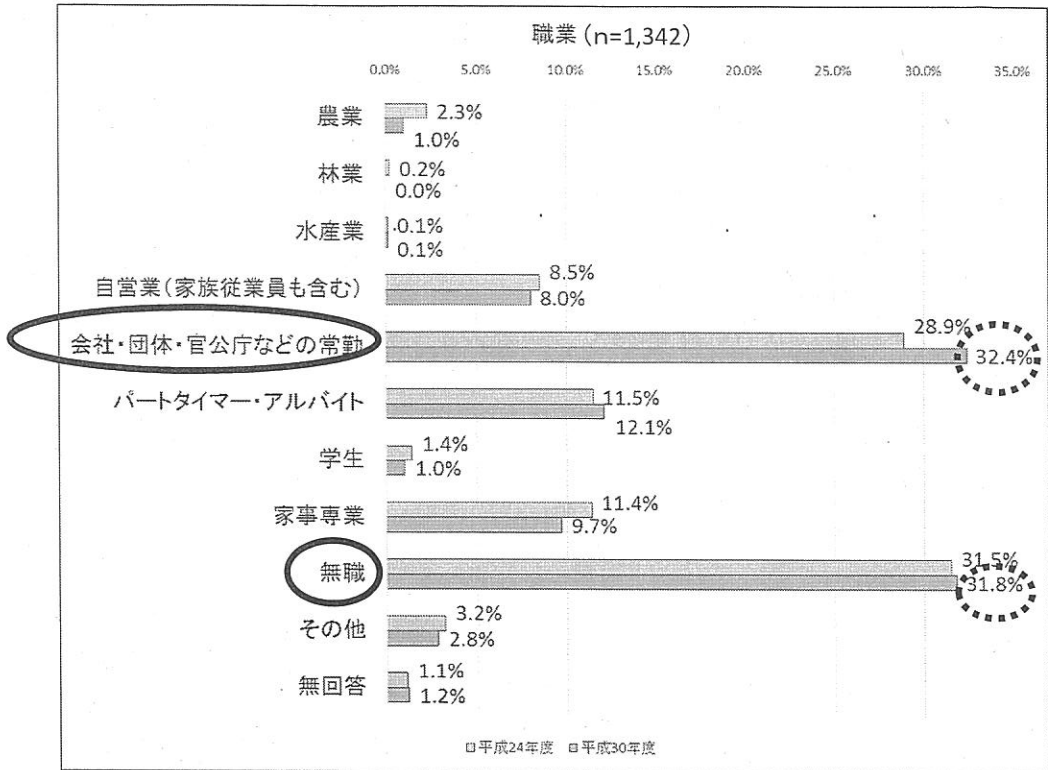


13

## 2 市民対象調査 結果詳細

【職業】⇒報告書P.4参照

「会社・団体・官公庁などの常勤」の方の回答が最も多く32.4%(前回調査の回答よりも3.5%増加)。「無職」の方の回答が次いで多く31.8%。

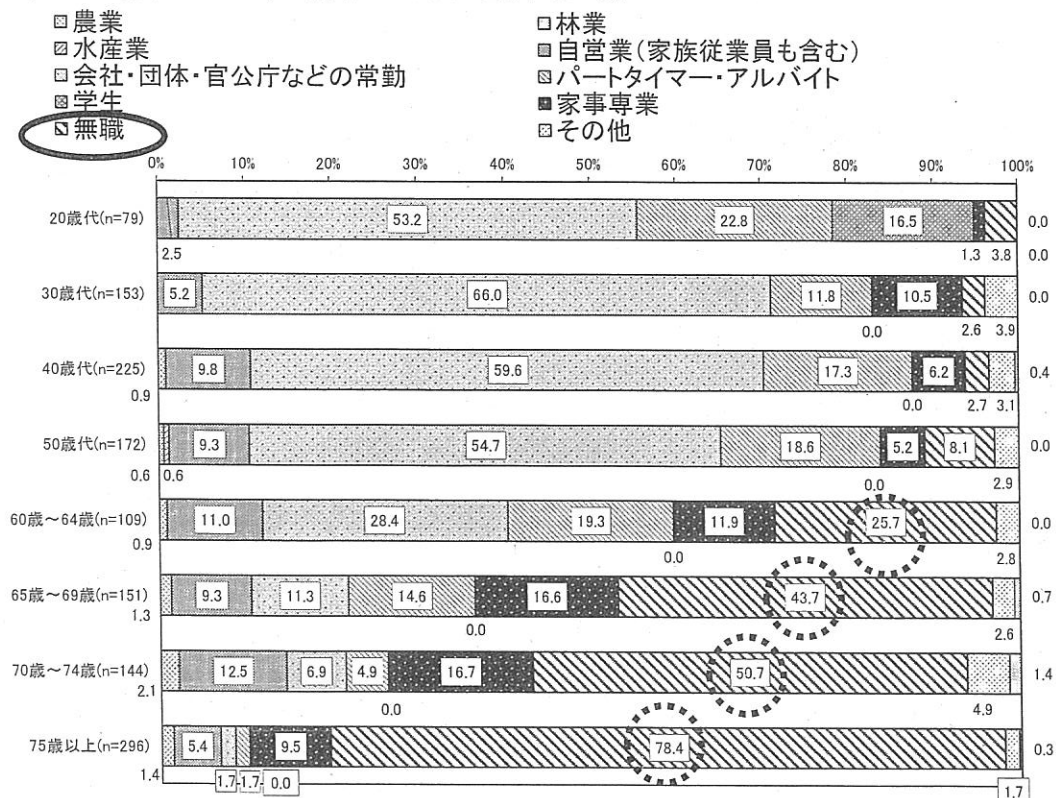


14

## 2 市民対象調査 結果詳細

【職業×年齢】⇒報告書P.4参照

「無職」の割合は20歳代が3.8%、30歳代が2.6%、40歳代が2.7%、50歳代が8.1%、60～64歳代が25.7%、65～69歳代が43.7%、70～74歳代が50.7%、75歳以上が78.4%となっている。

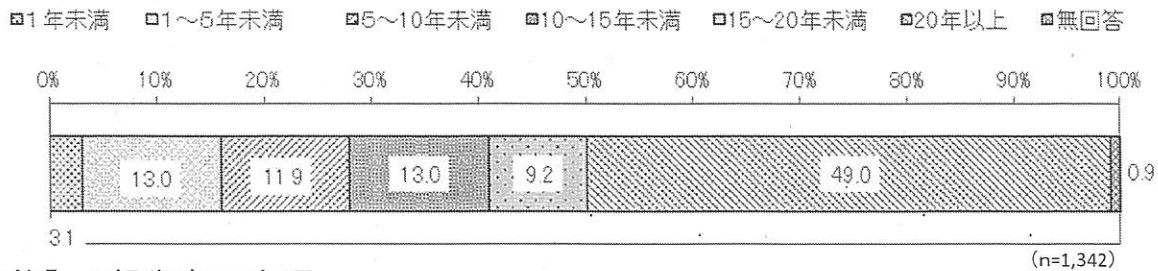


15

## 2 市民対象調査 結果詳細

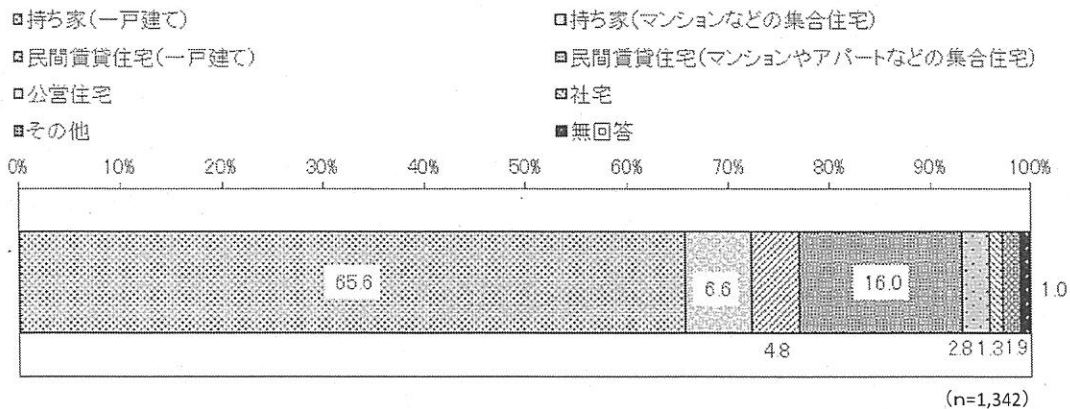
### 【居住年数】⇒報告書P.5参照

「20年以上」が49.0%と最も高く、次いで同率で「1～5年未満」と「10～15年未満」が13.0%となっている。



### 【住居形態】⇒報告書P.6参照

「持ち家(一戸建て)」が65.6%と最も高く、次いで「民間賃貸住宅(マンションやアパートなどの集合住宅)」が16.0%、「持ち家(マンションなどの集合住宅)」が6.6%となっている。

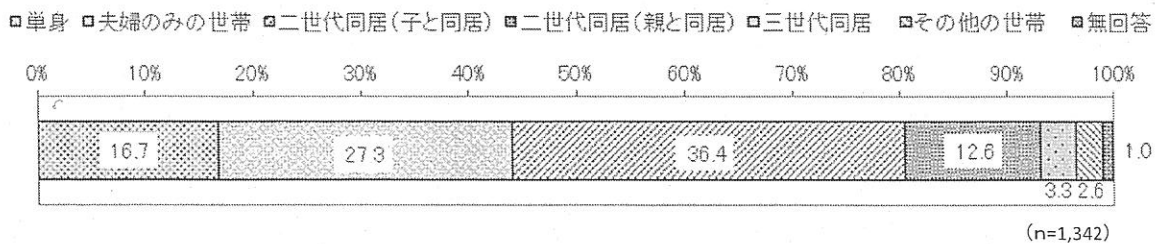


16

## 2 市民対象調査 結果詳細

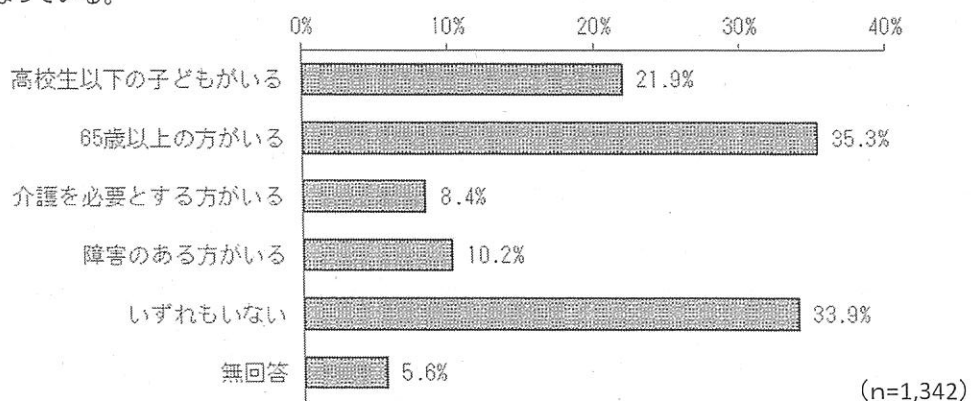
### 【家族構成】⇒報告書P.7参照

「二世世代同居(子と同居)」が36.4%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が27.3%、「単身」が16.7%となっている。



### 【同居家族】⇒報告書P.8参照

「65歳以上の方がいる」が35.3%と最も高く、次いで「いずれもいない」が33.9%、「高校生以下の子どもがいる」が21.9%となっている。



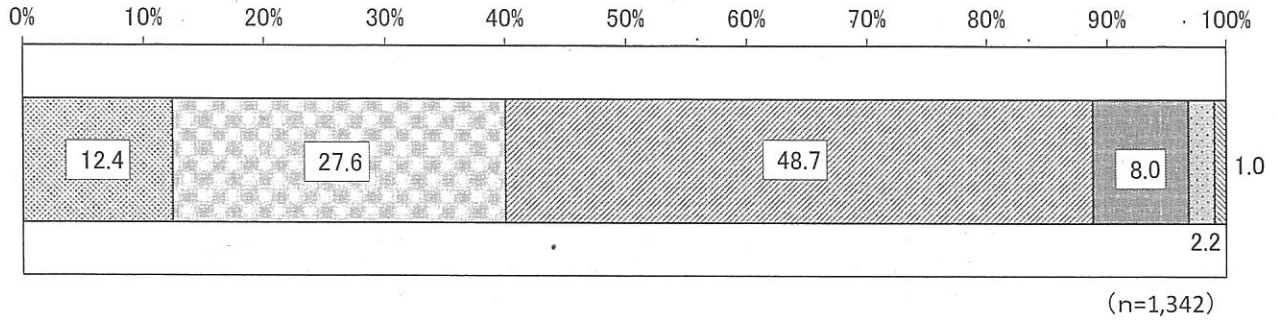
17

## 2 市民対象調査 結果詳細

【経済】 ⇒ 報告書P.9参照

「普通」が48.7%と最も高く、次いで「やや苦しい」が27.6%、「大変苦しい」が12.4%となっている。

大変苦しい   
  やや苦しい   
  普通   
  ややゆとりがある   
  大変ゆとりがある   
  無回答



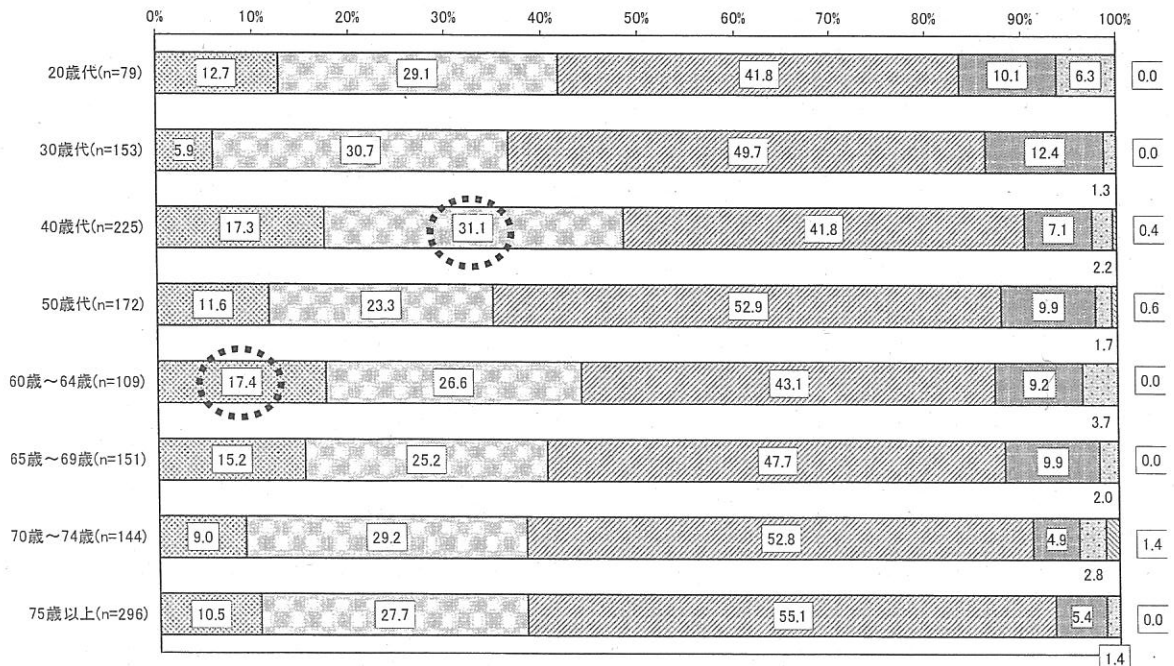
18

## 2 市民対象調査 結果詳細

【経済×年齢】 ⇒ 報告書P.9参照

「大変苦しい」と回答する割合は「60～64歳(17.4%)」「40歳代(17.3%)」「65～69歳(15.2%)」の順で多かった。「やや苦しい」と回答する割合は「40歳代(31.1%)」「30歳代(30.7%)」「70歳～74歳(29.2%)」「20歳代(29.1%)」の順で多かった。

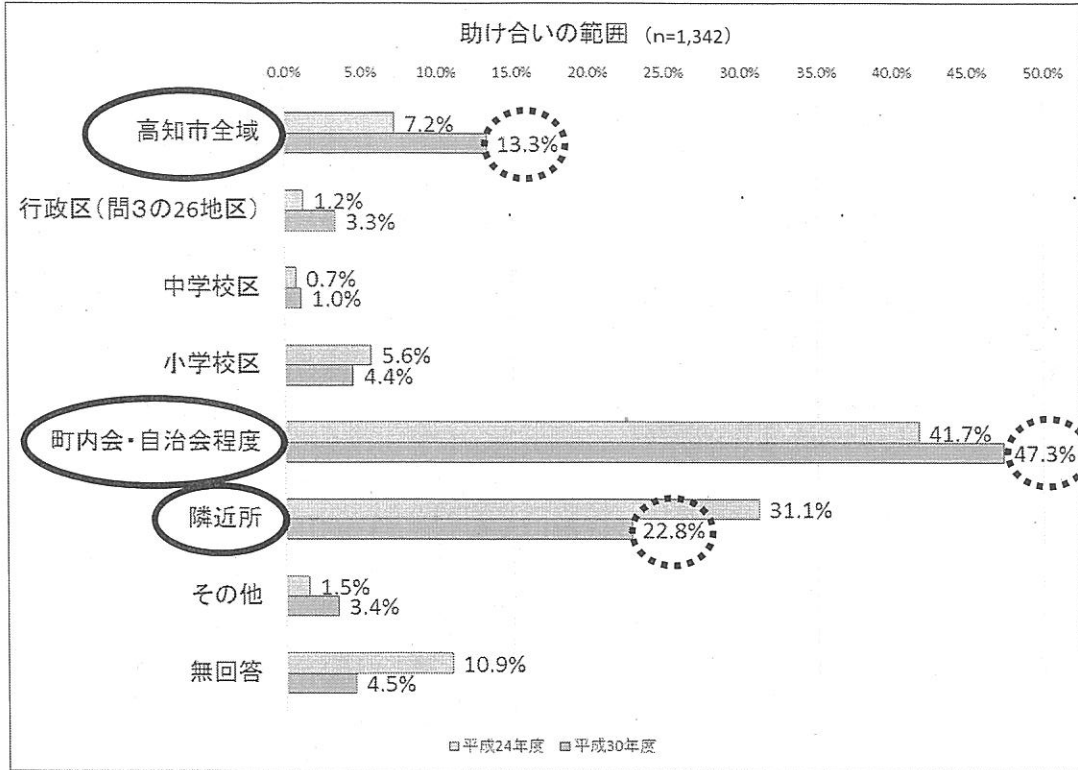
大変苦しい   
  やや苦しい   
  普通   
  ややゆとりがある   
  大変ゆとりがある   
  無回答



## 2 市民対象調査 結果詳細

【助け合いの範囲】 ⇒ 報告書P.10参照

「町内会・自治会程度」が47.3%と最も高く(前回調査の回答よりも5.6%増加), 次いで「隣近所」が22.8%(前回調査の回答よりも8.3%減少), 「高知市全域」が13.3%(前回調査の回答よりも6.1%増加)となっている。



20

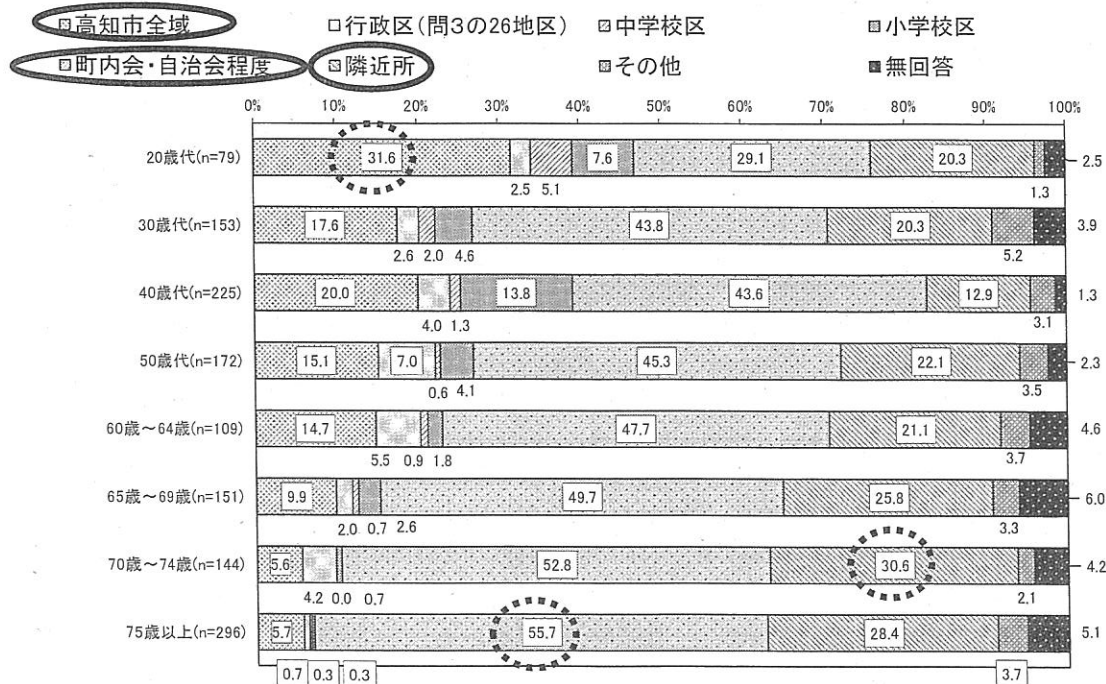
## 2 市民対象調査 結果詳細

【助け合いの範囲×年齢】 ⇒ 報告書P.10参照

「町内会・自治会程度」と回答した割合は50歳代以上が約5割, 30歳代~40歳代が約4割, 20歳代が約3割となっている。

「隣近所」と回答した割合は65歳以上が約3割, 20歳代, 30歳代, 50歳代, 60~64歳は2割, 40歳代が1割となっている。

「高知市全域」と回答した割合は「20歳代」が一番多く31.6%、次いで40歳代20.0%, 30歳代17.6%となっている。



21



## 2 市民対象調査 結果詳細

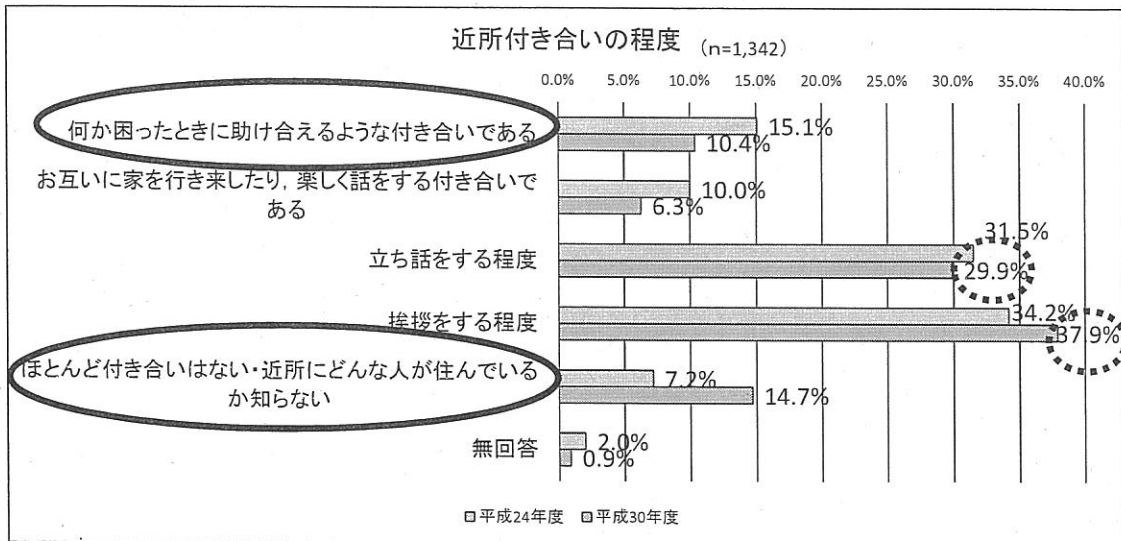
### 【近所付き合いの程度】 ⇒ 報告書P.11・12参照

「挨拶をする程度」が37.9%と最も高く、次いで「立ち話をする程度」が29.9%、「ほとんど付き合いはない」が10.6%となっている。

「何か困ったときに助け合えるような付き合いである(10.4%)」と回答した方(前回調査の回答よりも4.7%減少)と「お互いに家を行き来したり、楽しく話をする付き合いである(6.3%)」と回答した方(前回調査の回答よりも3.7%減少)を加えた割合は約2割である。

⇒年齢別で見ると、「何か困ったときに助け合えるような付き合いである」と回答した割合は70歳～74歳代が一番多く、22.9%、次いで75歳以上が13.5%となっている。

⇒平成24年度と比較して一番増加している項目は「ほとんど付き合いはない・近所にどんな人が住んでいる(7.5%)」で約2倍となっている。



22

## 2 市民対象調査 結果詳細

指標(基本目標2)

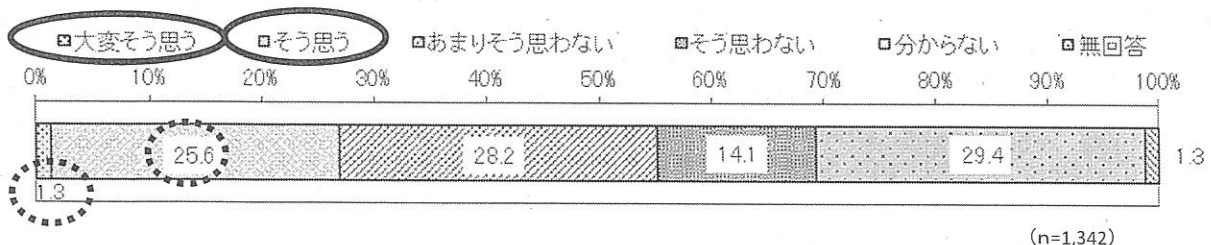
### 【地域での助け合いの現状】 ⇒ 報告書P.13参照

お互いに助け合いができていると思うかという問いに対して、「分からない」が29.4%と最も高く、次いで「あまりそう思わない」が28.2%、「そう思う」が25.6%となっている。

「大変そう思う(1.3%)」と「そう思う(25.6%)」を足した割合は約3割である。

「あまりそう思わない(28.2%)」と「そう思わない(14.1%)」を足した割合は4割である。

⇒年齢別で見ると、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した割合は40歳代(48.4%)と70歳～74歳代(47.2%)が多く、それぞれ約5割となっている。「分からない」と回答した割合は30歳代(39.9%)が一番多く、次いで65～69歳(35.1%)、60歳～64歳(34.9%)。



23

## 2 市民対象調査 結果詳細

指標(基本目標1)

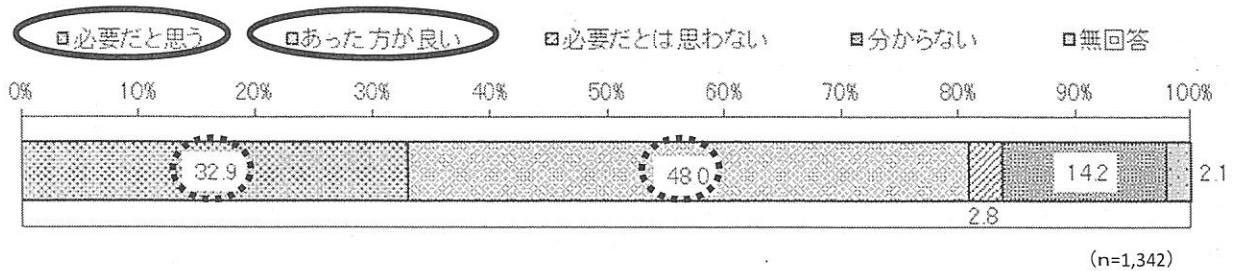
### 【住民同士の助け合いの必要性】 ⇒ 報告書P.14参照

「あった方が良い」が48.0%と最も高く、次いで「必要だと思う」が32.9%、「分からない」が14.2%となっており、「あった方が良い」と「必要だと思う」を足した割合は8割となっている。

⇒年齢別でみると、「必要だと思う」の回答は、40歳代までは3割以下の回答であったものが、75歳以上になると44.3%と「あった方が良い(37.8%)」を上回っている。

⇒近所付き合いの程度別でみると、「ほとんど付き合いはない」「近所にどんな人が住んでいるか知らない」と回答した方が「必要だと思う」「あった方が良い」と回答した割合は6~7割であった。

⇒住まいの地域での助け合いができていないかどうか別でみると、「そう思わない」「分からない」と回答した方が「必要だと思う」「あった方が良い」と回答した割合は6~7割であった。



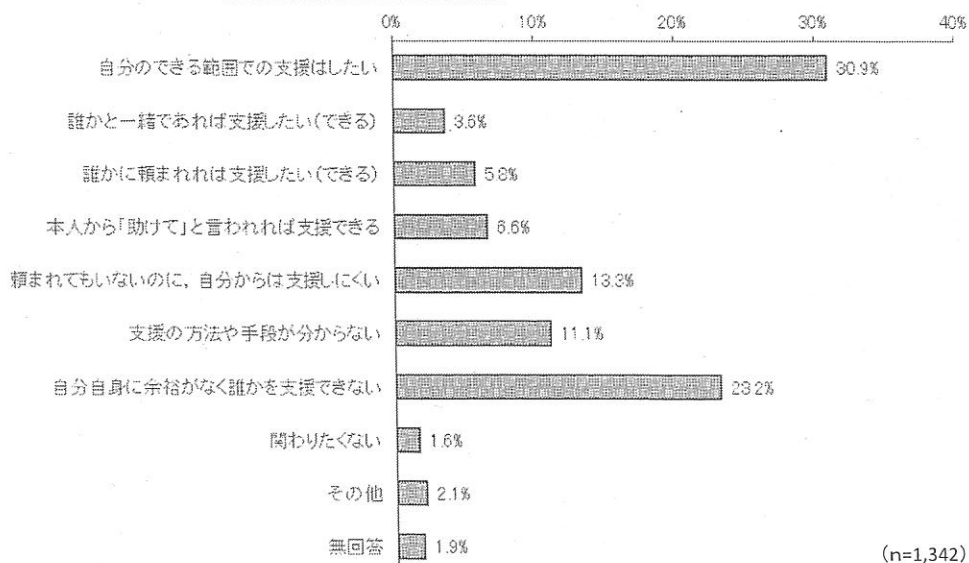
24

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【助け合いの意識】 ⇒ 報告書P.15参照

「自分のできる範囲での支援はしたい」が30.9%と最も高く、次いで「自分自身に余裕がなく誰かを支援できない」が23.2%、「頼まれてもいないのに、自分からは支援しにくい」が13.3%となっている。一方、「関わりたくない」と回答した割合は1.6%であった。

「誰かに頼まれれば支援したい(できる)」と回答した方が5.8%、「頼まれてもいないのに、自分からは支援しにくい」と回答した方が13.3%と、支援することを頼む人がいることにより19.1%の方が支援してくれる可能性がある。また、「本人から「助けて」と言われれば支援できる」と回答した方が6.6%いることも含め、支援することを本人または他者から頼まれれば25.7%の方が支援してくれる可能性がある。



25



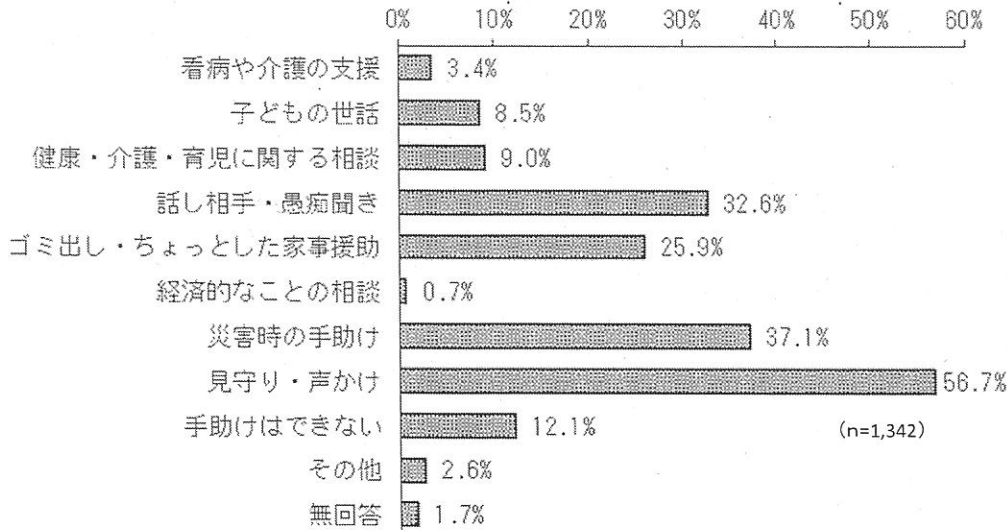
## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【手助けできる具体的な内容(複数回答)】 ⇒報告書P.17参照

あなたの近所の方が、高齢や障害、病気もしくは子育てなどにより、日常生活で手助けが必要になった時、どんなことであれば手助けできるかという問いに対して、「見守り・声かけ」が56.7%と最も高く、次いで「災害時の手助け」が37.1%、「話し相手・愚痴聞き」が32.6%となっている。

⇒性別にみると、男性・女性ともに「見守り・声かけ」が最も高く、いずれも5割台。

- ・男性は次に多いのが「災害時の手助け」46.5%、「話し相手・愚痴聞き」27.3%、「ゴミ出し・ちょっとした家事援助」27.1%。
- ・女性は次に多いのが「話し相手・愚痴聞き」36.0%、「災害時の手助け」31.3%。
- ・男女を比較して男性が上回っている手助け内容は、「災害時の手助け」と「ゴミ出し・ちょっとした家事援助」



26

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【手助けできる具体的な内容×年齢】 ⇒報告書P.18参照

⇒年齢別にみると、全ての年齢層で「見守り・声かけ」が最も高い手助け内容であった。

- ・「見守り・声かけ」については、20歳代～74歳において各年代の約6割の方ができる手助け内容となっている。
- ・「災害時の手助け」については、20歳代～50歳代において各年代の約5割の方ができる手助け内容となっている。
- ・「話し相手・愚痴聞き」については、どの年代においても各年代の約3～4割の方ができる手助け内容となっている。

	回答数	看病や介護の支援	子どもの世話	健康・介護・育児に関する相談	話し相手・愚痴聞き	ゴミ出し・ちょっとした家事援助	経済的なことの相談	災害時の手助け	見守り・声かけ	手助けはできない	その他	無回答
20歳代	79	6.3	22.8	8.9	36.7	22.8	1.3	54.4	55.7	10.1	0.0	1.3
30歳代	153	5.2	17.6	15.7	29.4	22.2	1.3	49.7	62.1	9.2	2.0	0.7
40歳代	225	3.1	11.1	12.0	37.8	23.1	0.4	44.9	67.6	7.6	0.9	0.9
50歳代	172	2.3	8.1	11.0	27.3	26.2	0.0	45.8	62.8	10.5	2.9	0.6
60歳～64歳	109	3.7	2.8	5.5	30.3	23.9	1.8	34.9	61.5	11.0	3.7	2.8
65歳～69歳	151	2.6	6.0	6.0	35.8	30.5	0.7	33.8	56.3	11.9	1.3	2.0
70歳～74歳	144	2.8	4.9	8.3	37.5	34.0	0.7	31.3	51.1	6.3	4.2	1.4
75歳以上	296	3.4	3.7	5.4	29.4	26.0	0.7	19.9	39.5	22.3	4.1	2.4

27  
(n=1,342)

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【手助けできる具体的な内容×同居家族】⇒報告書P.72参照

⇒同居家族の状況別にみると、世帯での支援が必要な方がいる状況の中でも5～7割の方が「見守り・声かけ」の手助けができると回答。特に「高校生以下の子どもがいる」世帯の方の回答割合は66.7%と全体の回答割合よりも上回っていた。

### 【手助けできる具体的な内容×経済】⇒報告書P.72参照

⇒経済状況が苦しい中でも、約5割の方が「見守り・声かけ」の手助けはできると回答  
・「大変苦しい」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは46.4%ができると回答  
・「やや苦しい」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは55.3%ができると回答

### 【手助けできる具体的な内容×近所付き合いの程度】⇒報告書P.72参照

⇒近所付き合いがない状況の方でも、「見守り・声かけ」の手助けは約4割ができると回答  
・「ほとんど付き合いはない」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは43.7%ができると回答  
・「近所にどんな人が住んでいるか知らない」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは41.8%ができると回答

28

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【手助けできる具体的な内容×地域での助け合いの現状】⇒報告書P.73参照

⇒住まいの地域で「助け合いができていない」または、「助け合いができていないかどうか分からない」と回答した方でも、約5～6割が「見守り・声かけ」の手助けはできると回答  
・助け合いができていないかどうかで、「あまりそう思わない」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは60.2%ができると回答  
・助け合いができていないかどうかで、「そう思わない」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは49.7%ができると回答  
・助け合いができていないかどうかで、「わからない」と回答した方でも、「見守り・声かけ」の手助けは51.1%ができると回答

### 【手助けできる具体的な内容×住民同士の助け合いの必要性】⇒報告書P.73参照

⇒住民同士の助け合いの必要性について「必要だと思わない」または、「分からない」と回答した方でも、約2～3割が「災害時の手助け」を、3～4割が「見守り・声かけ」ができると回答。  
・「必要だと思わない」と回答した方の39.5%が「手助けはできない」、31.6%が「災害時の手助け」、28.9%が「見守り・声かけ」ができると回答。  
・「分からない」と回答した方の40.0%が「見守り・声かけ」、27.9%が「手助けはできない」、21.6%が「災害時の手助け」と回答。

### 【手助けできる具体的な内容×助け合いの意識】⇒報告書P.73参照

⇒「自分自身に余裕がなく誰かを支援できない」「関わりたくない」と回答した方でも、3～4割の方が「見守り・声かけ」の手助けができると回答。  
・「自分自身に余裕がなく誰かを支援できない」と回答した方の40.4%が「見守り・声かけ」、35.3%が「手助けはできない」、17.9%が「災害時の手助け」と回答。  
・「関わりたくない」と回答した方の61.9%が「手助けはできない」、33.3%が「見守り・声かけ」、14.3%が「災害時の手助け」と回答。

29

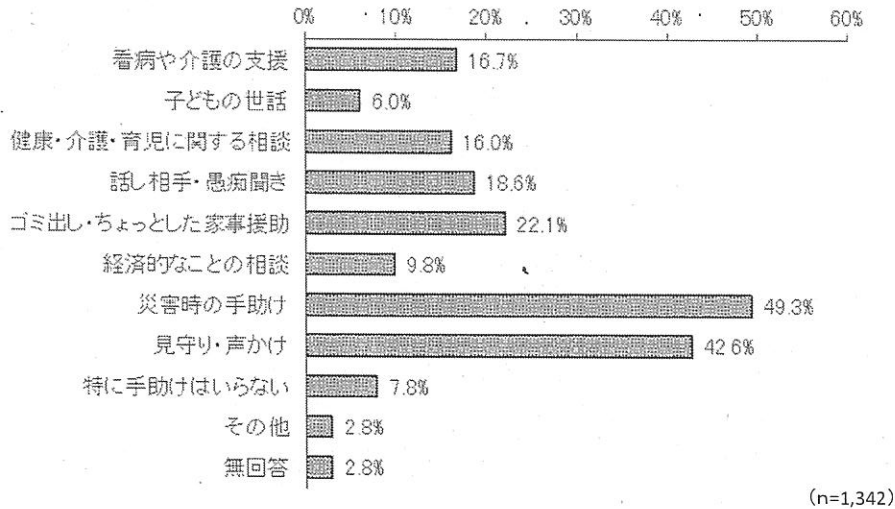
## 2 市民対象調査 結果詳細

【手助けしてほしい具体的な内容(複数回答)】⇒報告書P.19・P.75参照

「災害時の手助け」が49.3%と最も高く、次いで「見守り・声かけ」が42.6%、「ゴミ出し・ちょっとした家事援助」が22.1%となっている。

⇒居住年数別にみると、「1年未満」の方が「災害時の手助け」を求める割合は70.7%と、他の居住年数の方が約5割の中で割合が一番多い。

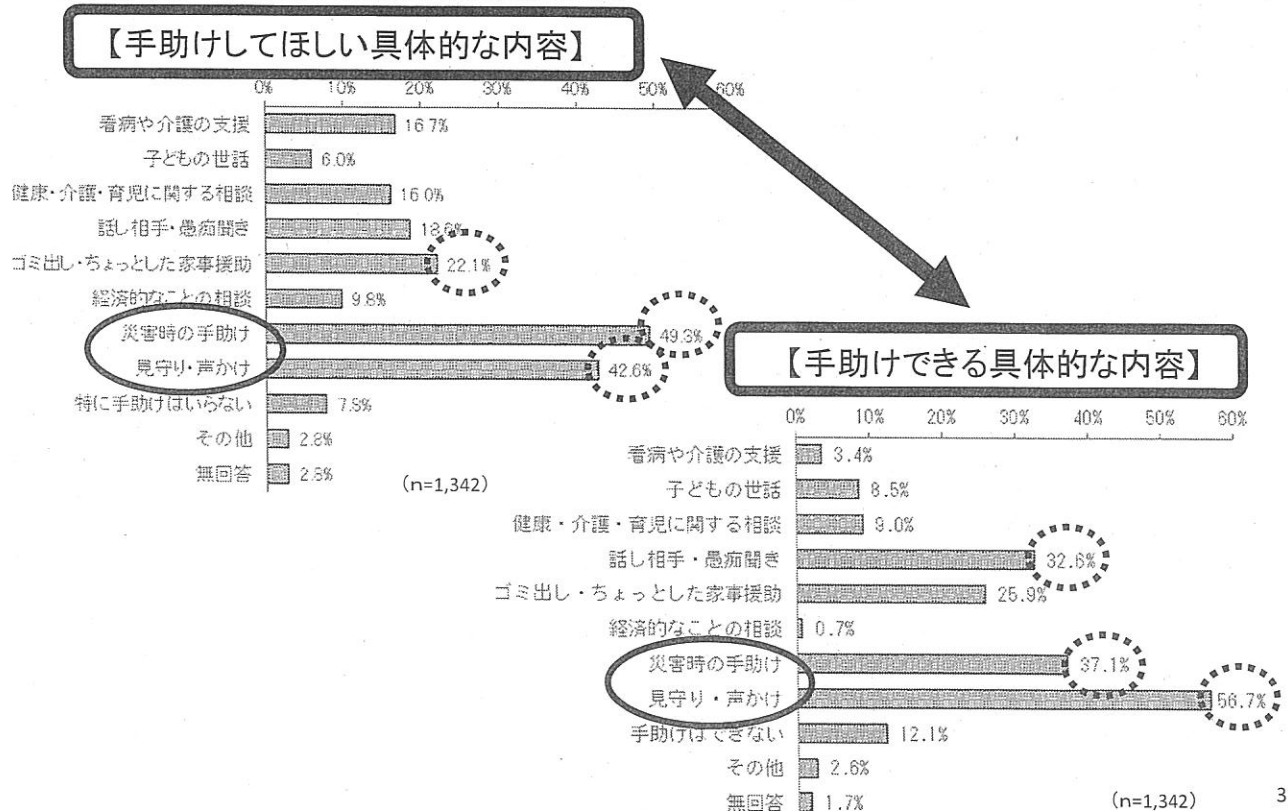
⇒助け合いの意識別にみると、「関わりたくない」と回答した方で「特に手助けはいらない」と回答した割合は47.6%



30

## 2 市民対象調査 結果詳細

「手助けしてほしい具体的な内容」と「手助けできる具体的な内容」を比較してみると、「災害時の手助け」と「見守り・声かけ」については共に割合の上位を占めていた。



31

## 2 市民対象調査 結果詳細

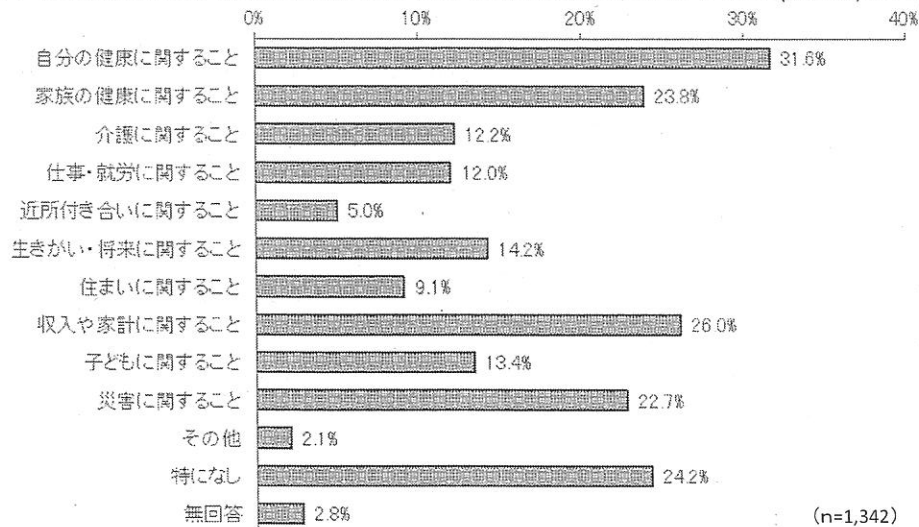
### 【自身の困りごと(複数回答)】 ⇒報告書P.21・P.77・P.78参照

「自分の健康に関すること」が31.6%と最も高く、次いで「収入や家計に関すること」が26.0%、「特になし」が24.2%、「災害に関すること」が22.7%となっている。

⇒年齢別にみると20歳代、30歳代、40歳代では「収入や家計に関すること」が3～4割、50歳代は「家族の健康に関すること」が3割、60歳代～74歳は「自分の健康に関すること」が3割、75歳以上は「自分の健康に関すること」が5割となっている。

⇒家族構成別にみると「単身」の方の困りごととして「自分の健康に関すること」と回答した方が43.8%。

⇒同居家族の状況別にみると「介護を必要とする方がいる」世帯の困りごとは「自分の健康に関すること(53.1%)」「介護に関すること(47.8%)」「家族の健康に関すること(44.2%)」の順に多かった。「障害のある方がいる」世帯の困りごとは「自分の健康に関すること(51.8%)」「家族の健康に関すること(40.9%)」「介護に関すること(32.1%)」の順に多かった。



32

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【相談相手(複数回答)】 ⇒報告書P.23・P.79・P.80参照

「家族や親族」が79.4%と最も高く、次いで「知人・友人」が44.2%、「医療機関」が14.3%となっている。

⇒年齢別にみると、どの年代層も約8割が相談相手として「家族や親族」を選択。

・「知人・友人」を相談相手として選択した方は、20～30歳代が約6割、40歳代が約5割、50～60歳代が約4割、70～74歳が約3割、75歳以上が約2割が選択。

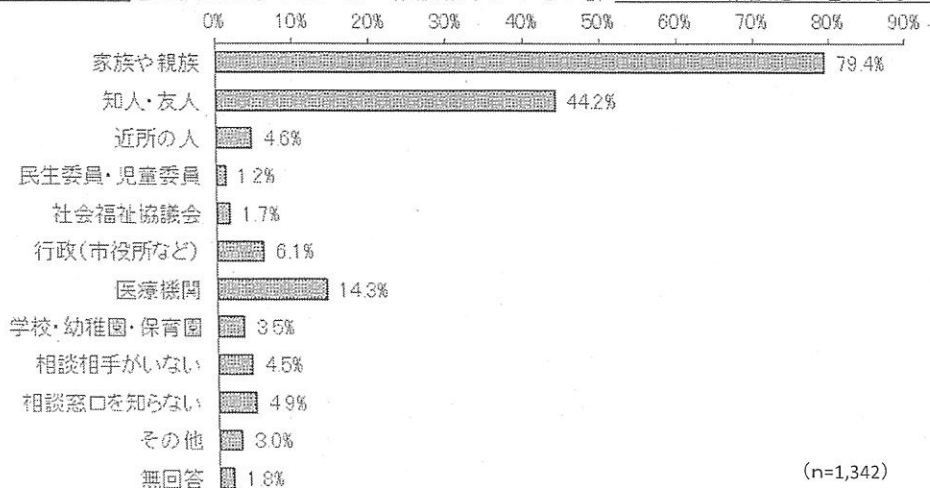
・「相談相手がいない」を選択した方の割合を年代比較すると20歳代が一番高い(6.3%)。

・「相談窓口を知らない」を選択した方の割合を年代比較すると70～74歳代が一番高く(8.3%)、次いで75歳以上(7.1%)。

⇒同居家族の状況別にみると、

・「介護を必要とする方がいる」を選択した方の7.1%が「相談相手がいない」、7.1%が「相談窓口を知らない」。

・「障害のある方がいる」を選択した方の8.8%が「相談相手がいない」、10.9%が「相談窓口を知らない」。



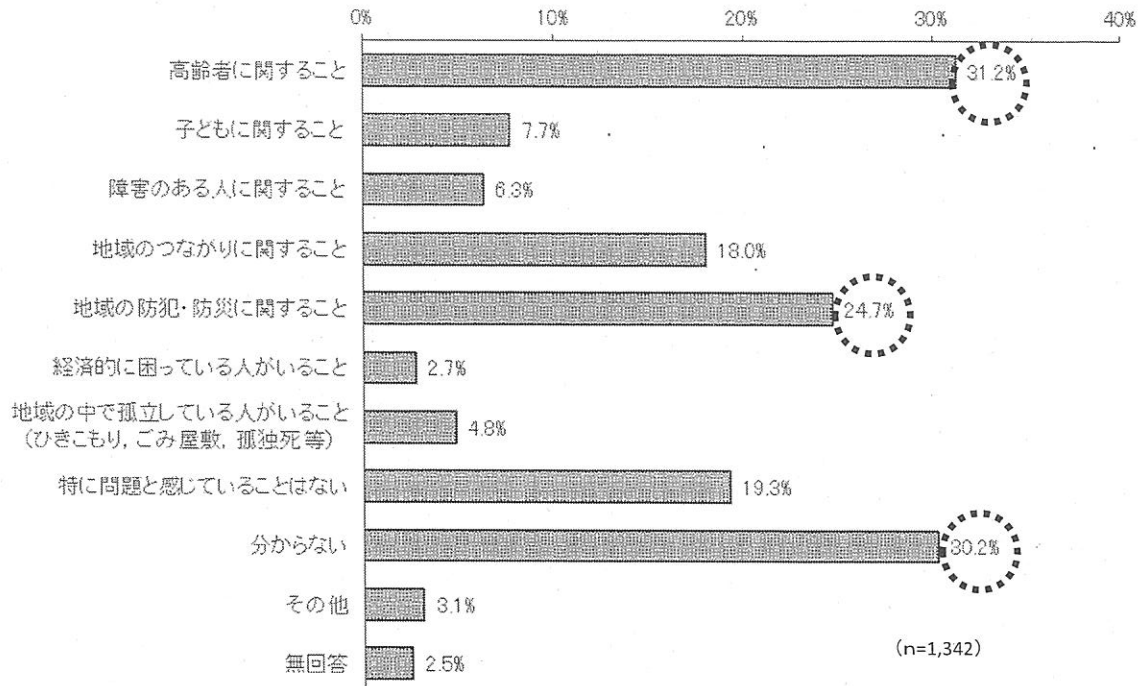
33

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【地域の生活課題(複数回答)】⇒報告書P.25参照

「高齢者に関すること」が31.2%と最も高く、次いで「分からない」が30.2%、「地域の防犯・防災に関すること」が24.7%となっている。

⇒性別でみると、「分からない」と回答した割合は男性では26.0%、女性では33.0%。



34

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【地域の生活課題×年齢】⇒報告書P.26参照

⇒年齢別でみると、

- ・「高齢者に関すること」は「70～74歳代」が40.3%、次いで「50歳代」が36%、「65歳～69歳」が32.5%、「75歳以上」が32.1%。
- ・「地域の防犯・防災に関すること」は「20歳代～50歳代」は約3割、「60歳代以上」は約2割。
- ・「特に問題と感じていることはない」は「60歳代」が約2割、「70歳代以上」が約3割。
- ・「分からない」は「60～64歳」が約4割、それ以外は2～3割。

	回答数	高齢者に関すること	子どもに関すること	障害のある人に関すること	地域のつながりに関すること	地域の防犯・防災に関すること	経済的に困っている人がいること	地域の中で孤立している人がいること (ひきこもり, ごみ屋敷, 孤独死等)	特に問題と感じていることはない	分からない	その他	無回答
20歳代	79	20.3	12.7	6.3	16.5	25.3	3.8	3.8	12.7	32.9	3.8	1.3
30歳代	153	25.5	16.3	3.9	14.4	25.5	3.9	5.9	17.0	34.6	5.2	1.3
40歳代	225	30.7	18.7	9.3	17.3	32.0	1.3	6.2	10.2	27.1	4.0	1.8
50歳代	172	36.0	5.2	7.6	20.9	30.2	5.8	5.2	14.0	32.6	5.2	1.2
60歳～64歳	109	24.8	4.6	3.7	16.5	19.3	1.8	1.8	22.0	43.1	1.8	1.8
65歳～69歳	151	32.5	2.6	5.3	22.5	18.5	3.3	5.3	21.9	33.8	2.6	1.3
70歳～74歳	144	40.3	2.1	6.3	20.8	18.1	2.8	5.6	25.7	20.1	2.1	3.5
75歳以上	296	32.1	1.4	5.7	15.2	23.6	1.0	4.1	26.7	27.0	1.0	5.1

(n=1,342)

35



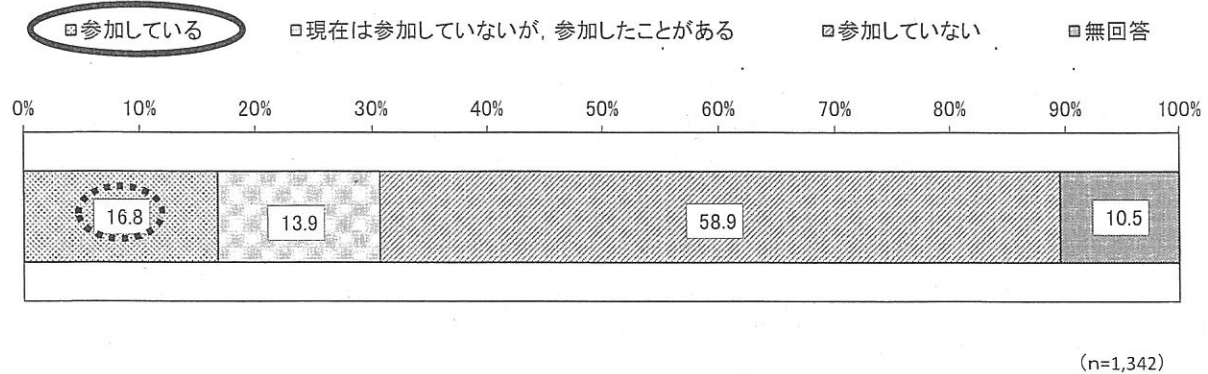
## 2 市民対象調査 結果詳細

指標(全体)

### 【地域活動・ボランティア活動への参加の有無】 ⇒ 報告書P.27・P.83参照

「参加していない」が58.9%と最も高く、次いで「参加している」が16.8%、「現在は参加していないが、参加したことがある」が13.9%となっている。

⇒性別で見ると、「参加している」方の性別では男性21.2%、女性14.1%と男性の参加者の割合が多い。  
⇒家族構成別にみると「単身」の方の7割が「参加していない」



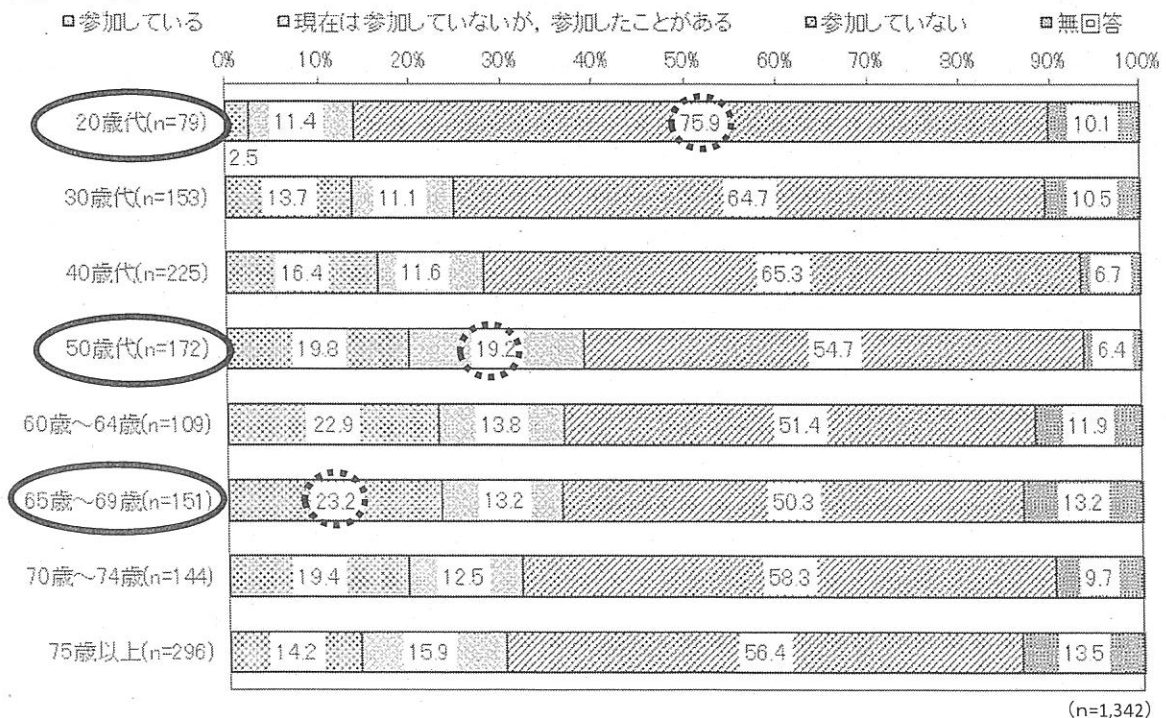
36

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【地域活動・ボランティア活動への参加の有無×年齢】 ⇒ 報告書P.27参照

年齢別で見ると、

- ・「参加している」と回答した方は、65～69歳の割合が23.2%と一番多く、次いで60～64歳が22.9%となっていた。
- ・「現在は参加していないが、参加したことがある」と回答した方は、50歳代が一番多く(19.2%)、次いで75歳以上となっていた(15.9%)。

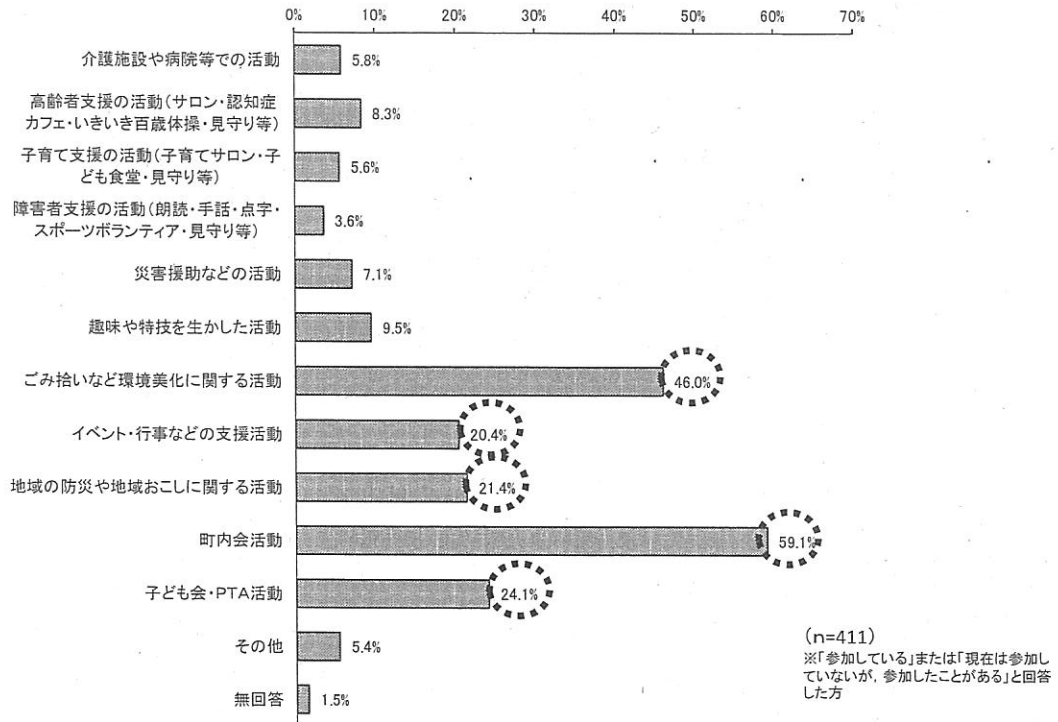


37

## 2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動・参加したことがある活動の内容(複数回答)】 ⇒ 報告書P.28参照

「町内会活動」が59.1%と最も高く、次いで「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」が46.0%、「子ども会・PTA活動」が24.1%、「地域の防災や地域おこしに関する活動」21.4%となっている。



38

## 2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動の内容・参加したことがある活動×性別】 ⇒ 報告書P.29参照

性別でみると、

・「町内会活動」については男性の61.5%が、女性の56.6%が参加している、または参加したことがあるとの回答。  
 ・「ごみ拾いなどの環境美化に関する活動」については男性の45.1%が、女性の46.9%が参加している、または参加したことがあるとの回答。

・男性の選択内容として「町内活動(61.5%)」、「ごみ拾いなど環境美化に関する活動(45.1%)」、「地域の防災や地域おこしに関する活動(25.8%)」、「イベント・行事などの支援活動(23.1%)」の順に多かった。

・女性の選択内容として「町内活動(56.6%)」、「ごみ拾いなど環境美化に関する活動(46.9%)」、「子ども会・PTA活動(32.7%)」、「イベント・行事などの支援活動(18.1%)」の順に多かった。

回答数	介護施設や病院等での活動	高齢者支援の活動(サロン・認知症カフェ・いきいき百歳体操・見守り等)	子育て支援の活動(子育てサロン・子ども食堂・見守り等)	障害者支援の活動(朗読・手話・点字・スポーツボランティア・見守り等)	災害援助などの活動	趣味や特技を生かした活動	ごみ拾いなど環境美化に関する活動	イベント・行事などの支援活動	地域の防災や地域おこしに関する活動	町内会活動	子ども会・PTA活動	その他	無回答
男性	182	2.7	3.8	3.3	2.7	7.7	45.1	23.1	25.8	61.5	13.7	7.1	1.6
女性	226	8.4	11.5	7.1	4.0	5.8	46.9	18.1	17.3	56.6	32.7	4.0	1.3

(n=411)  
※「参加している」または「現在は参加していないが、参加したことがある」と回答した方

39

## 2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動の内容×年齢】⇒報告書P.29参照

年齢別にみると

- ・20歳代、30歳代の回答内容としては、「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」がそれぞれ72.7%、47.4%。
- ・40歳代以降の回答内容としては「町内会活動」が5～6割となっている。
- ・40歳代の5割は「子ども会・PTA活動」と回答している。
- ・「町内会活動」の回答割合は60～64歳代が67.5%と一番多かった。
- ・「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」の回答割合は20歳代が72.7%と一番多かった。

	回答数	介護施設や病院等の活動	高齢者支援の活動(サロン・認知症カフェ・いきいき百歳体操・見守り等)	子育て支援の活動(子育てサロン・子ども食卓・見守り等)	障害者支援の活動(朗読・手話・点字・スポーツボランティア・見守り等)	災害援助などの活動	趣味や特技を生かした活動	ごみ拾いなど環境美化に関する活動	イベント・行事などの支援活動	地域の防災や地域おこしに関する活動	町内会活動	子ども会・PTA活動	その他	無回答
20歳代	11	9.1	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	72.7	27.3	27.3	36.4	9.1	0.0	0.0
30歳代	38	5.3	2.6	10.5	5.3	5.3	5.3	47.4	21.1	26.3	44.7	36.8	7.9	2.6
40歳代	63	3.2	3.2	4.8	3.2	3.2	0.0	49.2	25.4	12.7	61.9	50.8	3.2	0.0
50歳代	67	7.5	4.5	4.5	1.5	9.0	4.5	43.3	20.9	19.4	47.8	26.9	11.9	1.5
60歳～64歳	40	0.0	0.0	2.5	0.0	10.0	15.0	47.5	22.5	25.0	67.5	25.0	2.5	2.5
65歳～69歳	55	7.3	9.1	7.3	7.3	7.3	10.9	45.5	21.8	18.2	61.8	16.4	1.8	0.0
70歳～74歳	46	4.3	8.7	2.2	0.0	2.2	21.7	43.5	15.2	19.6	65.2	13.0	6.5	0.0
75歳以上	89	9.0	21.3	6.7	6.7	10.1	12.4	42.7	15.7	27.0	65.2	10.1	4.5	3.4

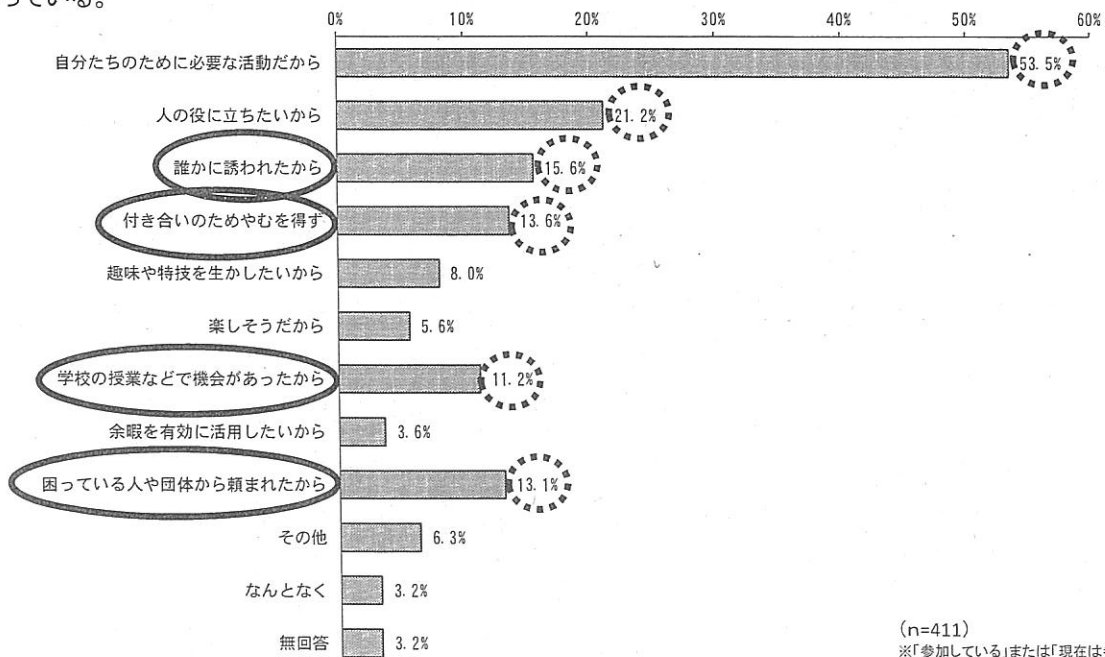
(n=411)  
※「参加している」または「現在は参加していないが、参加したことがある」と回答した方

40

## 2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動・参加したことがある活動に参加したきっかけ】⇒報告書P.30参照

「自分たちのために必要な活動だから」が53.5%と最も高く、次いで「人の役に立ちたいから(21.2%)」、「誰かに誘われたから(15.6%)」、「付き合いのためやむを得ず(13.6%)」、「困っている人や団体から頼まれたから(13.1%)」、「学校の授業などで機会があったから(11.2%)」の順で活動をしている人、活動をしたことのある人の参加のきっかけとなっている。



(n=411)  
※「参加している」または「現在は参加していないが、参加したことがある」と回答した方

41



## 2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動・参加したことがある活動に参加したきっかけ×性別】⇒報告書P.30参照

性別でみると、

- ・男性は女性よりも「付き合いのためやむを得ず」「困っている人や団体から頼まれたから」の割合が高い。
- ・女性は男性よりも「趣味や特技を生かしたいから」「学校の授業などで機会があったから」の割合が高い。

	回答数	自分たちのために必要な活動だから	人の役に立ちたいから	誰かに誘われたから	付き合いのためやむを得ず	趣味や特技を生かしたいから	楽しそうだから	学校の授業などで機会があったから	余暇を有効に活用したいから	困っている人や団体から頼まれたから	その他	なんとなく	無回答 (%)
男性	182	57.1	19.8	14.8	15.9	5.5	3.8	7.1	3.8	15.9	4.9	2.7	2.2
女性	226	50.4	21.7	16.4	11.9	10.2	7.1	14.6	3.5	11.1	7.5	3.5	4.0

(n=411)

※「参加している」または「現在は参加していないが、参加したことがある」と回答した方

42

## 2 市民対象調査 結果詳細

【参加している活動・参加したことがある活動に参加したきっかけ×年齢】⇒報告書P.31参照

年齢別にみると、

- ・20歳代は「人の役に立ちたいから(45.5%)」の回答が一番多く、次いで「自分たちのために必要な活動だから(36.4%)」「学校の授業などで機会があったから(36.4%)」となっている。

	回答数	自分たちのために必要な活動だから	人の役に立ちたいから	誰かに誘われたから	付き合いのためやむを得ず	趣味や特技を生かしたいから	楽しそうだから	学校の授業などで機会があったから	余暇を有効に活用したいから	困っている人や団体から頼まれたから	その他	なんとなく	無回答 (%)
20歳代	11	36.4	45.5	9.1	9.1	0.0	0.0	36.4	9.1	9.1	0.0	18.2	9.1
30歳代	38	42.1	21.1	18.4	13.2	2.6	10.5	15.8	2.6	7.9	13.2	5.3	0.0
40歳代	63	49.2	12.7	17.5	11.1	3.2	7.9	17.5	0.0	17.5	7.9	3.2	0.0
50歳代	67	44.8	20.9	22.4	17.9	6.0	1.5	14.9	0.0	11.9	9.0	3.0	3.0
60歳～64歳	40	57.5	7.5	12.5	27.5	10.0	7.5	12.5	5.0	2.5	5.0	0.0	7.5
65歳～69歳	55	50.9	27.3	7.3	20.0	10.9	1.8	9.1	9.1	20.0	5.5	1.8	0.0
70歳～74歳	46	58.7	26.1	19.6	2.2	13.0	4.3	4.3	2.2	19.6	6.5	2.2	2.2
75歳以上	89	66.3	23.6	13.5	9.0	11.2	7.9	3.4	5.6	11.2	2.2	3.4	6.7

(n=411)

※「参加している」または「現在は参加していないが、参加したことがある」と回答した方

43

## 2 市民対象調査 結果詳細

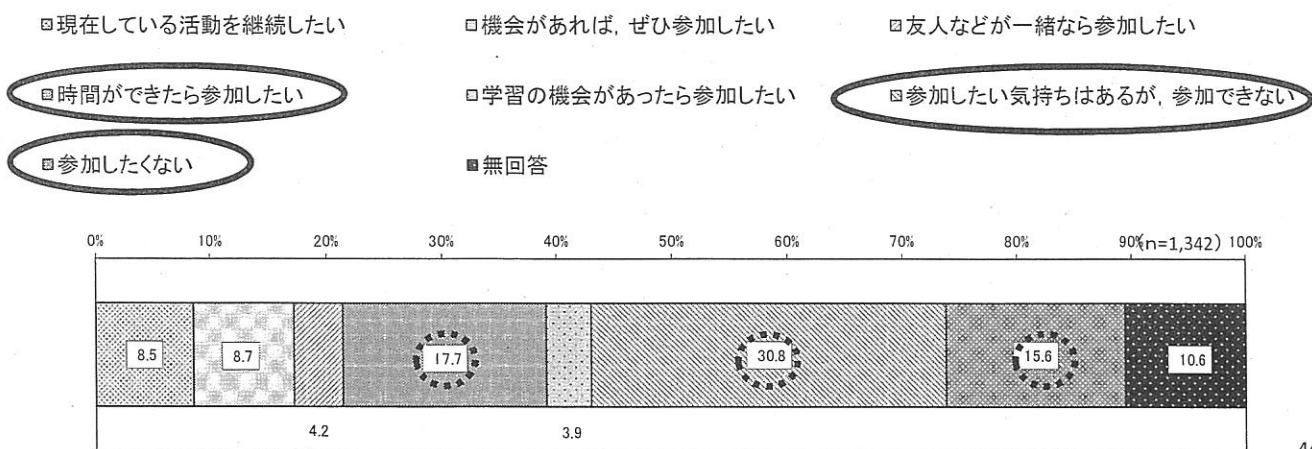
指標(基本目標1)

【今後の活動意向】 ⇒ 報告書P.32・P.87参照

「参加したい気持ちはあるが、参加できない」が30.8%と最も高く(前回調査の回答よりも12.9%増加)、次いで「時間ができたら参加したい」が17.7%(前回調査の回答よりも13.0%減少)、「参加したくない」が15.6%(前回調査の回答よりも6.1%増加)となっている。

⇒ 同居家族別にみると、「高校生以下の子どもがいる」世帯でも、約3割が「時間ができたら参加したい」と回答。

⇒ 経済別にみると、「大変苦しい」と回答した方でも、「参加したくない」は23.5%。「やや苦しい」と回答した方でも、「参加したくない」は11.9%。



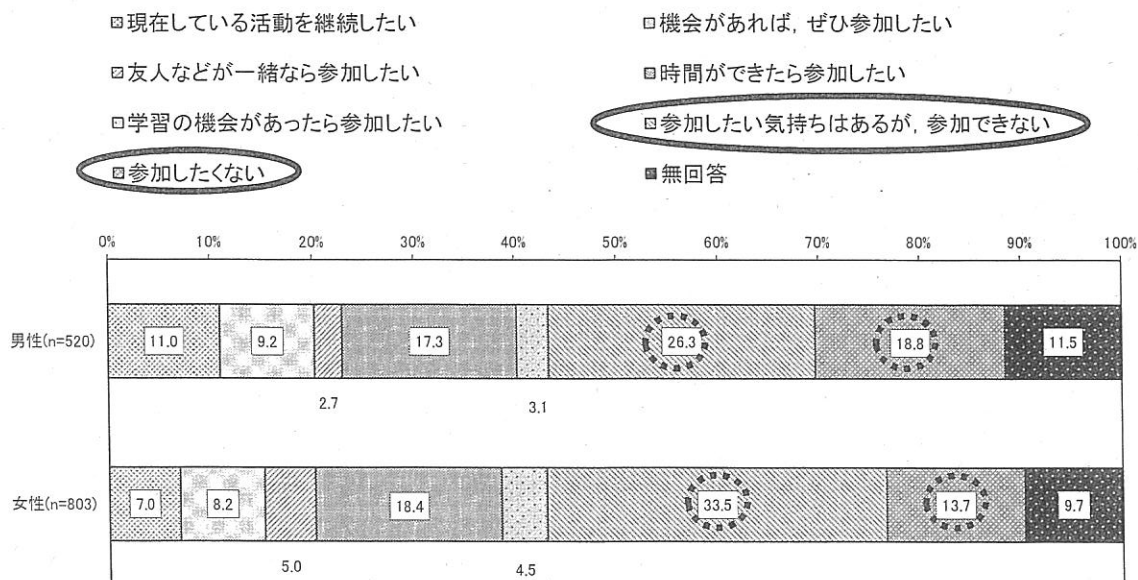
44

## 2 市民対象調査 結果詳細

【今後の活動意向 × 性別】 ⇒ 報告書P.32参照

性別でみると、

- ・「現在している活動を継続したい」については、男性11%、女性7%と男性の割合が多い。
- ・「友人などが一緒なら参加したい」については、男性2.7%、女性5.0%と女性の割合が多い。
- ・「参加したい気持ちはあるが、参加できない」については、男性26.3%、女性33.5%と女性の割合が多い。
- ・「参加したくない」については、男性18.8%、女性13.7%と男性の割合が高い。



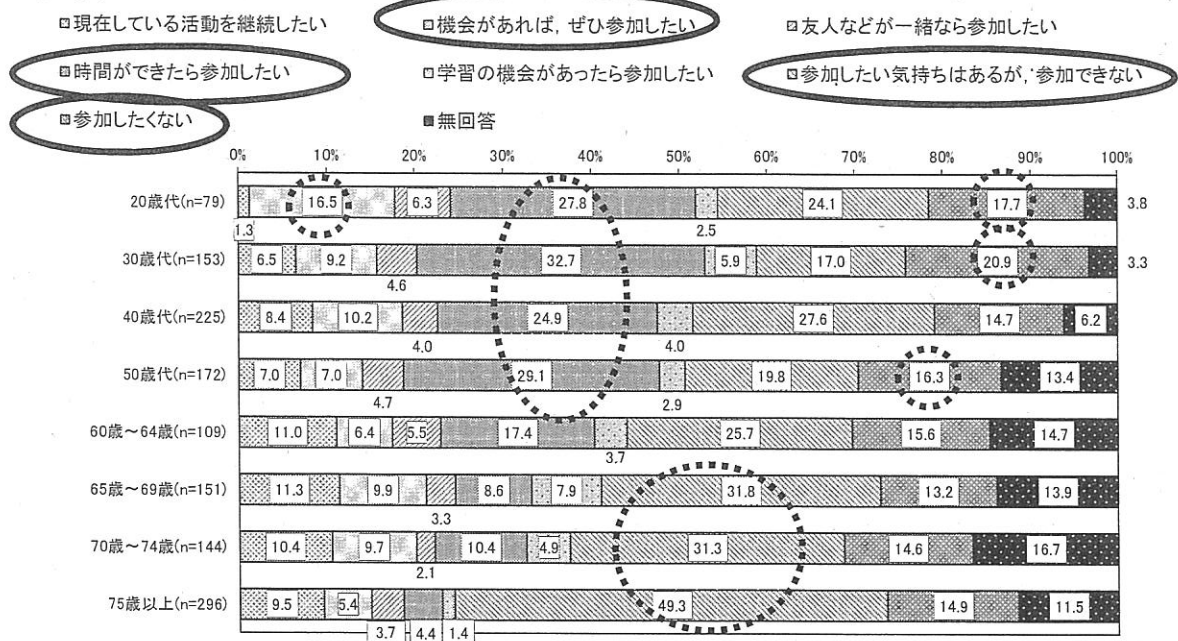
45

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【今後の活動意向×年齢】 ⇒ 報告書P.33参照

⇒年齢別にみると、

- ・「現在している活動を継続したい」という回答は、60歳以上はどの年齢層も約1割である。
- ・「機会があれば、ぜひ参加したい」という回答は、20歳代が一番割合が高く16.5%の回答がある。
- ・「時間ができたら参加したい」という回答は、20歳代～50歳代の約3割が回答している。
- ・「参加したい気持ちはあるが、参加できない」という回答は、65歳から3～4割が回答している。
- ・「参加したくない」という回答は、30歳代の割合が一番多く、20.9%。次いで20歳代が17.7%、50歳代が16.3%となっている。

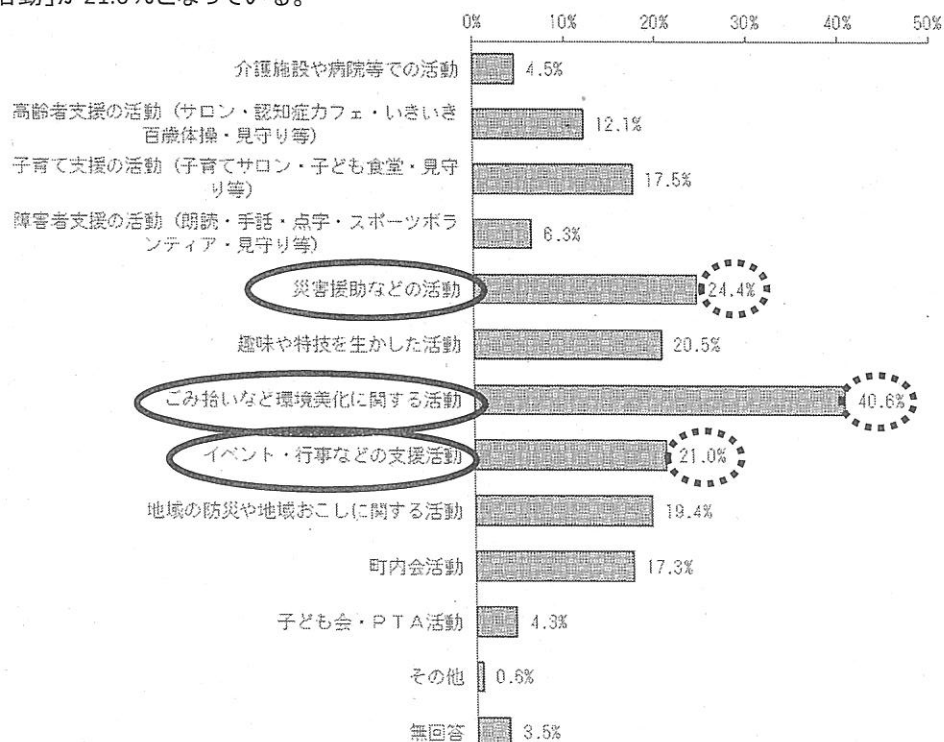


46

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【(活動意向のある方の)今後、参加してみたい活動内容(複数回答)】 ⇒ 報告書P.34参照

「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」が40.6%と最も高く、次いで「災害援助などの活動」が24.4%、「イベント・行事などの支援活動」が21.0%となっている。



(n=463)

47

## 2 市民対象調査 結果詳細

【(活動意向のある方の)今後、参加してみたい活動内容(複数回答)×年齢】

⇒報告書P.35参照

全ての年齢別で「ごみ拾いなど環境美化に関する活動」が最も高く、3～4割を占めている。70歳～74歳では「町内会活動」も同率で最も高くなっている。

⇒年齢別にみても

・20歳代で活動したい内容は「ごみ拾いなど環境美化に関する活動(47.6%)」、「子育て支援の活動(子育てサロン・子ども食堂・見守り等)(33.3%)」、「趣味や特技を生かした活動(28.6%)」、「イベント・行事などの支援活動(28.6%)」の順に多い。

・30歳代で活動したい内容は「ごみ拾いなど環境美化に関する活動(41.3%)」、「子育て支援の活動(子育てサロン・子ども食堂・見守り等)(32.5%)」、「イベント・行事などの支援活動(32.5%)」、「災害援助などの活動(27.5%)」の順に多い。

・60歳～64歳で活動したい内容は「ごみ拾いなど環境美化に関する活動(47.2%)」、「災害援助などの活動(25.0%)」、「町内活動(22.2%)」の順に多い。

48

## 2 市民対象調査 結果詳細

【(活動意向のある方の)今後、参加してみたい活動内容(複数回答)×年齢】

(%) ⇒報告書P.35参照

	回答数	介護施設や病院等での活動	高齢者支援の活動 (サロン・認知症力ついでいき百歳体操・見守り等)	子育て支援の活動 (子育てサロン・子ども食堂・見守り等)	障害者支援の活動 (朗読・手話・点字・スポーツ・ボランティア・見守り等)	災害援助などの活動	趣味や特技を生かした活動	ごみ拾いなど環境美化に関する活動	イベント・行事などの支援活動	地域の防災や地域おこしに関する活動	町内会活動	子ども会・PTA活動	その他	無回答
20歳代	42	11.9	14.3	33.3	2.4	21.4	28.6	47.6	28.6	11.9	4.8	2.4	0.0	0.0
30歳代	80	3.8	11.3	32.5	3.8	27.5	18.8	41.3	32.5	15.0	12.5	11.3	1.3	0.0
40歳代	97	4.1	8.2	13.4	12.4	30.9	23.7	38.1	19.6	26.8	13.4	7.2	0.0	1.0
50歳代	75	2.7	9.3	17.3	8.0	21.3	18.7	44.0	20.0	24.0	13.3	1.3	0.0	5.3
60歳～64歳	36	2.8	13.9	11.1	2.8	25.0	16.7	47.2	16.7	16.7	22.2	0.0	0.0	0.0
65歳～69歳	45	6.7	17.8	13.3	11.1	17.8	15.6	35.6	13.3	17.8	24.4	2.2	0.0	6.7
70歳～74歳	39	2.6	12.8	5.1	2.6	17.9	25.6	30.8	17.9	20.5	30.8	0.0	5.1	7.7
75歳以上	44	2.3	15.9	2.3	0.0	20.5	15.9	38.6	11.4	13.6	31.8	2.3	0.0	11.4

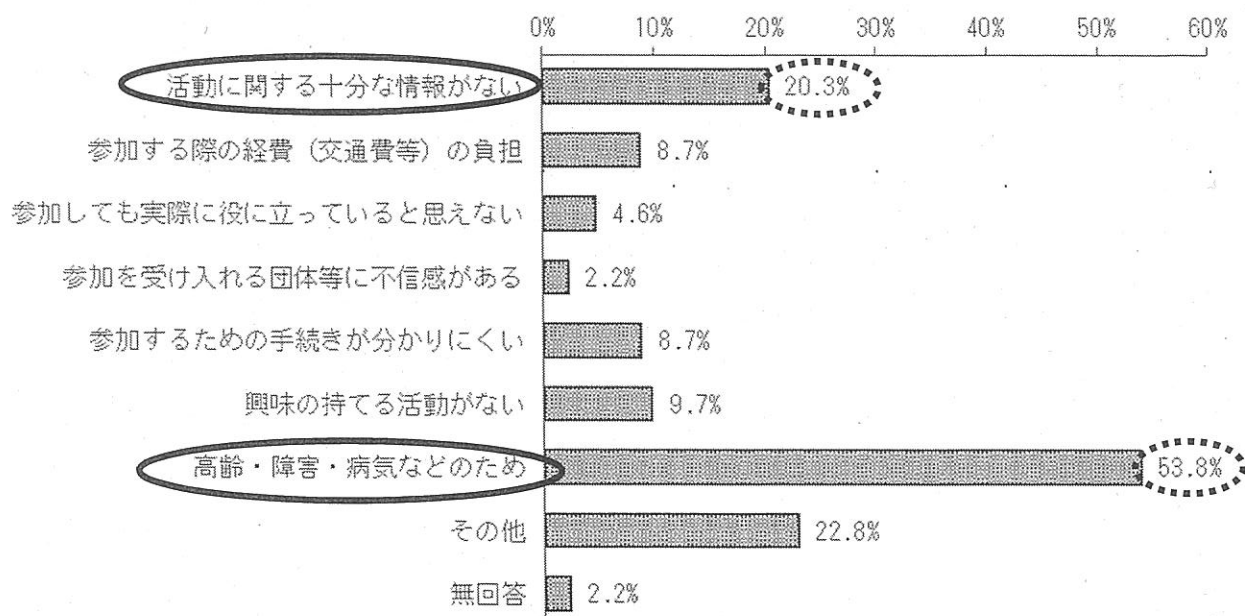
(n=463)

49

## 2 市民対象調査 結果詳細

【(活動意向はあるが参加できない方の)参加の妨げ(複数回答)] ⇒報告書P.36参照

「高齢・障害・病気などのため」が53.8%と最も高く、次いで「その他」が22.8%、「活動に関する十分な情報がない」が20.3%となっている。



(n=413)

50

## 2 市民対象調査 結果詳細

【(活動意向はあるが参加できない方の)参加の妨げ(複数回答) × 年齢】

⇒報告書P.37参照

年齢別でみると、

- ・50歳以上の選択項目が「一番多いものが「高齢・障害・病気などのため」である。50歳代～60歳代の約4割が、70～74歳の7割が、75歳以上の9割が選択している。
- ・20歳代と60～64歳の選択項目が「一番多いものが「活動に関する十分な情報がない(20歳代:52.6%)(60～64歳:42.9%)」
- ・20歳代の選択項目が二番目に多いものが「興味の持てる活動がない(31.6%)」、三番目に多いものが「参加するための手続きが分かりにくい(15.8%)」
- ・30歳代の選択項目の一番目に多いものが「その他(69.2%)」、次いで「活動に関する十分な情報がない(23.1%)」
- ・40歳代の選択項目の一番目に多いものが「その他(43.5%)」、次いで「活動に関する十分な情報がない(30.6%)」
- ・50歳代の選択項目の二番目に多いものが「活動に関する十分な情報がない(23.5%)」
- ・60～64歳の選択項目の一番目に多いものが「活動に関する十分な情報がない(42.9%)」と「高齢・障害・病気などのため(42.9%)」

51



## 2 市民対象調査 結果詳細

【(活動意向はあるが参加できない方の)参加の妨げ(複数回答)×年齢】

⇒報告書P.37参照

	回答数	活動に関する十分な情報がない	参加する際の経費(交通費等)の負担	参加しても実際に役に立っていないと思えない	参加を受け入れる団体等に不信感がある	参加するための手続きが分かりにくい	興味の持てない活動がない	高齢・障害・病気などのため	その他	無回答
20歳代	19	52.6	10.5	5.3	5.3	15.8	31.6	0.0	36.8	5.3
30歳代	26	23.1	15.4	7.7	3.8	15.4	7.7	7.7	69.2	0.0
40歳代	62	30.6	16.1	11.3	4.8	12.9	16.1	11.3	43.5	4.8
50歳代	34	23.5	17.6	0.0	5.9	8.8	5.9	35.3	35.3	0.0
60～64歳	28	42.9	14.3	0.0	3.6	3.6	14.3	42.9	32.1	0.0
65～69歳	48	29.2	6.3	4.2	0.0	10.4	14.6	43.8	27.1	2.1
70～74歳	45	24.4	8.9	6.7	2.2	15.6	4.4	71.1	4.4	2.2
75歳以上	146	2.1	2.1	2.1	0.0	3.4	4.8	91.8	3.4	2.1

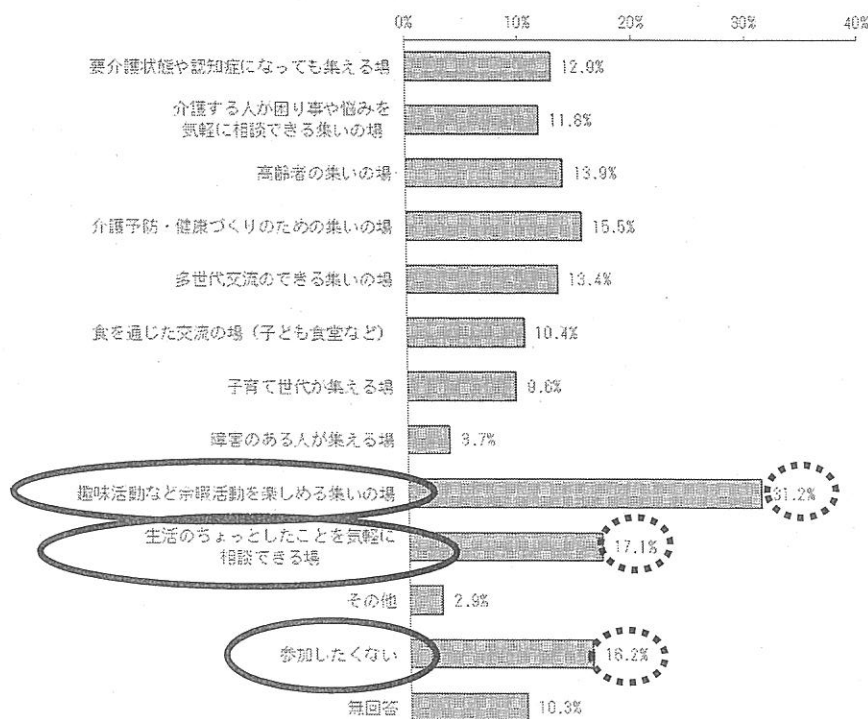
(n=413)

52

## 2 市民対象調査 結果詳細

【参加したい地域の集いの場(複数回答)】 ⇒報告書P.38参照

「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場」が31.2%と最も高く、次いで「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場」が17.1%、「参加したくない」が16.2%となっている。



(n=1,342)

53

## 2 市民対象調査 結果詳細

【参加したい地域の集いの場(複数回答)×性別】⇒報告書P.39参照

性別でみると、

・男性の参加したい集いの場は「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(32.1%)」「参加したくない(18.5%)」「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場(18.5%)」「多世代交流のできる集いの場(15.4%)」の順に多い回答であった。

・女性の参加したい集いの場は「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(31.0%)」「介護予防・健康づくりのための集い(17.8%)」「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場(16.3%)」の順に多い回答であった。

	回答数	要介護状態や認知症になっても集える場	介護する人が困り事や悩みを気軽に相談できる集いの場	高齢者の集いの場	介護予防・健康づくりのための集いの場	多世代交流のできる集いの場	食を通じた交流の場(子ども食堂など)	子育て世代が集える場	障害のある人が集える場	趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場	生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場	その他	参加したくない	無回答
男性	520	9.2	8.7	11.3	12.3	15.4	9.6	8.7	3.3	32.1	18.5	2.5	18.5	11.5
女性	803	15.3	13.7	15.4	17.8	12.2	11.1	10.5	4.1	31.0	16.3	3.1	14.4	9.5

(n=1,342)

54

## 2 市民対象調査 結果詳細

【参加したい地域の集いの場(複数回答)×年齢】⇒報告書P.39参照

年齢別でみると、

・20歳代～74歳までの各年代別で「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場」の回答が3割台を占めていた。

・75歳以上になると「高齢者の集い(28.0%)」がどの年代よりも割合が高かった。

	回答数	要介護状態や認知症になっても集える場	介護する人が困り事や悩みを気軽に相談できる集いの場	高齢者の集いの場	介護予防・健康づくりのための集いの場	多世代交流のできる集いの場	食を通じた交流の場(子ども食堂など)	子育て世代が集える場	障害のある人が集える場	趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場	生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場	その他	参加したくない	無回答
20歳代	79	7.6	8.9	3.8	5.1	10.1	17.7	22.8	3.8	36.7	21.5	3.8	17.7	3.8
30歳代	153	5.2	8.5	3.9	5.2	16.3	17.6	35.3	3.9	37.3	9.8	1.3	22.2	3.9
40歳代	225	7.1	13.8	4.4	9.8	19.1	19.6	18.2	4.4	30.7	21.3	4.4	14.2	6.7
50歳代	172	13.4	16.9	11.0	14.0	19.8	8.7	4.7	4.7	31.4	18.6	2.3	16.9	7.0
60歳～64歳	109	11.0	14.7	6.4	23.9	18.3	9.2	2.8	2.8	34.9	14.7	2.8	16.5	10.1
65歳～69歳	151	10.6	10.6	14.6	21.9	11.9	8.6	1.3	3.3	39.1	15.2	1.3	15.2	12.6
70歳～74歳	144	13.9	8.3	23.6	22.9	11.8	4.2	0.7	2.8	32.6	20.8	2.8	13.2	11.8
75歳以上	296	24.0	10.8	28.0	18.9	4.4	3.4	0.7	3.7	21.3	15.9	3.4	15.5	18.2

(n=1,342)

55

## 2 市民対象調査 結果詳細

---

### 【参加したい地域の集いの場(複数回答)×家族構成】⇒報告書P.92参照

⇒「単身」の世帯の方の「要介護状態や認知症になっても集える場」と回答する割合が、他の世帯の割合に比べて多かった(23.7%)。

### 【参加したい地域の集いの場(複数回答)×同居家族】⇒報告書P.92参照

⇒「介護を必要とする方がいる」世帯は「要介護状態や認知症になっても集える場(24.8%)」、「介護する人が困り事や悩みを気軽に相談できる集いの場(22.1%)」の順に多かった。  
⇒「障害のある方がいる」世帯は「要介護状態や認知症になっても集える場(21.9%)」「参加したくない(21.2%)」の順に多かった。

### 【参加したい地域の集いの場(複数回答)×経済】⇒報告書P.92参照

⇒「大変苦しい」世帯は「参加したくない」を選択する割合が他の経済状態に比べて多かった(25.9%)。次いで「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(19.9%)」「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場(16.9%)」の順に多かった。  
⇒「やや苦しい」世帯は他の経済状態の世帯の選択と同様で「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(33.2%)」、次いで「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場(19.9%)」、「介護予防・健康づくりのための集いの場(17.3%)」の順に多かった。

56

## 2 市民対象調査 結果詳細

---

### 【参加したい地域の集いの場(複数回答)×近所付き合いの程度】⇒報告書P.92参照

⇒「ほとんど付き合いはない」方は、「参加したくない(35.9%)」の選択が他の近所付き合いの程度の方より多かった。次いで「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(26.8%)」「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場(22.5%)」の順に多かった。  
⇒「近所にどんな人が住んでいるか知らない」方は、「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(40.0%)」を選択する方の割合が他の近所付き合いの程度の方より多かった。次いで「参加したくない(23.6%)」が多かった。

### 【参加したい地域の集いの場(複数回答)×地域での助け合いの現状】⇒報告書P.92参照

⇒地域での助け合いができているかどうかについて「そう思わない」と回答した方は「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(25.9%)」「参加したくない(21.7%)」「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場(19.6%)」の順に多かった。  
⇒「分からない」と回答した方は「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(27.6%)」「参加したくない(25.3%)」「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場(14.9%)」の順に多かった。

57



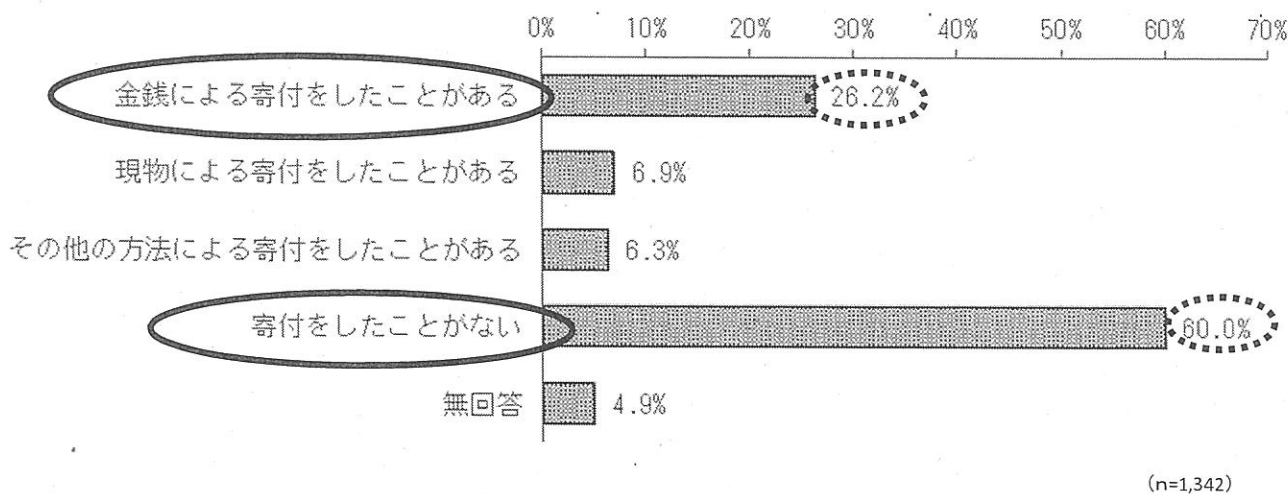
## 2 市民対象調査 結果詳細

【福祉目的の寄付経験の有無(複数回答)】 ⇒ 報告書P.41、42、94参照

「寄付をしたことがない」が60.0%と最も高く、6割を占めている。次いで「金銭による寄付をしたことがある」が26.2%、「現物による寄付をしたことがある」が6.9%となっている。

⇒年齢別で見ると、20歳代～30歳代の約2割の方が、40歳代以上の約3割の方が「金銭による寄付をしたことがある」と回答。

⇒経済別で見ると、「大変苦しい」「やや苦しい」世帯の方の約2割が「金銭による寄付をしたことがある」と回答。

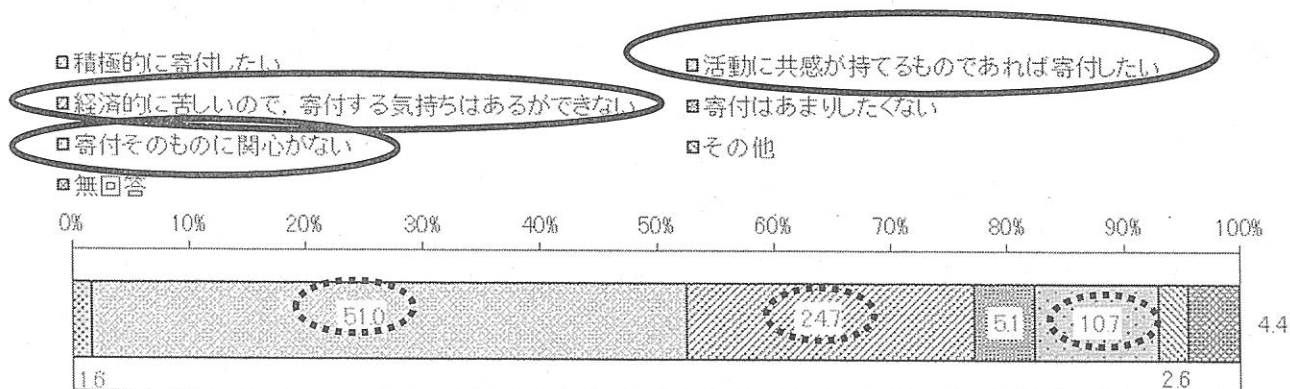


58

## 2 市民対象調査 結果詳細

【福祉目的の寄付に対する考え】 ⇒ 報告書P.42参照

「活動に共感が持てるものであれば寄付したい」が51.0%と最も高く、次いで「経済的に苦しいので、寄付する気持ちはあるができない」が24.7%、「寄付そのものに関心がない」が10.7%となっている。



59

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【福祉目的の寄付に対する考え×年齢】 ⇒報告書P.43参照

⇒年代別にみると70歳以上と60歳～64歳の年代が「積極的に寄付したい」「活動に共感が持てるものであれば寄付したい」のあわせた回答が低かった。

### 【福祉目的の寄付に対する考え×同居家族】 ⇒報告書P.96参照

⇒「高校生以下の子どもがいる」世帯で約6割の方が「活動に共感が持てるものであれば寄付したい」と回答。他の同居家族の状況と比較して一番多かった。

### 【福祉目的の寄付に対する考え×経済別】 ⇒報告書P.96参照

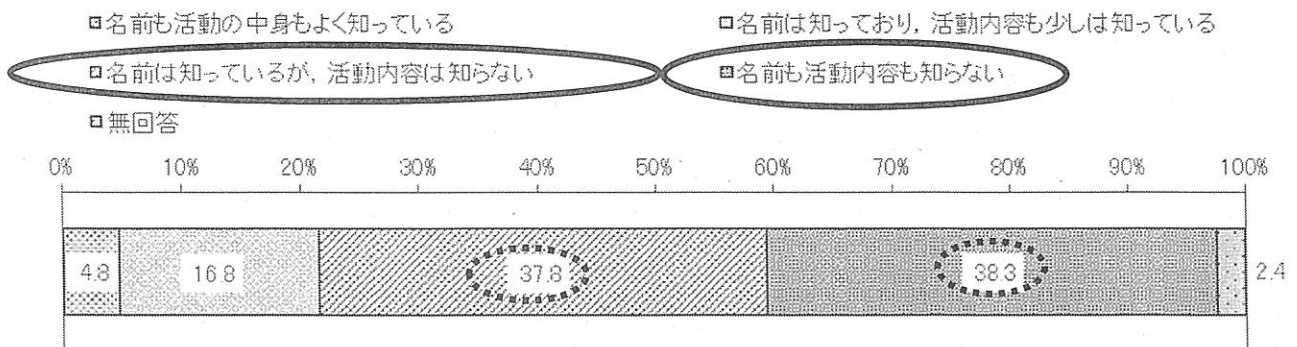
⇒「大変苦しい」世帯の方の約5割の方が、「やや苦しい」世帯の方の約4割の方が「経済的に苦しいので、寄付する気持ちはあるができない」と回答。

60

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【市社協の周知度】 ⇒報告書P.44参照

「名前も活動内容も知らない」が38.3%、次いで「名前は知っているが、活動内容は知らない」が37.8%、「名前は知っており、活動内容も少しは知っている」が16.8%、「名前は知っており、活動内容も少しは知っている」が16.8%となっている。



(n=1,342)

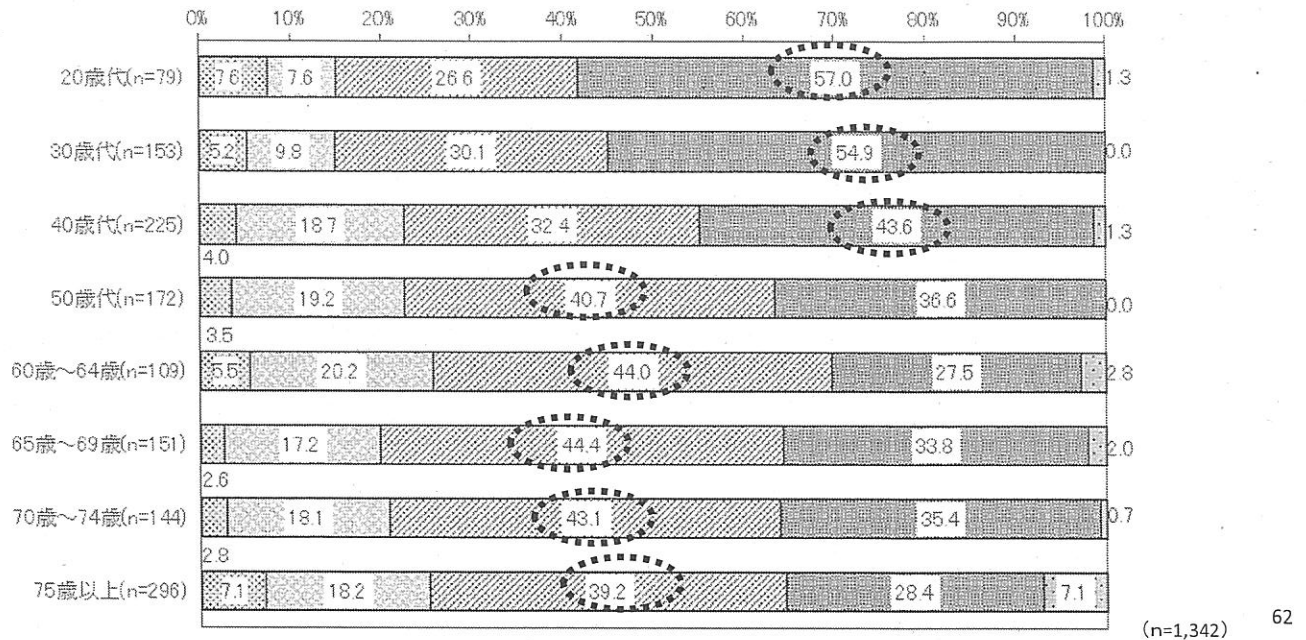
61

## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【市社協の周知度×年齢】 ⇒ 報告書P.45参照

⇒20歳代, 30歳代, 40歳代では, 「名前も活動内容も知らない」が最も多く, 4~5割を占めている。  
 ⇒50歳代以上では, 「名前は知っているが, 活動内容は知らない」が最も高く, 3~4割を占めている。

- 名前も活動の中身もよく知っている
- 名前は知っているが, 活動内容は知らない
- 無回答
- 名前は知っており, 活動内容も少しは知っている
- 名前も活動内容も知らない



## 2 市民対象調査 結果詳細

### 【市社協の周知度×地域活動・ボランティア活動への参加の有無】 ⇒ 報告書P.98参照

⇒「参加している」と回答した方は, 「名前は知っているが, 活動内容は知らない(42.7%)」「名前は知っており活動内容も少しは知っている(28.4%)」「名前も活動内容も知らない(17.3%)」の順に多かった。  
 ⇒「現在は参加していないが, 参加したことがある」と回答した方は, 「名前は知っているが, 活動内容は知らない(39.2%)」「名前も活動内容も知らない(26.9%)」「名前は知っており活動内容も少しは知っている(24.2%)」の順に多かった。  
 ⇒「参加していない」と回答した方は, 「名前も活動内容も知らない(46.5%)」「名前は知っているが, 活動内容は知らない(36.2%)」

### 【市社協の周知度×活動を阻害する要因】 ⇒ 報告書P.98参照

⇒「活動に関する十分な情報がない」と回答した方の約4割が「名前も活動内容も知らない(42.9%)」「名前は知っているが, 活動内容は知らない(38.1%)」と回答。  
 ⇒「興味の持てない活動がない」と回答した方の約6割が「名前も活動内容も知らない(65.0%)」「名前は知っているが, 活動内容は知らない(22.5%)」と回答。

### 【市社協の周知度×福祉目的の寄付経験の有無】 ⇒ 報告書P.98参照

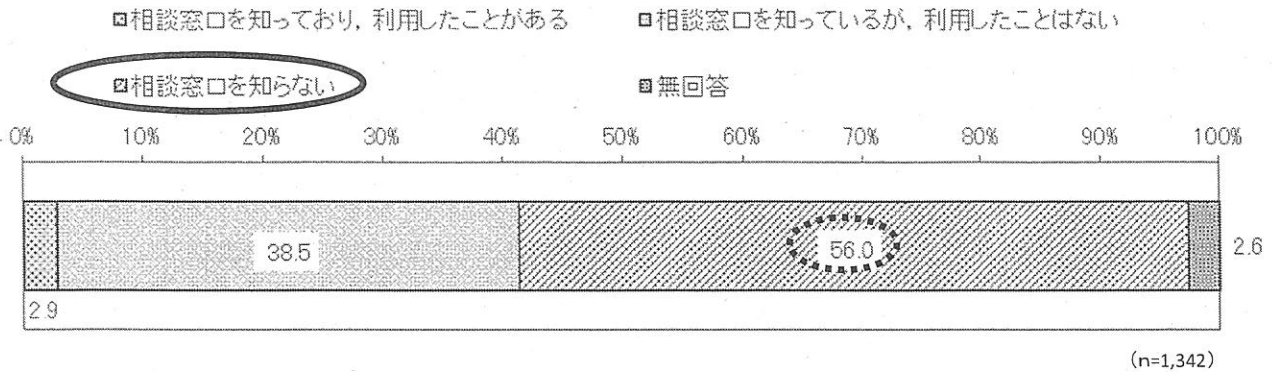
⇒「金銭による寄付をしたことがある」と回答した方の約4割が「名前は知っているが, 活動内容は知らない(35.8%)」, 約3割が「名前も活動内容も知らない(30.1%)」と回答。  
 ⇒「現物による寄付をしたことがある」と回答した方の約3割が「名前は知っており, 活動内容も少しは知っている(30.4%)」「名前は知っているが, 活動内容は知らない(29.3%)」と回答。  
 ⇒「寄付をしたことがない」と回答した方の約4割が「名前も活動内容も知らない(45.1%)」と回答。

## 2 市民対象調査 結果詳細

【生活支援相談センターの周知度】 ⇒ 報告書P.48参照

「相談窓口を知らない」が56.0%と最も高く、次いで「相談窓口を知っているが、利用したことはない」が38.5%、「相談窓口を知っており、利用したことがある」が2.9%となっている。ここ

⇒どの経済状態の方でも5~6割の方が「窓口を知らない」と回答。「大変苦しい」方の割合が一番高く59.6%だった。

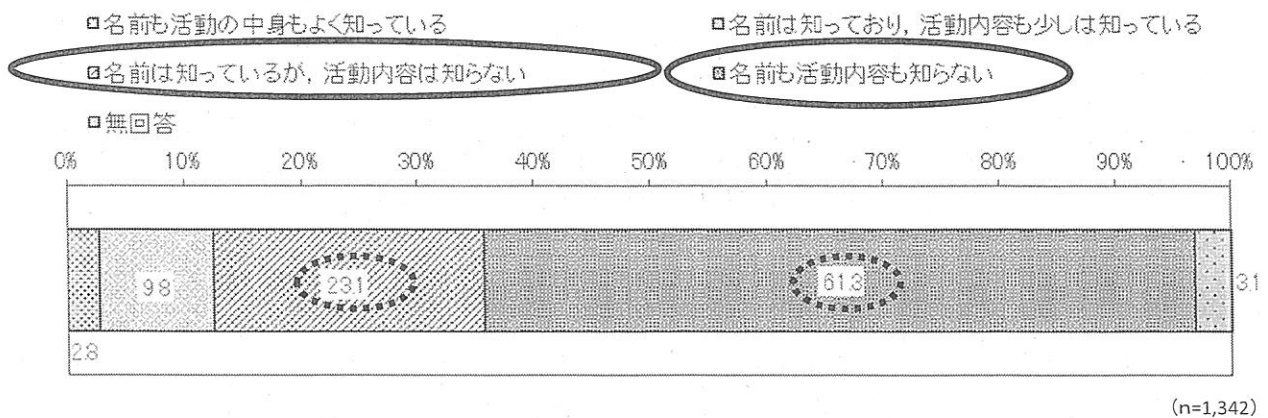


64

## 2 市民対象調査 結果詳細

【地区社会福祉協議会の周知度】 ⇒ 報告書P.46参照

「名前も活動内容も知らない」が61.3%と最も高く、6割を占めている。次いで「名前は知っているが、活動内容は知らない」が23.1%、「名前は知っており、活動内容も少しは知っている」が9.8%となっている。



65

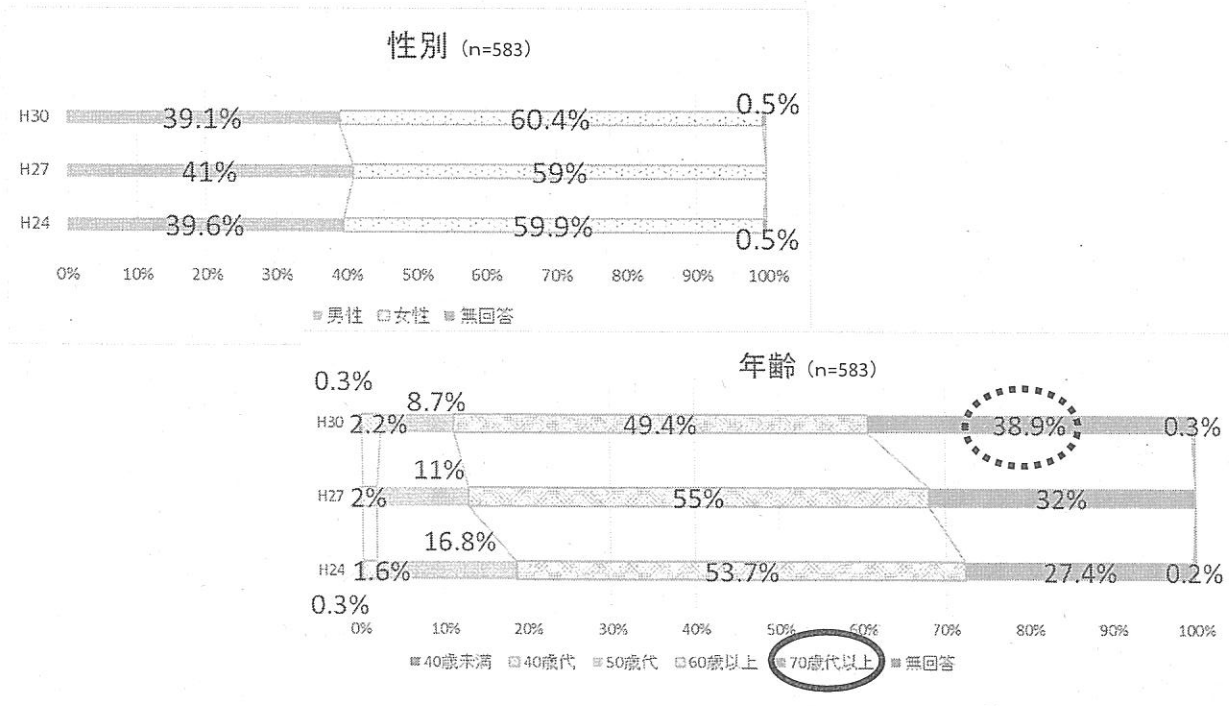
# 3 民生委員・児童委員対象調査

## 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

【性別】【年齢】⇒資料②P.1参照

【性別】は男性が約4割，女性が6割と平成24年度，平成27年度，平成30年度では同様の傾向であった。

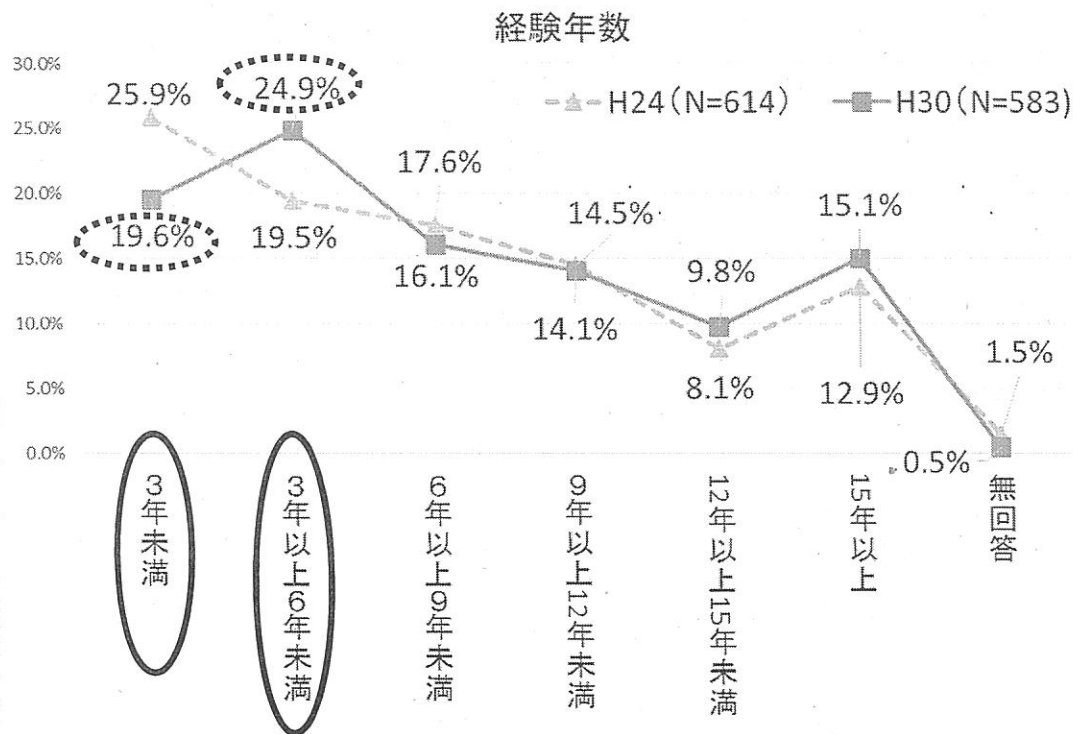
【年齢】は50歳代の回答が8.7%（平成24年度と比較して8.1%減少），60歳代の回答が49.4%（平成24年度と比較して4.3%減少）と初回の調査と比べ減少している。一方，70歳以上の回答が38.9%と初回の調査と比べ11.5%増加している。



### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

【民生委員・児童委員の経験年数】⇒資料②P.2参照

平成24年度調査時と比較すると、3年未満は19.6%となっており、6.3%減少している。3年以上6年未満は24.9%となっており、5.4%増加している。その他の経験年数は平成24年度と同様となっている。

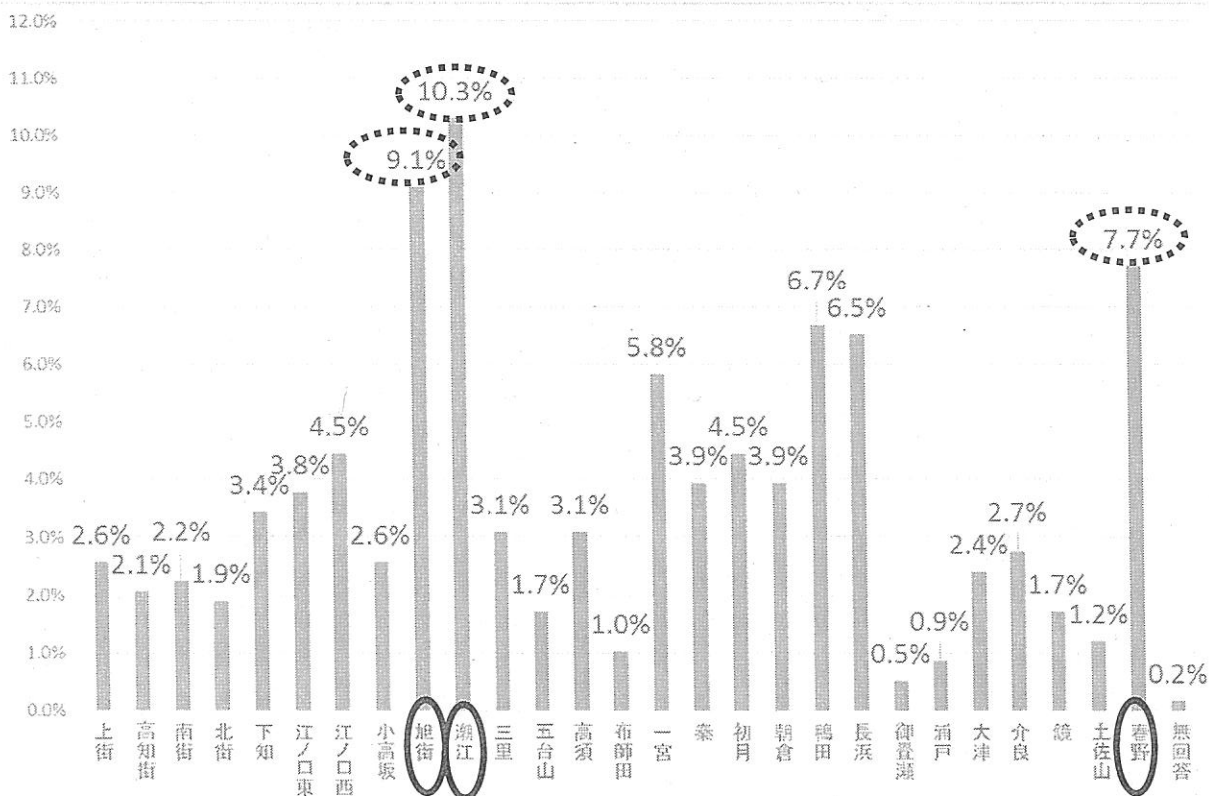


68

### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

【担当区域】⇒資料②P.3参照

回答率は「潮江(10.3%)」、「旭街(9.1%)」、「春野(7.7%)」の順で高かった。



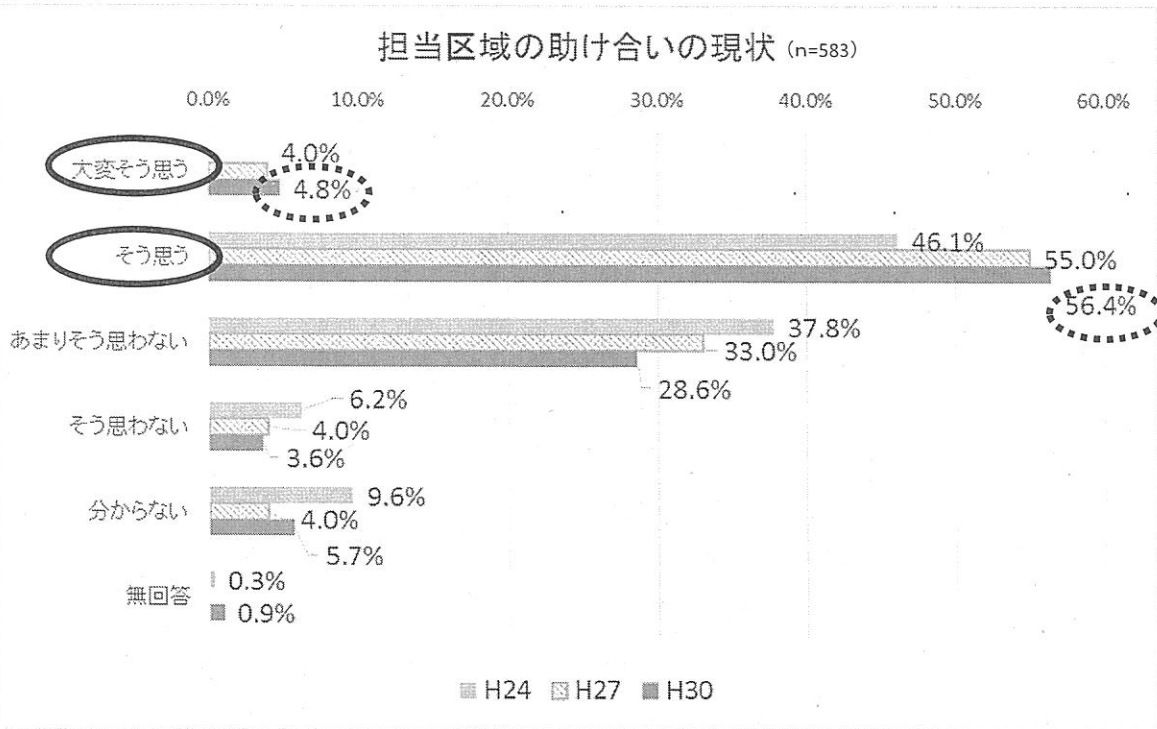
69



### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

【地域での助け合いの現状】⇒資料②P.4参照

「大変そう思う(4.8%)」と「そう思う(56.4%)」を足した割合は61.2%と6割である(平成24年度調査と比較すると15.1%増加)。

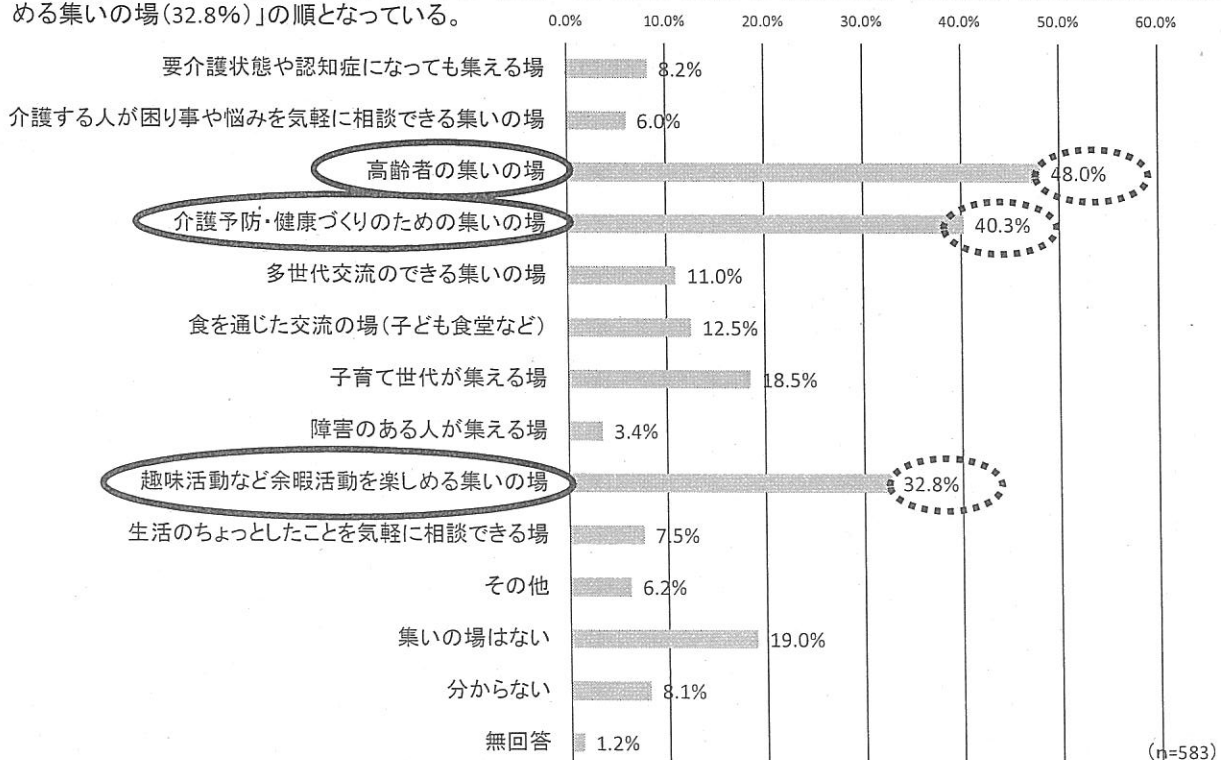


70

### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

【既存の集いの場の内容(複数回答)】⇒資料②P.4参照

「高齢者の集いの場(48.0%)」「介護予防・健康づくりのための集いの場(40.3%)」「趣味活動など余暇活動を楽しむ集いの場(32.8%)」の順となっている。



(n=583)

71

### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

【今後必要と思われる集いの場の内容(複数回答)】⇒資料②P.5参照

「多世代交流のできる集いの場(30.2%)」「高齢者の集いの場(27.4%)」「介護する人が困りごとや悩みを気軽に相談できる集いの場(25.6%)」「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場(24.7%)」の順となっている。

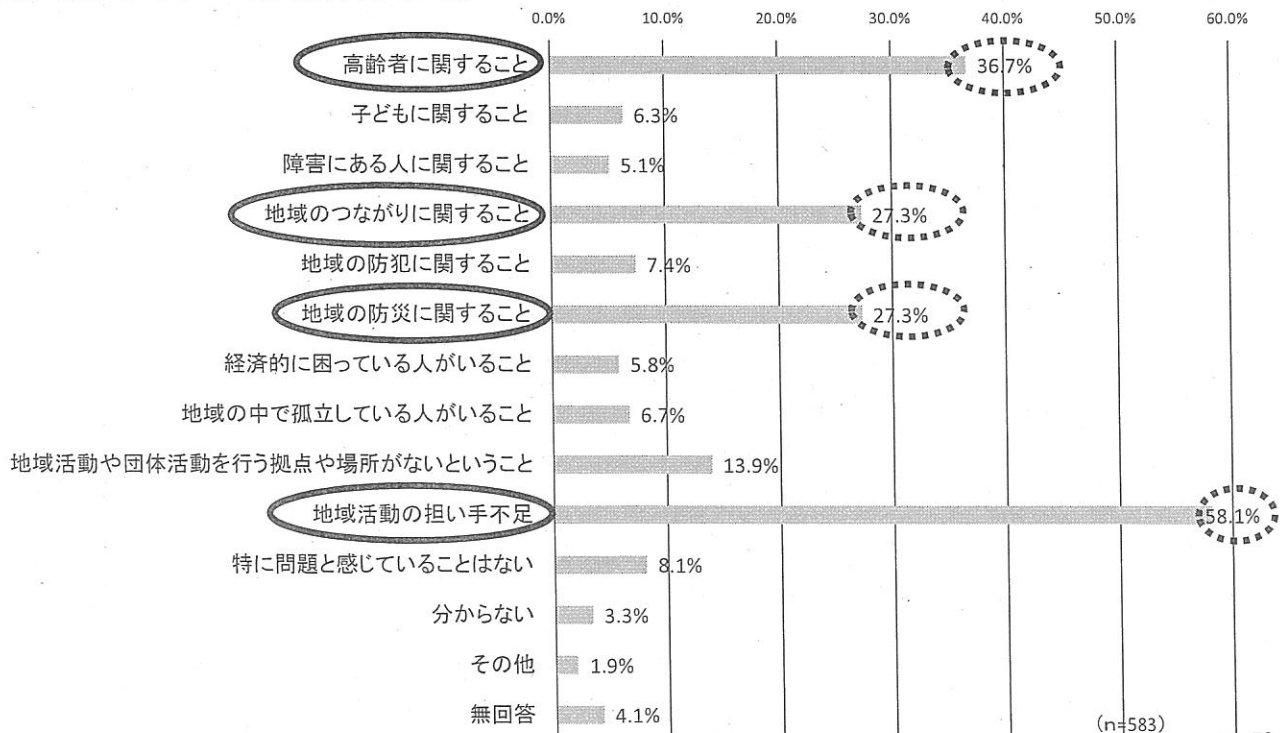


72

### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

【担当区域の生活課題について(複数回答)】⇒資料②P.6参照

「地域活動の担い手不足(58.1%)」「高齢者に関すること(36.7%)」「地域の防犯に関すること(27.3%)」「地域の防災に関すること(27.3%)」の順となっている。

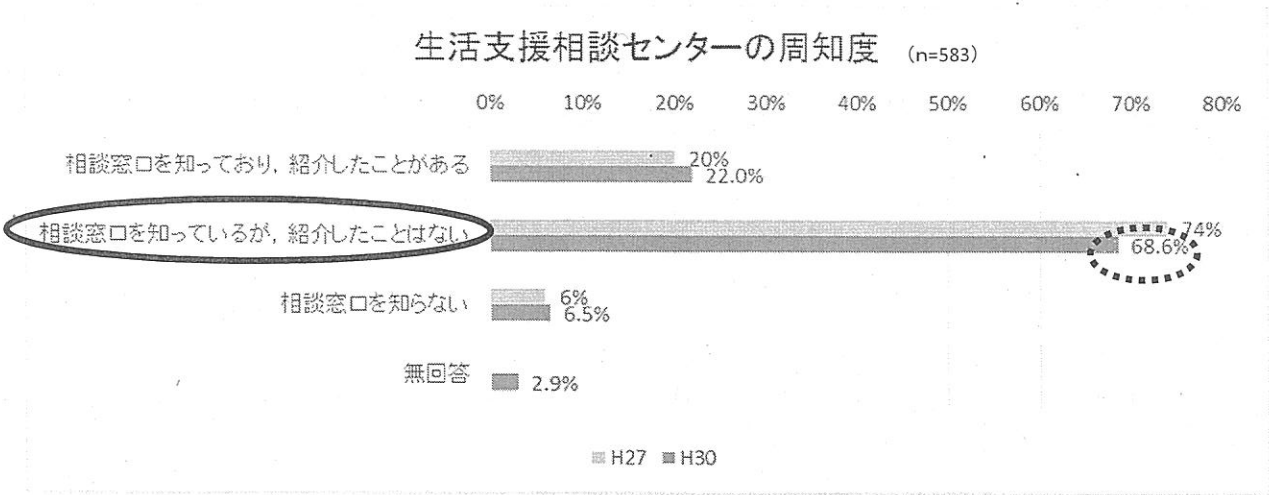


73

### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

【生活支援相談センターの周知度】 ⇒資料②P.7参照

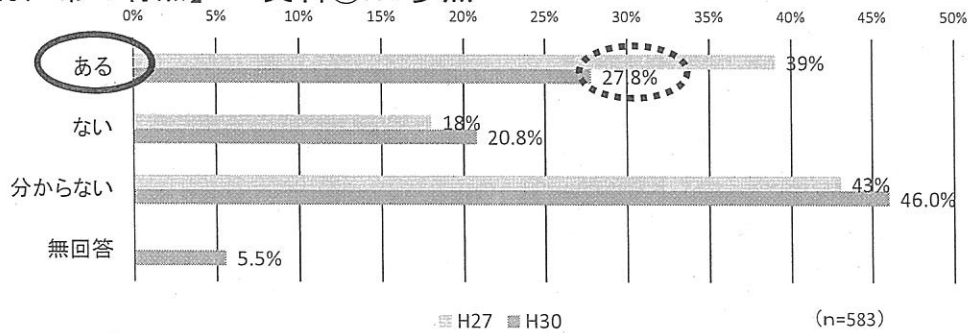
「相談窓口を知っているが、紹介したことはない(68.6%)」が最も高く、次いで「相談窓口を知っており、紹介したことがある」が22.0%(平成27年度調査と比較すると2.0%増加)となっている。



### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

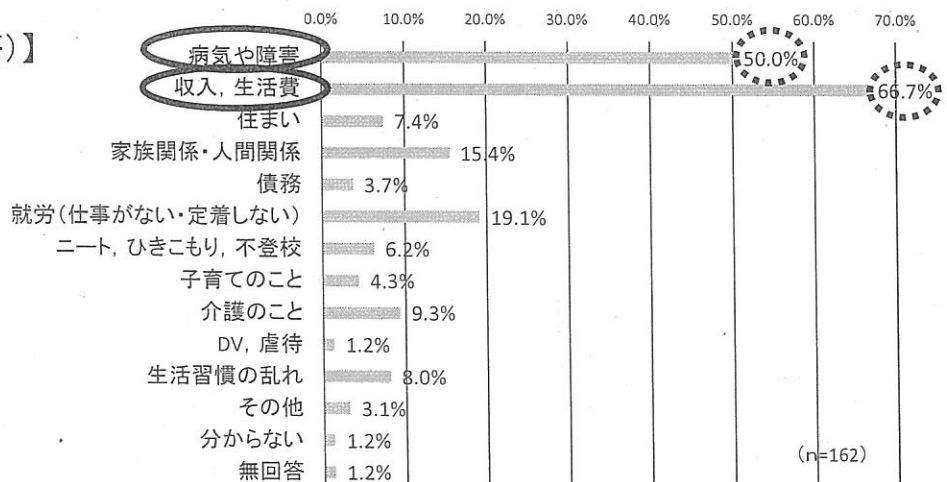
【担当区域の生活困窮世帯の有無】 ⇒資料②P.7参照

「ある」と回答した方は27.8%(平成27年度調査と比較すると11.2%減少)となっている。



【困窮内容(複数回答)】 ⇒資料②P.7参照

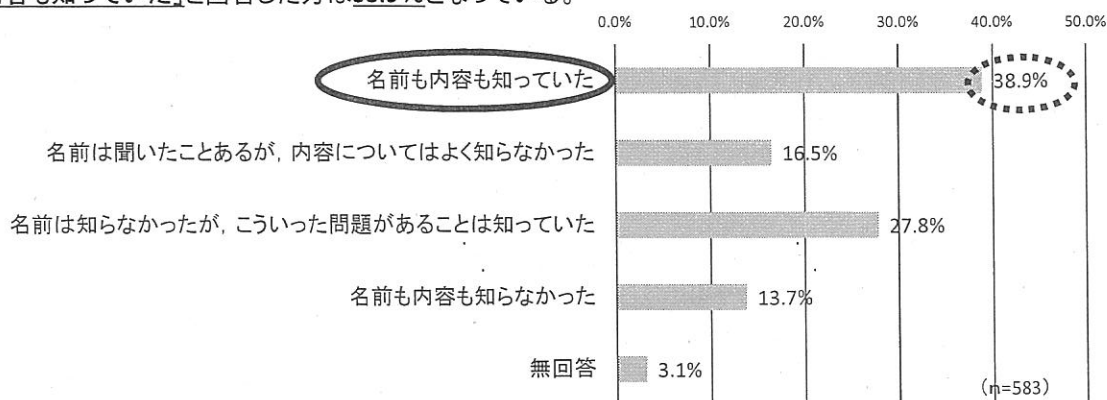
「収入、生活費」が66.7%、「病気や障害」が50.0%、「就労(仕事がない・定着しない)」が19.1%となっている。



### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

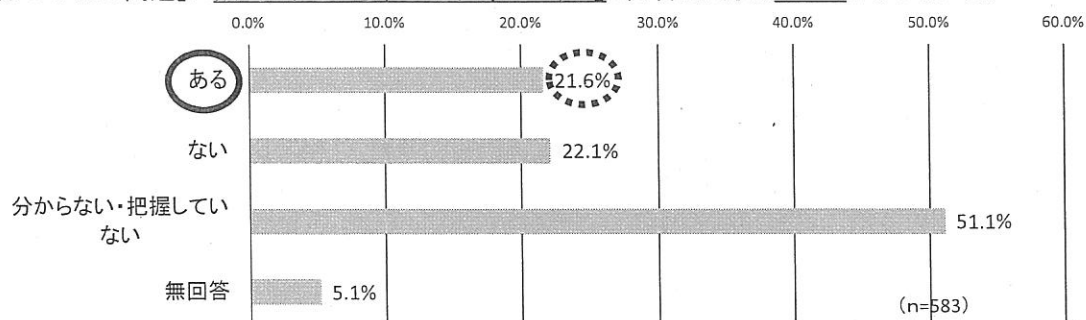
【「8050問題」の周知度】⇒資料②P.8参照

「名前も内容も知っていた」と回答した方は38.9%となっている。



【担当区域の「8050問題」世帯の把握】⇒資料②P.8参照

担当区域に「8050問題」に該当すると思われる世帯が「ある」と回答した方は21.6%となっている。

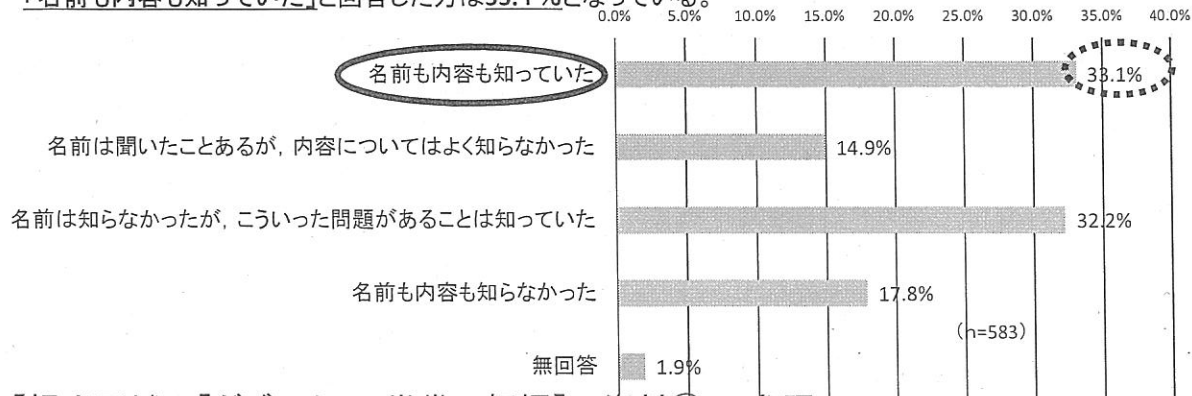


76

### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

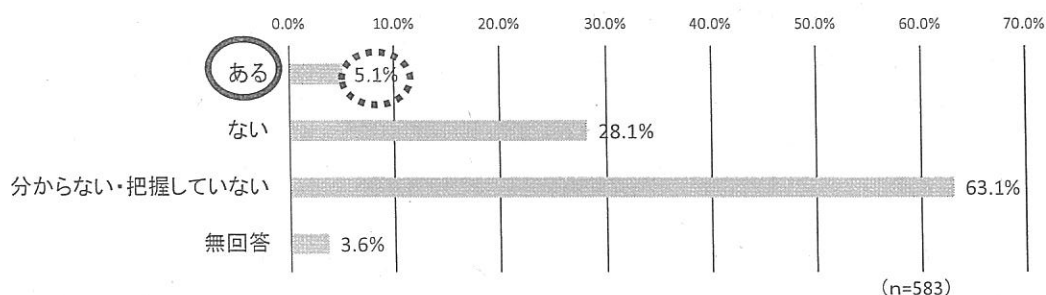
【「ダブルケア」問題の周知度】⇒資料②P.9参照

「名前も内容も知っていた」と回答した方は33.1%となっている。



【担当区域の「ダブルケア」世帯の把握】⇒資料②P.9参照

担当区域に「ダブルケア」に該当すると思われる世帯が「ある」と回答した方は5.1%となっている。



77

### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

【担当区域の「ごみ屋敷」世帯の把握】⇒資料②P.10参照

担当区域に「ごみ屋敷」に該当と思われる世帯が「ある」と回答した方は21.4%となっている。

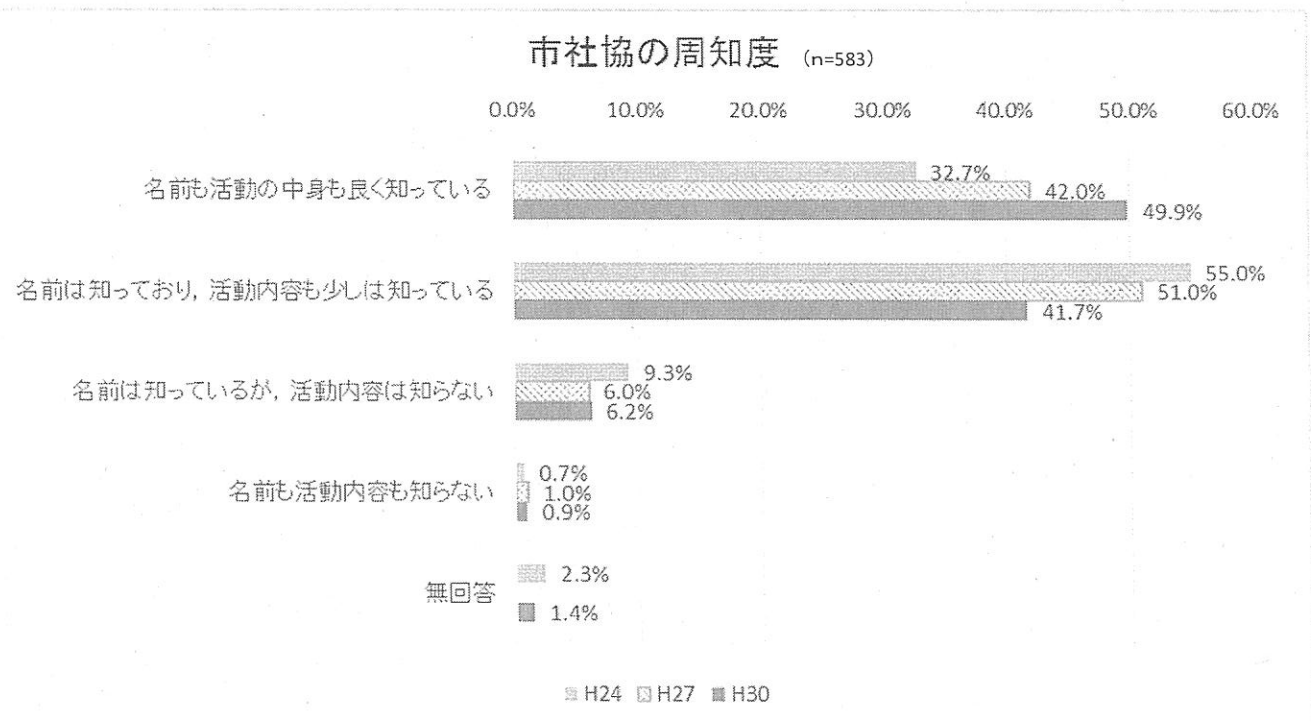


78

### 3 民生委員・児童委員対象調査 結果詳細

【市社協の周知度】⇒資料②P.10参照

「名前も活動の中身も良く知っている」が49.9%（平成24年度調査と比較すると17.2%増加）、次いで「名前は知っており、活動内容も少しは知っている」が41.7%となっている。



79

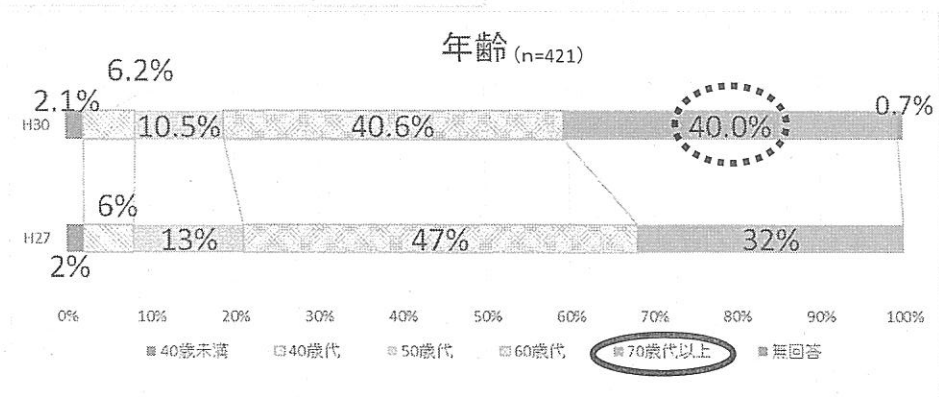
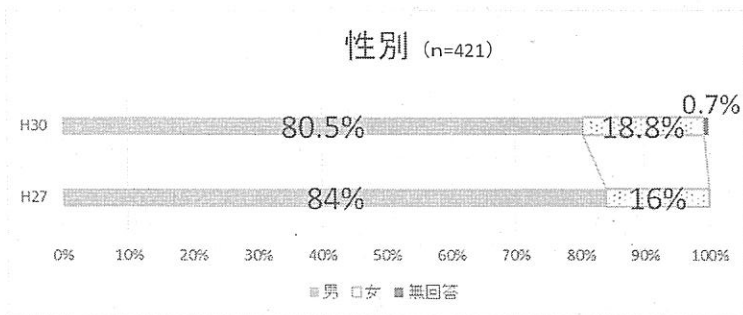
# 4 町内会長・自治会長対象調査

## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【性別】【年齢】 ⇒資料③P.1参照

【性別】は男性が約8割，女性が約2割と平成27年度，平成30年度では同様の傾向であった。

【年齢】は50歳代の回答が10.5%（平成27年度と比較して2.5%減少），60歳代の回答が40.6%（平成27年度と比較して6.4%減少）と初回の調査と比べ減少している。一方，70歳以上の回答が40.0%と初回の調査と比べ8.0%増加している。

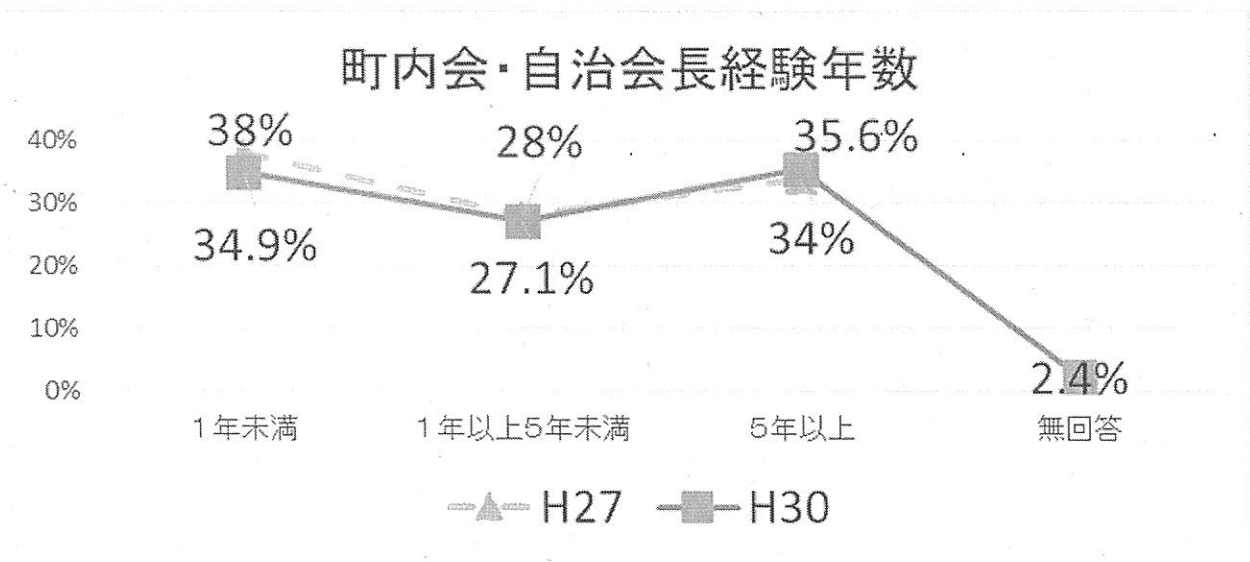




## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【町内会長・自治会長の経験年数】⇒資料③P.2参照

平成27年度調査時と比較すると、経験年数は同様となっている。

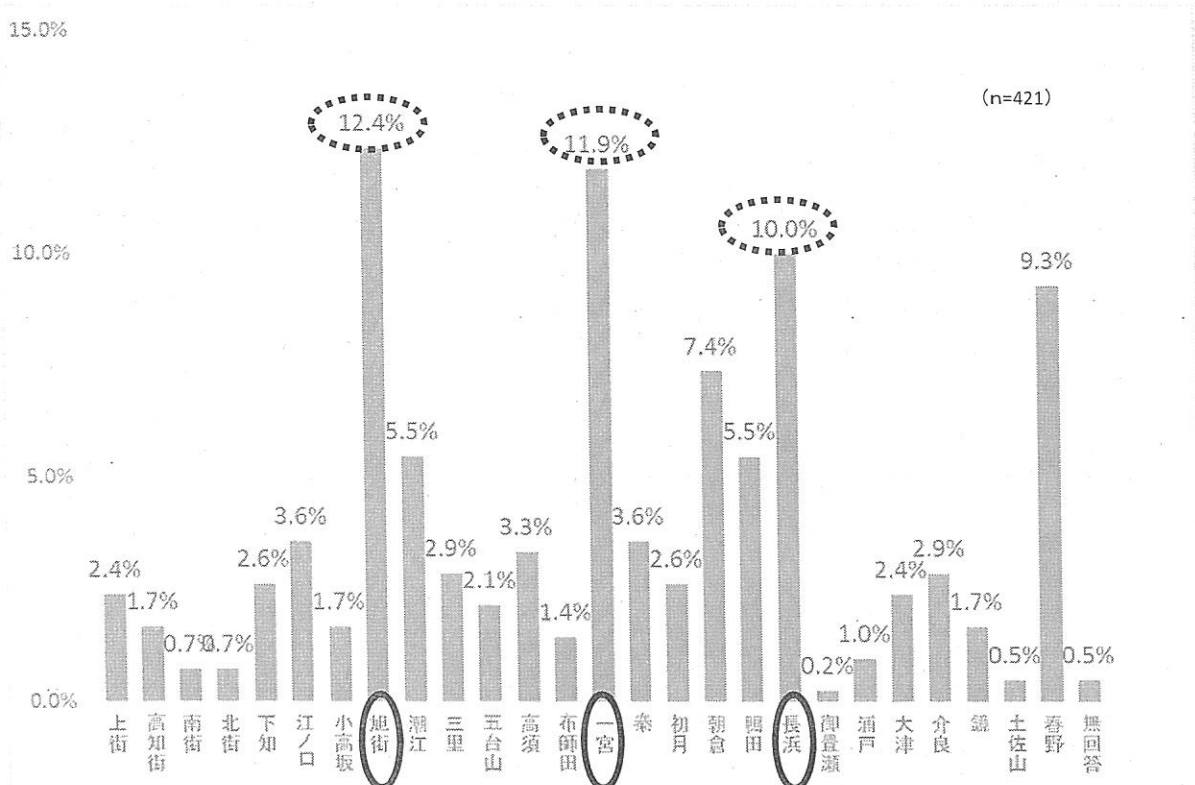


82

## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【担当区域】⇒資料③P.2参照

回答率は「旭街(12.4%)」、「一宮(11.9%)」、「長浜(10.0%)」の順で高かった。

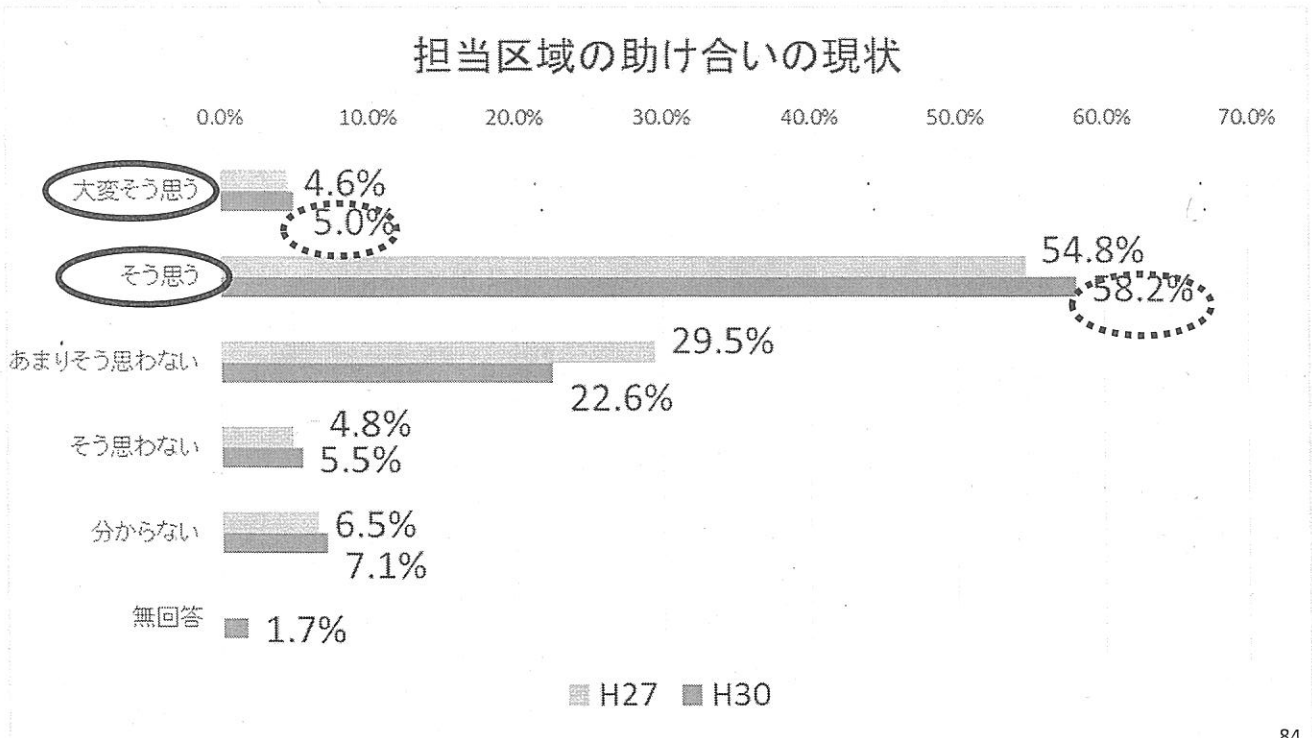


83

#### 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【地域での助け合いの現状】⇒資料③P.3参照

「大変そう思う(5.0%)」と「そう思う(58.2%)」を足した割合は63.2%と約6割である(平成27年度調査と比較すると3.8%増加)。

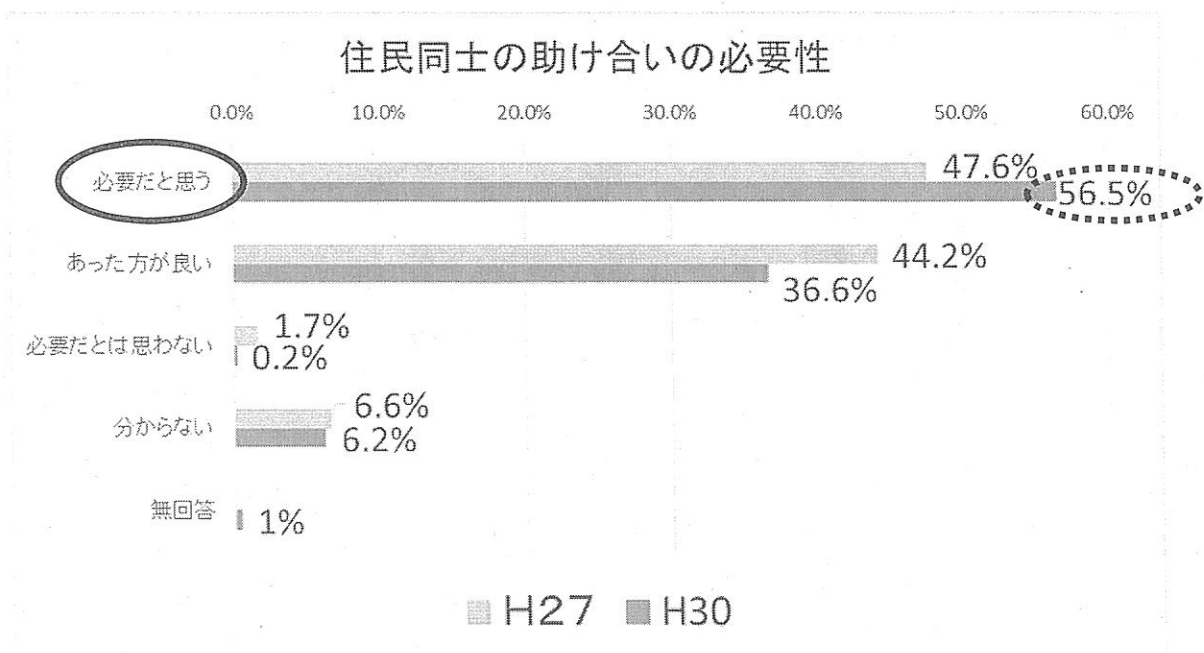


84

#### 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【住民同士の助け合いの必要性】⇒資料③P.3参照

「必要だと思う」と回答した方は56.5%であり、平成27年度調査と比較すると8.9%増加していた。

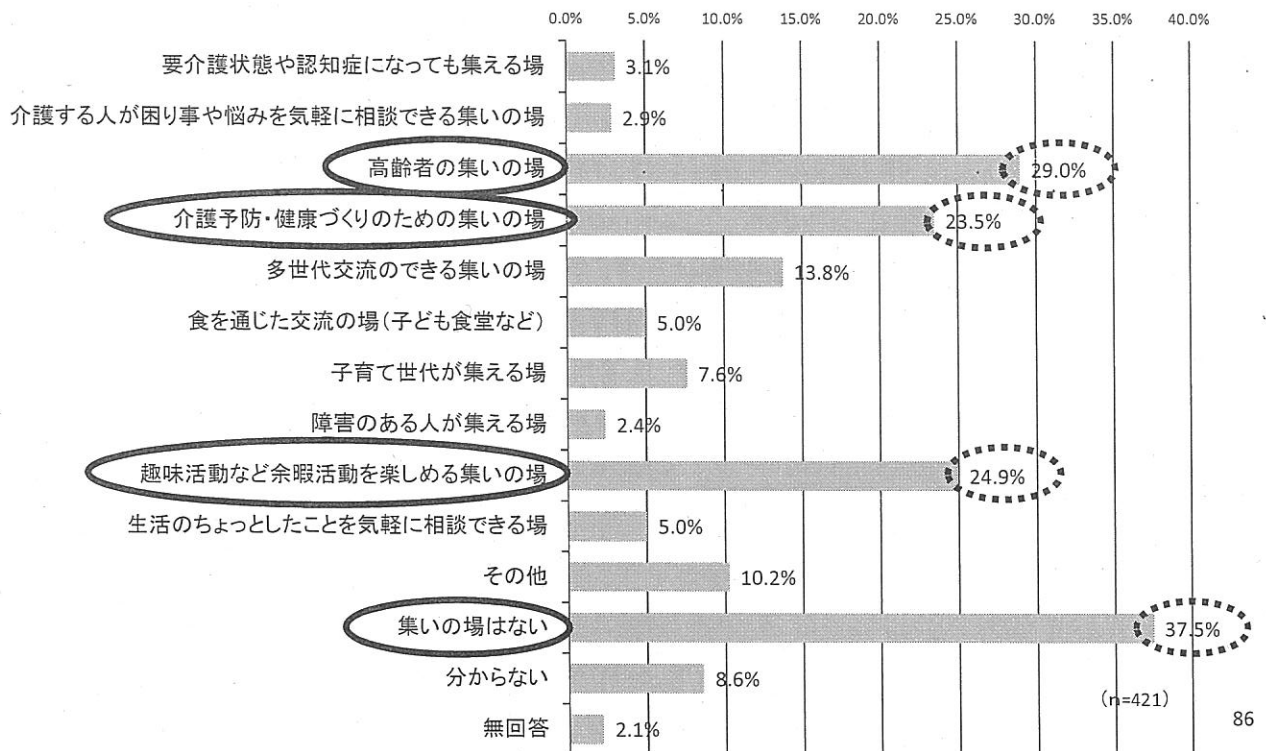


85

## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【既存の集いの場の内容(複数回答)】 ⇒資料③P.4参照

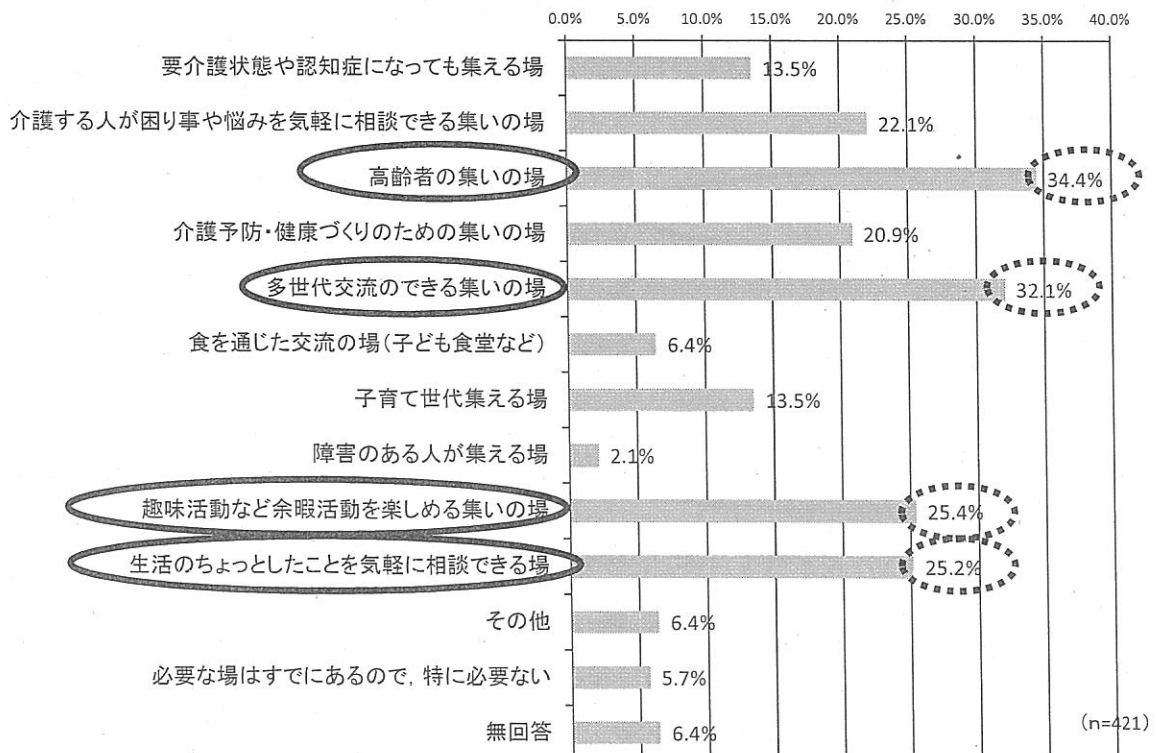
「集いの場はない(37.5%)」、「高齢者の集いの場(29.0%)」、「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(24.9%)」、「介護予防・健康づくりのための集いの場(23.5%)」の順となっている。



## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【今後必要と思われる集いの場の内容(複数回答)】 ⇒資料③P.5参照

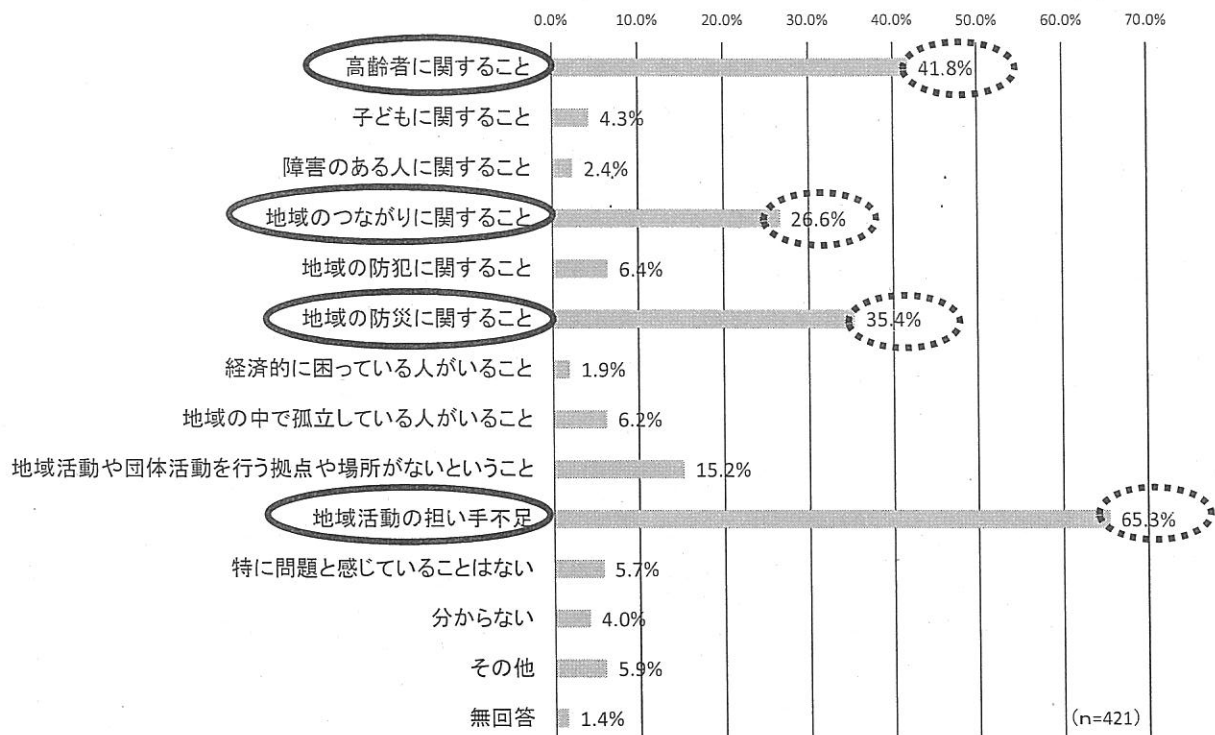
「高齢者の集いの場(34.4%)」、「多世代交流のできる集いの場(32.1%)」、「趣味活動など余暇活動を楽しめる集いの場(25.4%)」、「生活のちょっとしたことを気軽に相談できる場(25.2%)」の順となっている。



## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【お住まいの地域の生活課題について(複数回答)】 ⇒資料③P.6参照

「地域活動の担い手不足(65.3%)」「高齢者に関すること(41.8%)」「地域の防災に関すること(35.4%)」「地域のつながりに関すること(26.6%)」の順となっている。

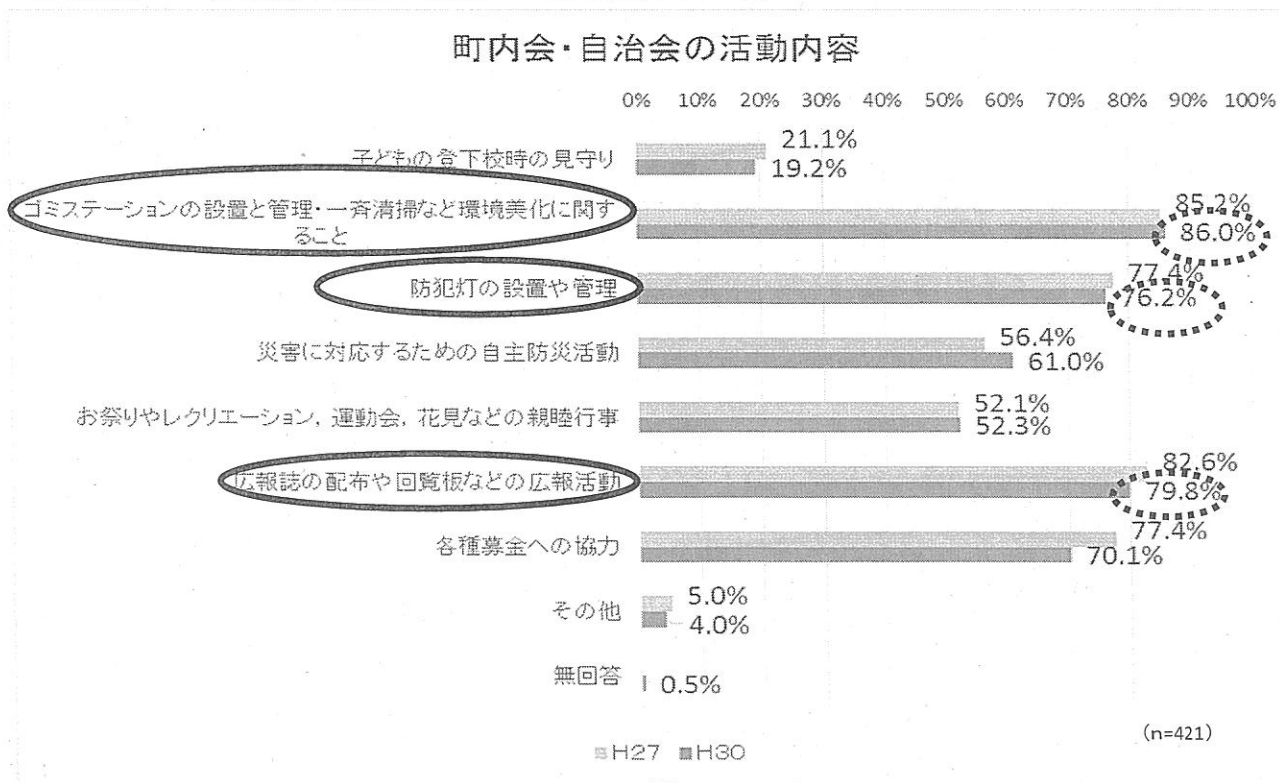


88

## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【町内会・自治会の活動内容(複数回答)】 ⇒資料③P.7参照

「ゴミステーションの設置と管理・一斉清掃など環境美化に関すること(86.0%)」「広報誌の配布や回覧板などの広報活動(79.8%)」「防犯灯の設置や管理(76.2%)」の順となっている。

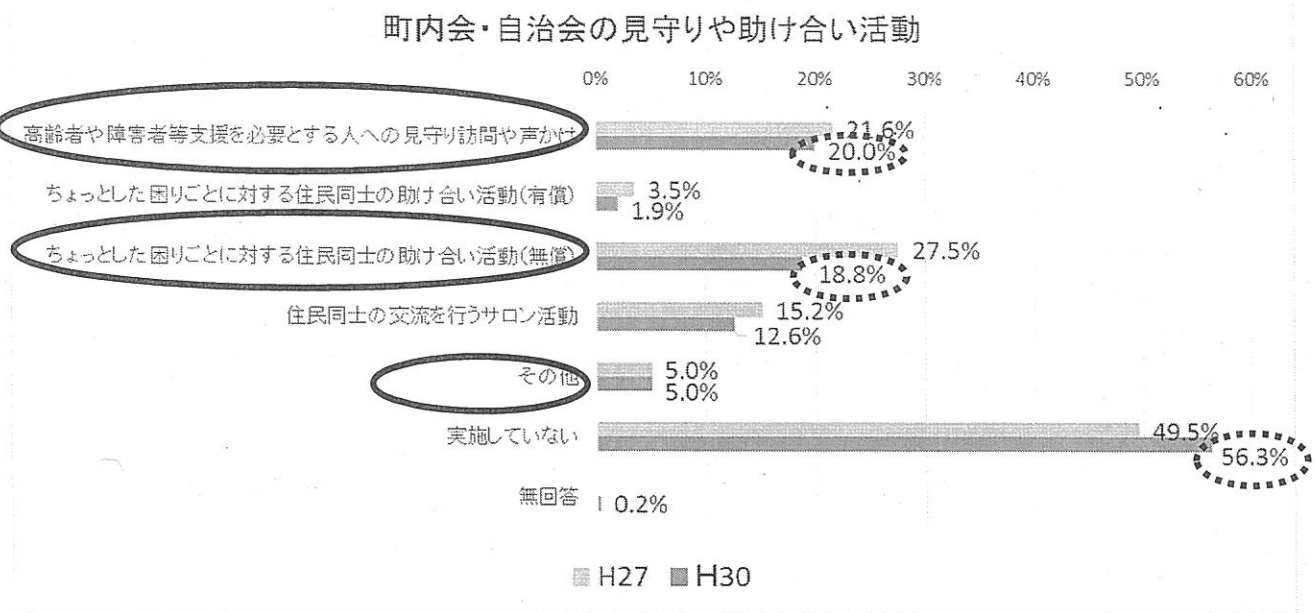


89

## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【町内会・自治会の見守りや助け合い活動(複数回答)】⇒資料③P.8参照

「実施していない」との回答は56.3%(平成27年度調査と比較すると6.8%増加)、「高齢者や障害者等支援を必要とする人への見守り訪問や声かけ」の回答は20.0%、「ちょっとした困りごとに対する住民同士の助け合い活動(無償)」の回答は18.8%(平成27年度調査と比較すると8.5%減少)となっていた。

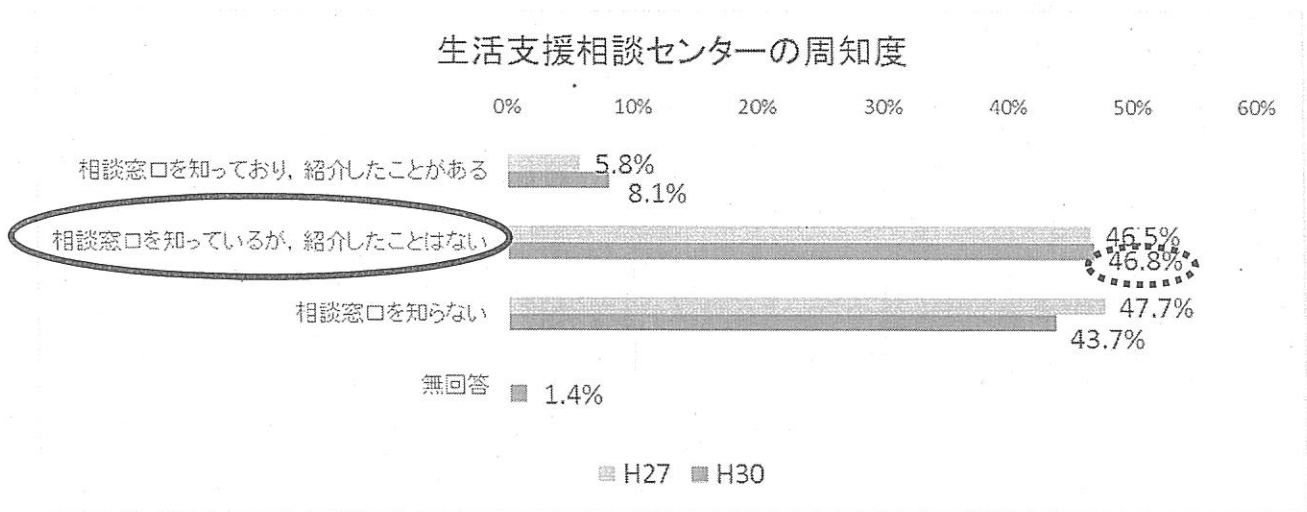


90

## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【生活支援相談センターの周知度】⇒資料③P.9参照

「相談窓口を知っているが、紹介したことはない(46.8%)」が最も高く、次いで「相談窓口を知っており、紹介したことがある」が8.1%(平成27年度調査と比較すると2.3%増加)となっている。

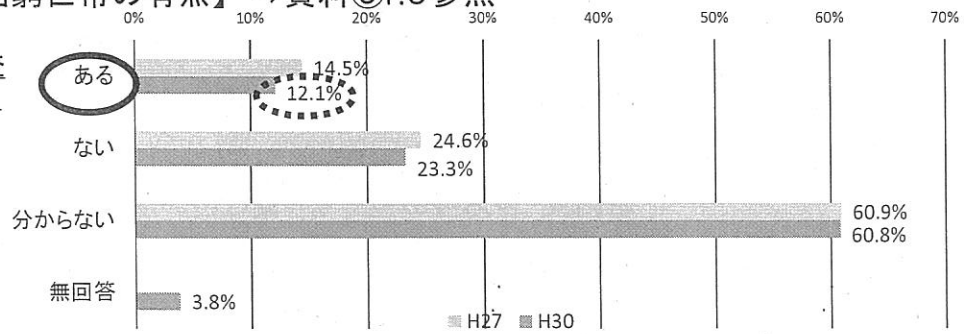


91

## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

### 【担当区域の生活困窮世帯の有無】⇒資料③P.9参照

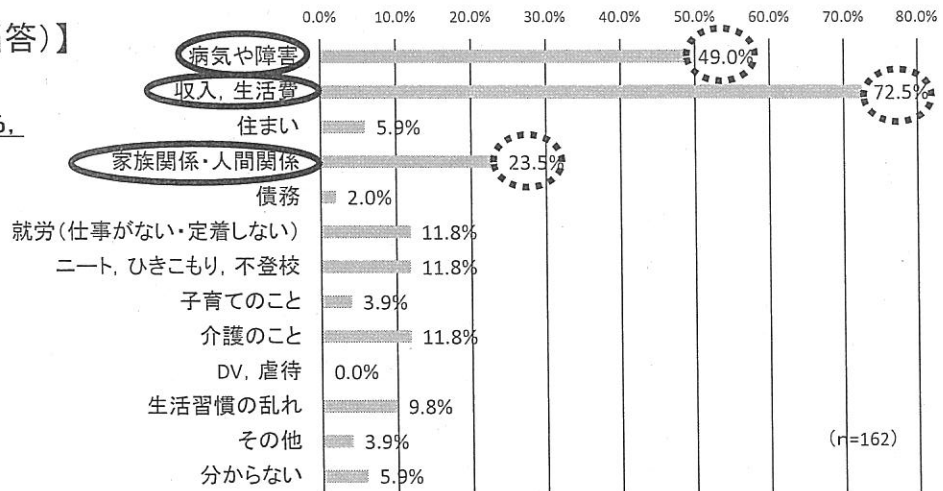
「ある」と回答した方は  
12.1%（平成27年度調査  
と比較すると2.4%減少）  
となっている。



### 【困窮内容(複数回答)】

⇒資料②P.9参照

「収入、生活費」が72.5%、  
「病気や障害」が49.0%、  
「家族関係・人間関係」が  
23.5%となっている。

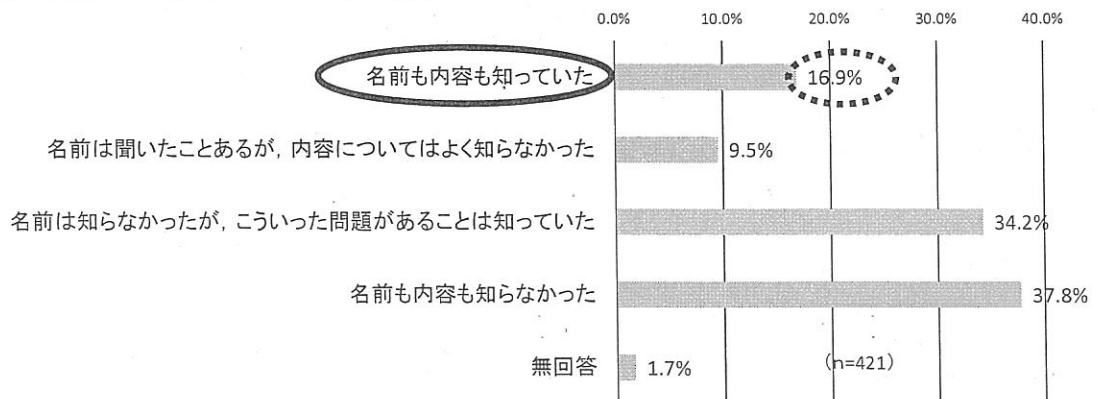


92

## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

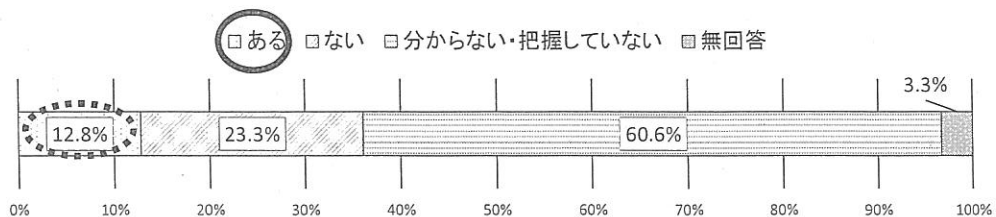
### 【「8050問題」の周知度】⇒資料③P.10参照

「名前も内容も知っていた」と回答した方は16.9%となっている。



### 【お住まいの町内会・自治会の「8050問題」世帯の把握】⇒資料③P.9参照

お住まいの町内会・自治会の「8050問題」に該当と思われる世帯が「ある」と回答した方は12.8%となっている。



(n=421)

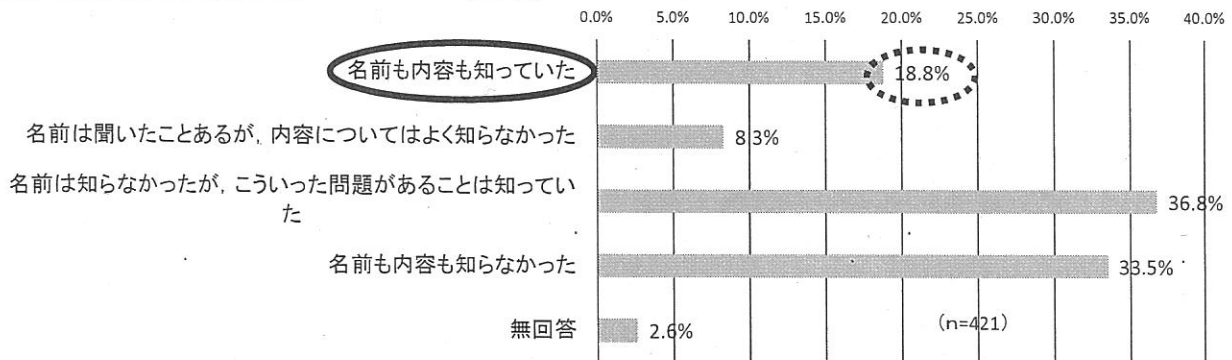
93



## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

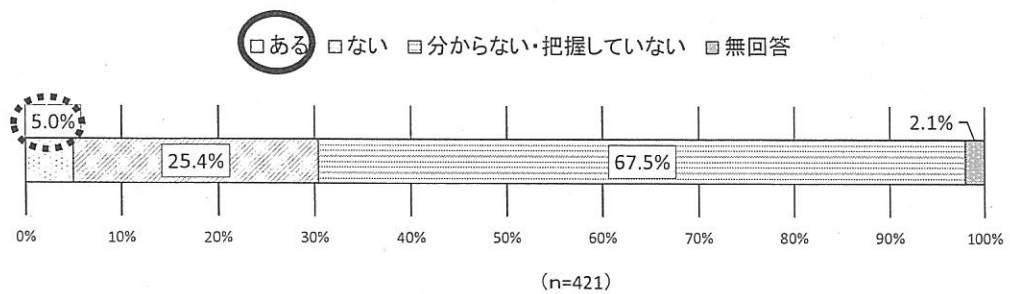
【「ダブルケア」問題の周知度】⇒資料③P.11参照

「名前も内容も知っていた」と回答した方は18.8%となっている。



【担当区域の「ダブルケア」世帯の把握】⇒資料③P.11参照

担当区域に「ダブルケア」に該当と思われる世帯が「ある」と回答した方は5.0%となっている。

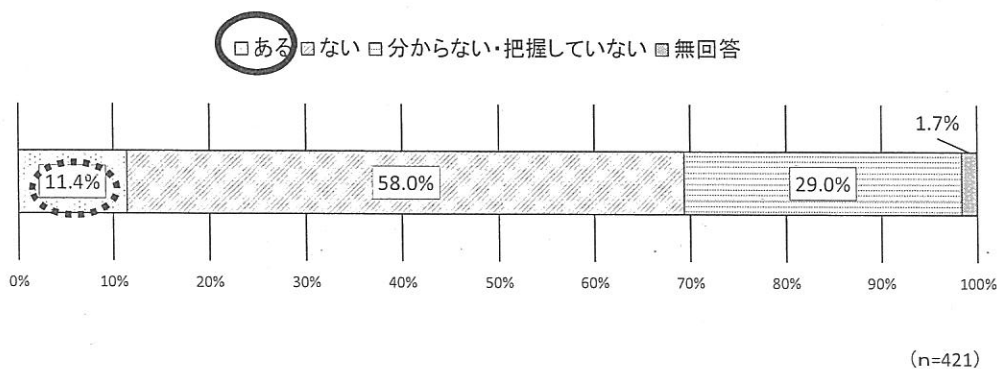


94

## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【担当区域の「ごみ屋敷」世帯の把握】⇒資料③P.12参照

担当区域に「ごみ屋敷」に該当と思われる世帯が「ある」と回答した方は11.4%となっている。

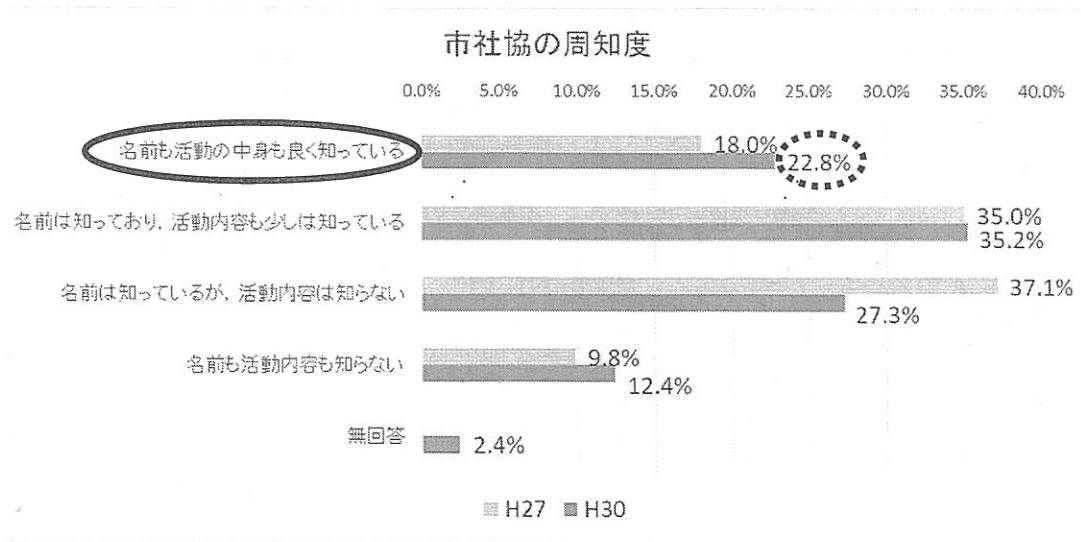


95

## 4 町内会長・自治会長対象調査 結果詳細

【市社協の周知度】⇒資料③P.12参照

「名前も活動の中身も良く知っている」が22.8%（平成27年度調査と比較すると4.8%増加）、「名前を知っており、活動内容も少しは知っている」が35.2%となっている。

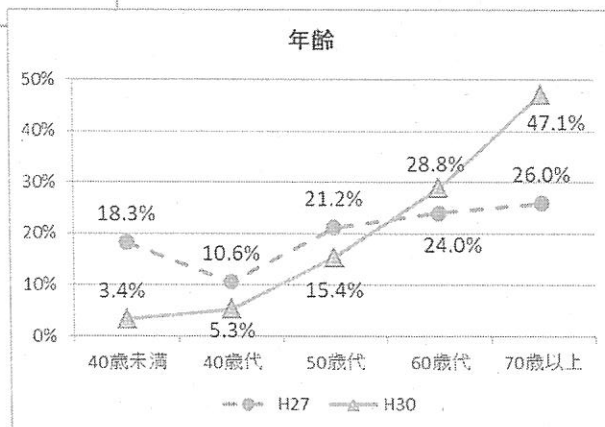
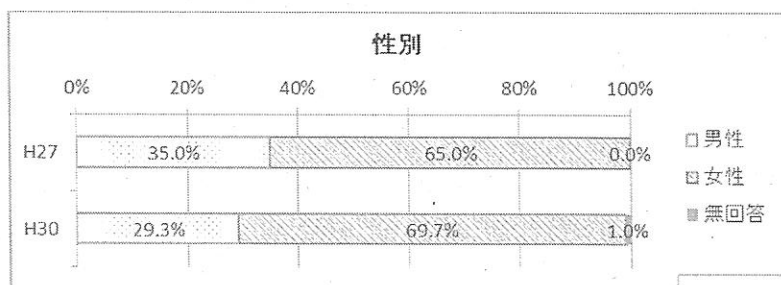


# 5 福祉委員・気くぱりさん対象調査

## 5 福祉委員・気くぱりさん対象調査 結果詳細

【性別】【年齢】 ⇒ 資料④P.1参照

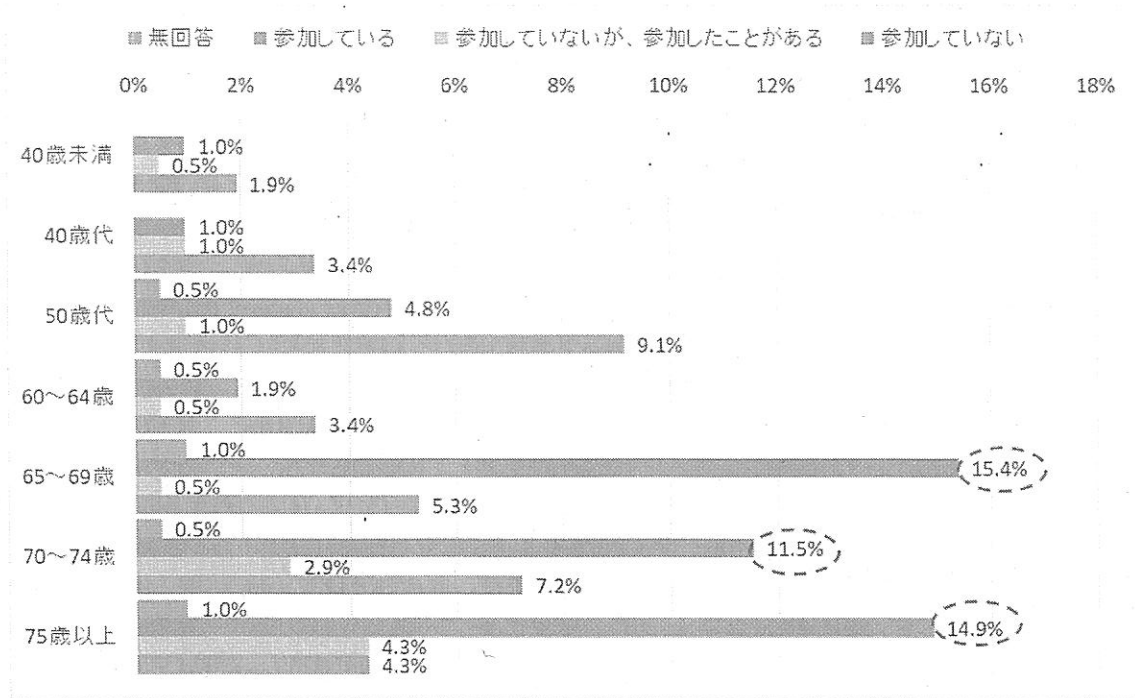
【性別】は男性が約3割弱，女性が約7割弱と平成27年度と平成30年度では若干女性の割合が増加していた。  
 【年齢】は40未満～40歳代の回答が大幅に減少，70歳以上の回答が21.1%も増加していた。



## 5 福祉委員・気くばりさん対象調査 結果詳細

### 【年齢×活動状況】

65～69歳の方が最も活動に参加しており、次いで75歳以上、70～74歳の方の活動率が高い。

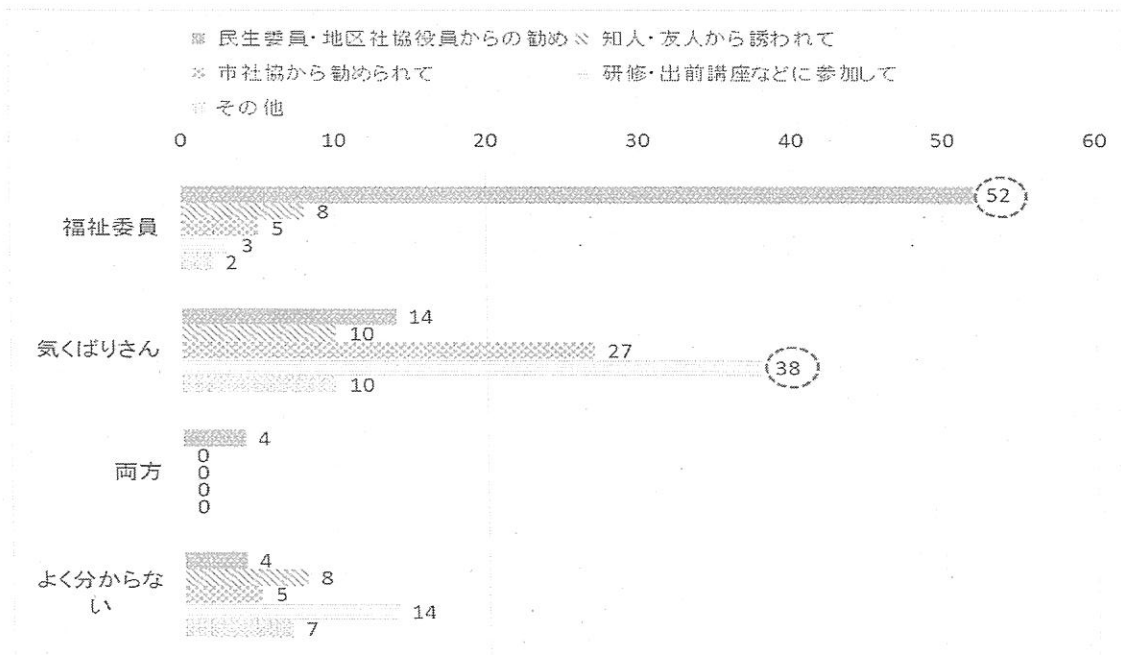


100

## 5 福祉委員・気くばりさん対象調査 結果詳細

### 【所属×きっかけ】 ⇒資料④P.3参照

福祉委員は、民生委員・地区社協役員からの勧めが最も多く、気くばりさんは、研修・出前講座などに参加したことがきっかけで登録された方が多い傾向にあり。

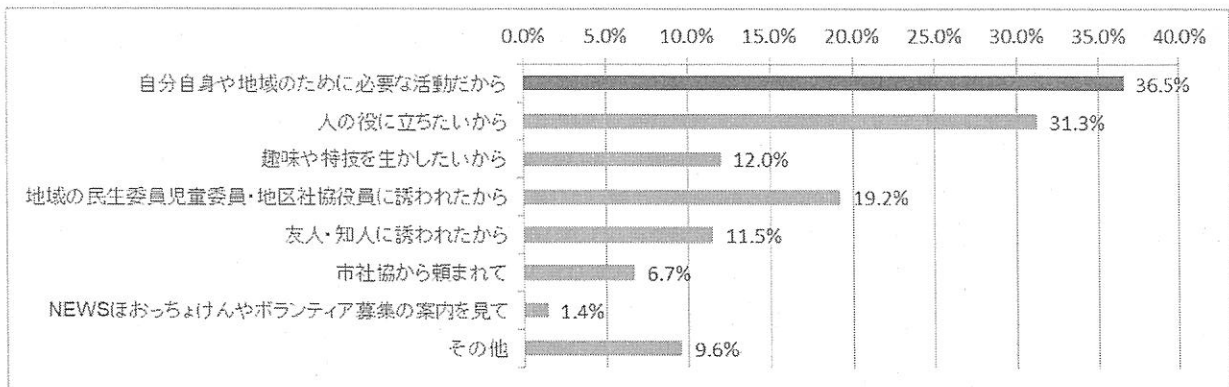


101

## 5 福祉委員・気くばりさん対象調査 結果詳細

【活動動機】 ⇒資料④P.9参照

活動の動機は自分自身や地域のために必要な活動だからが36.5%と高い。次いで人の役に立ちたいからという方が31.3%となっている。

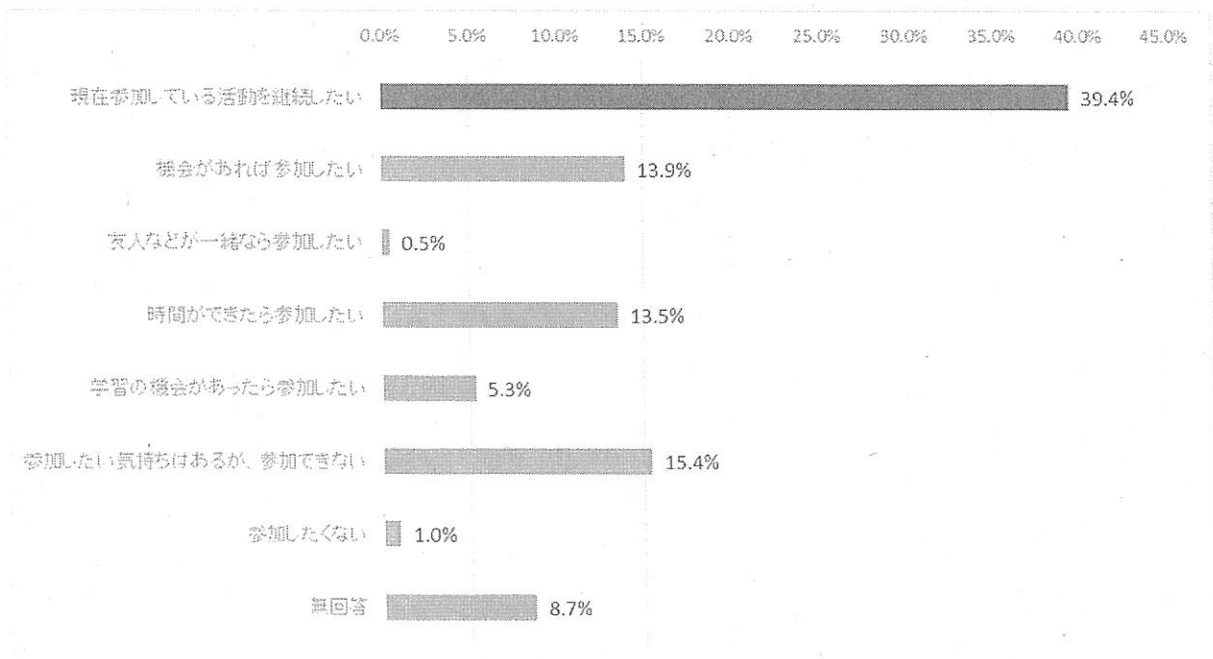


102

## 5 福祉委員・気くばりさん対象調査 結果詳細

【今後の活動意向】 ⇒資料④P.10参照

ボランティア活動への活動意向については、現在参加している活動を継続したい方が最も多く39.4%でした。次いで機会があれば参加したい、時間ができたら参加したい方が、合わせて27.4%でした。

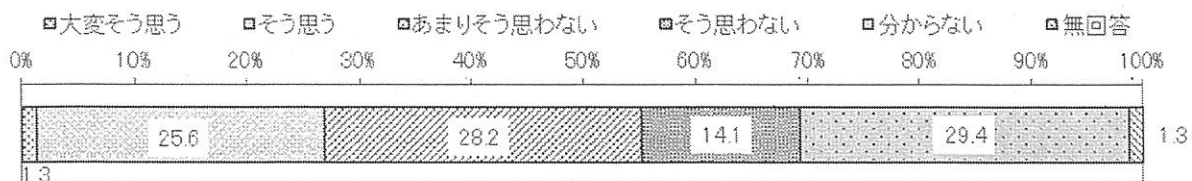


## 5 福祉委員・気くばりさん対象調査 結果詳細

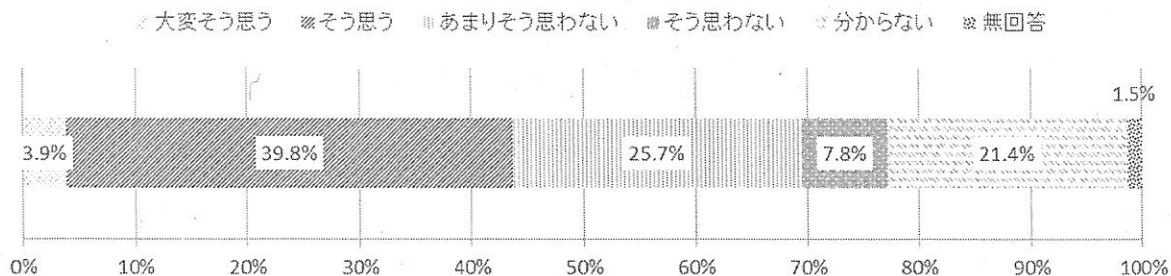
【助け合いの現状】⇒資料④P.4参照

助け合いの必要性については、高知市民と比較して、福祉委員・気くばりさん登録者は、「大変そう思う」「そう思う」共に高い傾向にある。

### 市民



### 福祉委員・気くばりさん





## 6 専門職対象調査

---

106

### 6 専門職対象調査 結果詳細

---

#### (1) 調査対象詳細

調査対象		回答者数 (n=489)
高知市所属専門職	①保健師(4部14課配置) ②社会福祉士, 精神保健福祉士, 主任ケアマネ等(1部5課配置)	122
高齢者支援センター出張所	委託事業所	20
居宅介護支援事業所	民間事業所	294
障害者相談センター	委託事業所	8
障害者相談支援事業所	民間事業所	45

107

## 6 専門職対象調査 結果詳細

### (1) 地域福祉コーディネーターについて

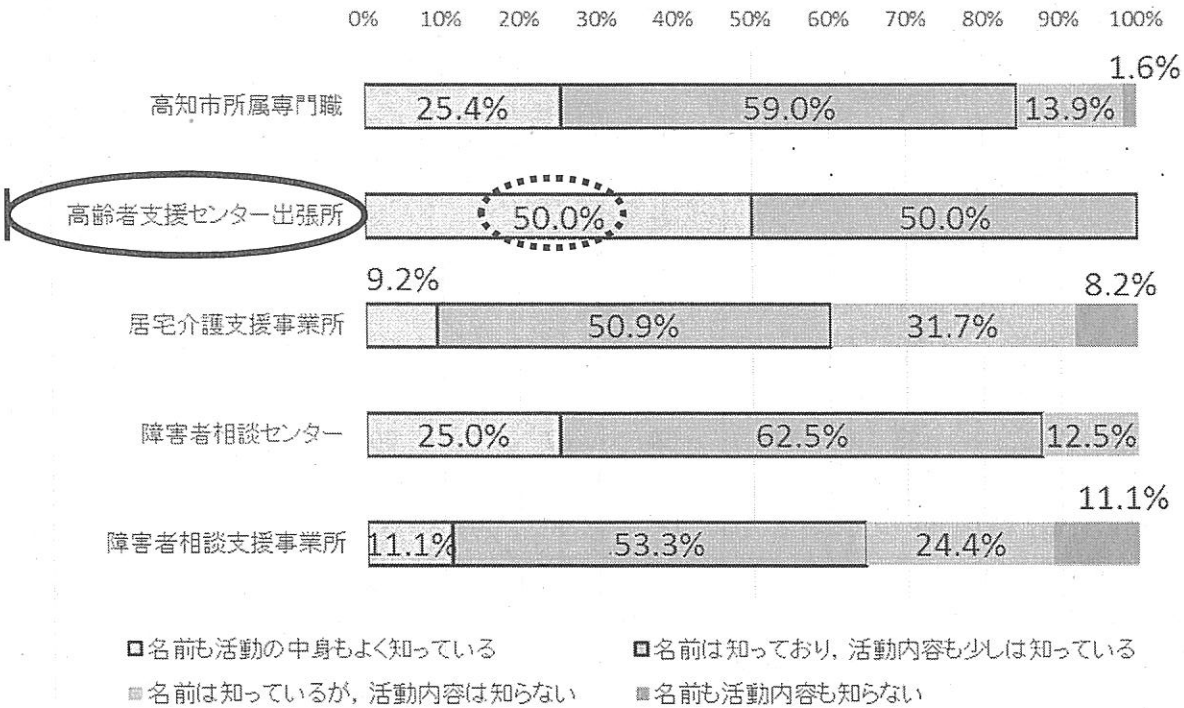
調査対象	地域福祉コーディネーターの周知度					地域福祉コーディネーターとの協働			
	名前も活動の中身もよく知っている	名前は知っており、活動内容も少しは知っている	名前は知っているが、活動内容は知らない	名前も活動内容も知らない	未記入	現在協働している	現在は協働していないが、過去に協働したことがある	協働したことがない	未記入
高知市所属専門職 (n=122)	31	72	17	2		27	32	63	
【委託事業所】 高齢者支援センター出張所 (n=20)	10	10	0	0		19	1	0	
【民間事業所】 居宅介護支援事業所 (n=294)	27	149	93	24	1	10	29	254	1
【委託事業所】 障害者相談センター (n=8)	2	5	1	0		2	3	3	
【民間事業所】 障害者相談支援事業所 (n=45)	5	24	11	5		4	1	40	
合計	75	260	122	31	1	62	66	360	1
割合	15.3%	53.2%	24.9%	6.3%	0.2%	12.7%	13.5%	73.6%	0.2%

108

## 6 専門職対象調査 結果詳細

地域福祉コーディネーターの「名前も活動の中身もよく知っている」「名前は知っており、活動内容も少しは知っている」と回答した専門職は全体の68.5%であった。

地域福祉コーディネーターの周知度

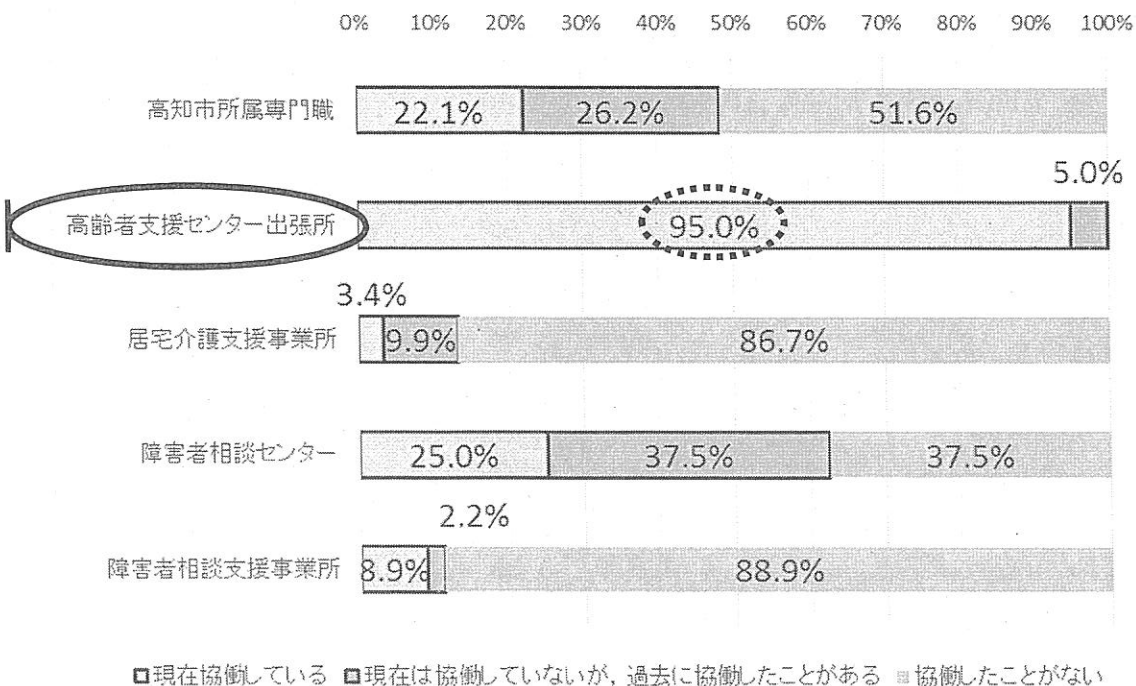


110

## 6 専門職対象調査 結果詳細

地域福祉コーディネーターと「現在協働している」「現在は協働していないが、過去に協働したことがある」と回答した専門職は全体の26.2%であった。

地域福祉コーディネーターとの協働



111

## 6 専門職対象調査 結果詳細

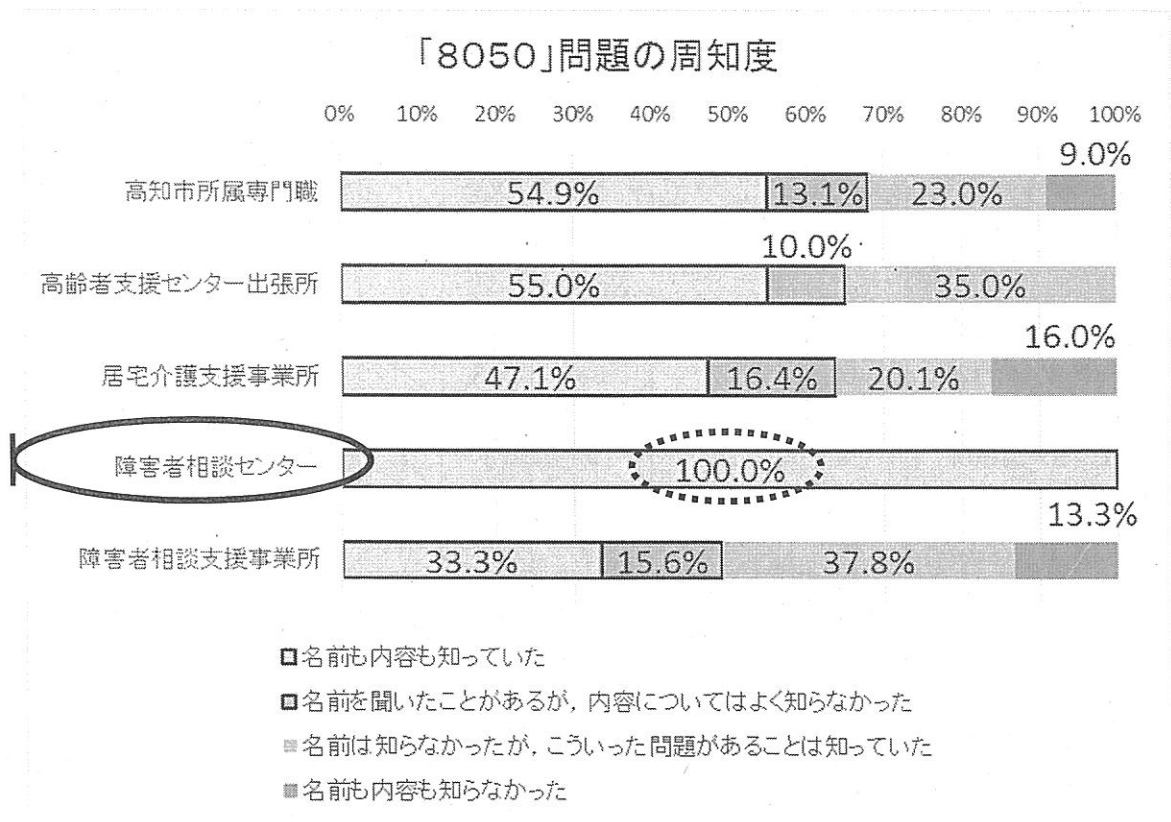
### (2)「8050」問題について

調査対象	「8050」問題の周知度					「8050」問題への 直面状況			
	名前も内容も知っていた	名前を聞いたことがあるが、内容についてはよく知らなかった	名前は知らなかったが、こういった問題があることは知っていた	名前も内容も知らなかった	未記入	現在直面している	現在は直面していないが、過去に直面したことがある	直面したことがない	未記入
高知市所属専門職 (n=122)	67	16	28	11		18	60	44	
【委託事業所】 高齢者支援センター出張所 (n=20)	11	2	7	0		9	10	1	
【民間事業所】 居宅介護支援事業所 (n=294)	138	48	59	47	2	60	94	138	2
【委託事業所】 障害者相談センター (n=8)	8	0	0	0		6	2	0	
【民間事業所】 障害者相談支援事業所 (n=45)	15	7	17	6		11	6	27	1
合計	239	73	111	64	2	104	172	210	3
割合	48.9%	14.9%	22.7%	13.1%	0.4%	21.3%	35.2%	42.9%	0.6%

112

## 6 専門職対象調査 結果詳細

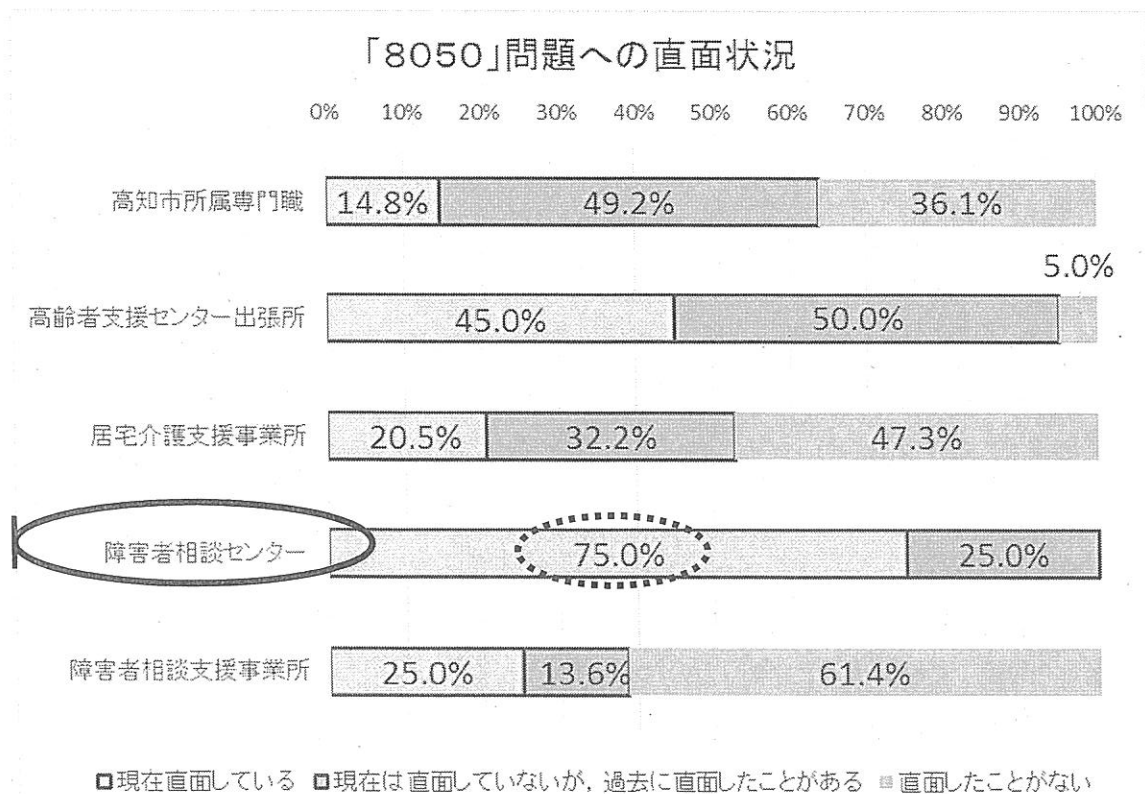
「名前も内容も知らなかった」と回答した専門職は全体の13.1%であった。



114

## 6 専門職対象調査 結果詳細

「現在直面している」「現在は直面していないが、過去に直面したことがある」と回答した専門職は全体の56.5%であった。



115

## 6 専門職対象調査 結果詳細

### (3)「ダブルケア」問題について

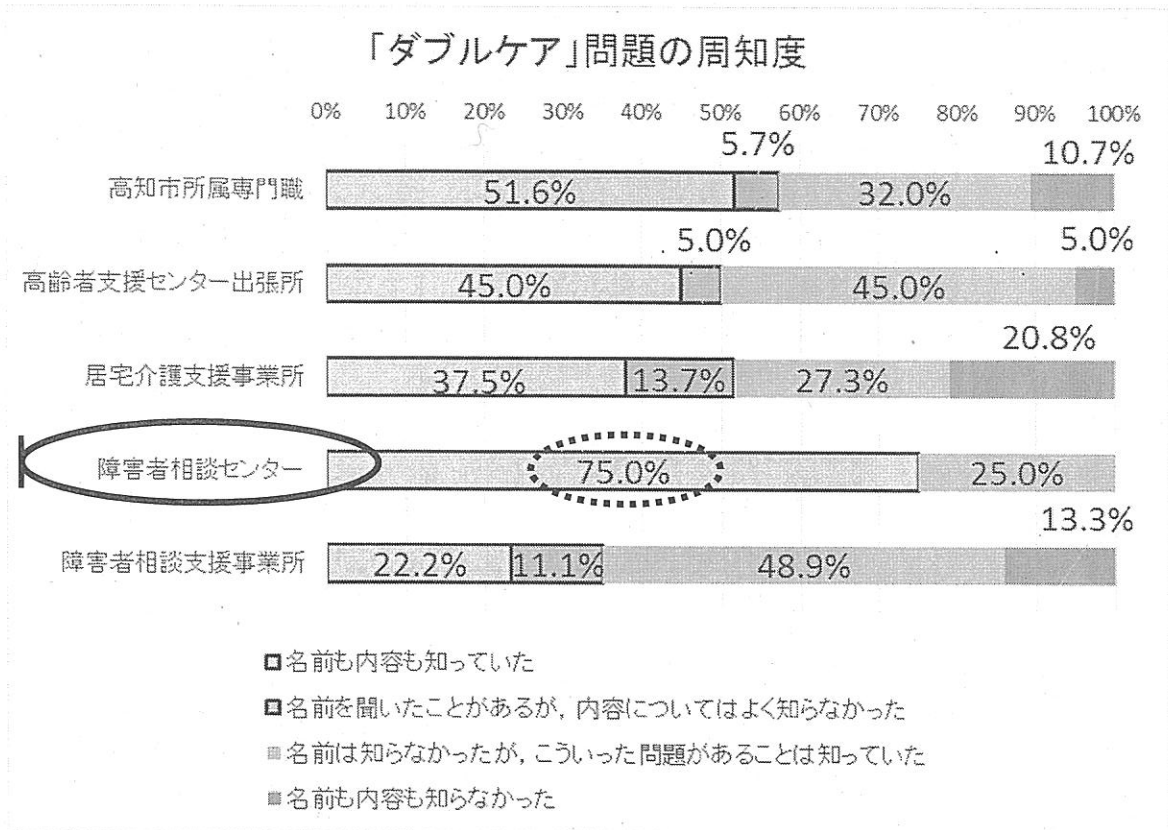
調査対象	「ダブルケア」問題の周知度					「ダブルケア」問題への 直面状況			
	名前も内容も知っていた	名前を聞いたことがあるが、内容についてはよく知らなかった	名前は知らなかったが、こういった問題があることは知っていた	名前も内容も知らなかった	未記入	現在直面している	現在は直面していないが、過去に直面したことがある	直面したことがない	未記入
高知市所属専門職 (n=122)	63	7	39	13		13	52	57	
【委託事業所】 高齢者支援センター出張所 (n=20)	9	1	9	1		6	10	4	
【民間事業所】 居宅介護支援事業所(n=294)	110	40	80	61	3	48	71	172	3
【委託事業所】 障害者相談センター(n=8)	6	0	2	0		2	3	3	
【民間事業所】 障害者相談支援事業所(n=45)	10	5	22	6	2	10	6	29	
合計	198	53	152	81	5	79	142	265	3
割合	40.5%	10.8%	31.1%	16.6%	1.0%	16.2%	29.0%	54.2%	0.6%

116



## 6 専門職対象調査 結果詳細

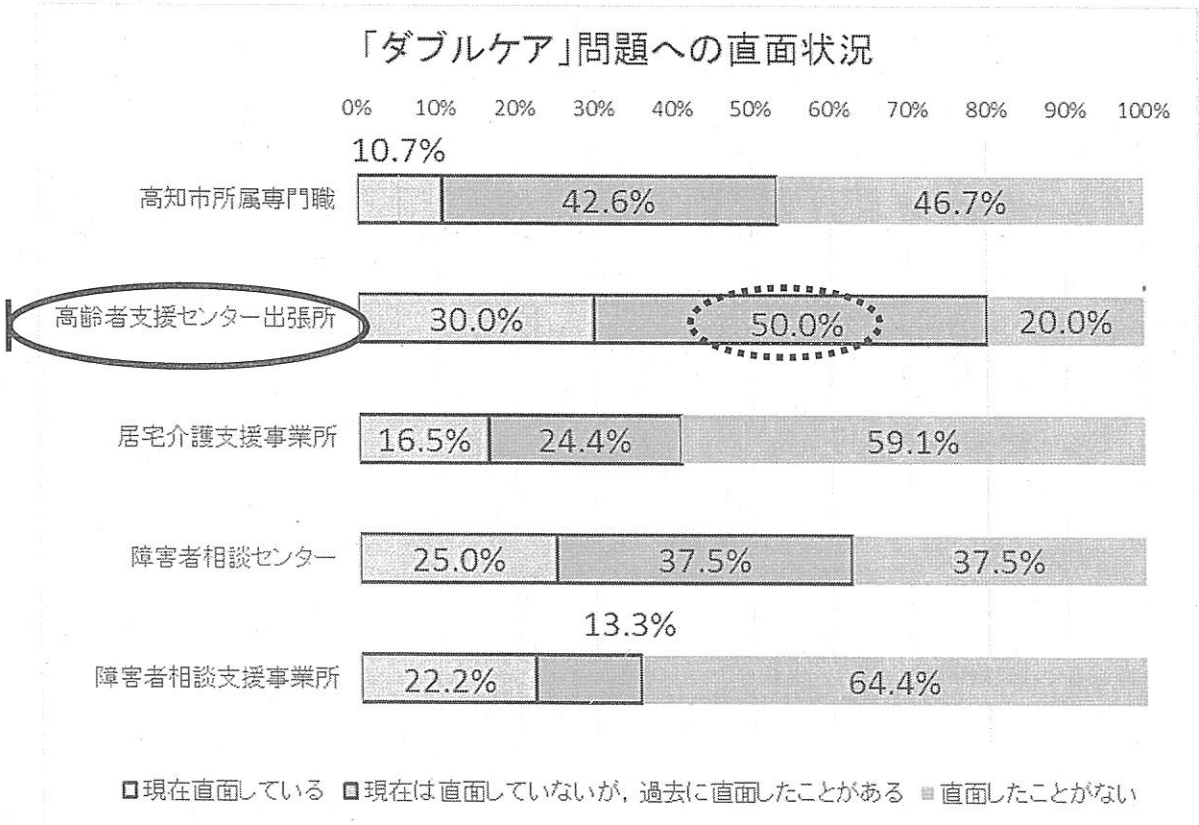
「名前も内容も知らなかった」と回答した専門職は全体の16.6%であった。



118

## 6 専門職対象調査 結果詳細

「現在直面している」「現在は直面していないが、過去に直面したことがある」と回答した専門職は全体の45.2%であった。



119

## 6 専門職対象調査 結果詳細

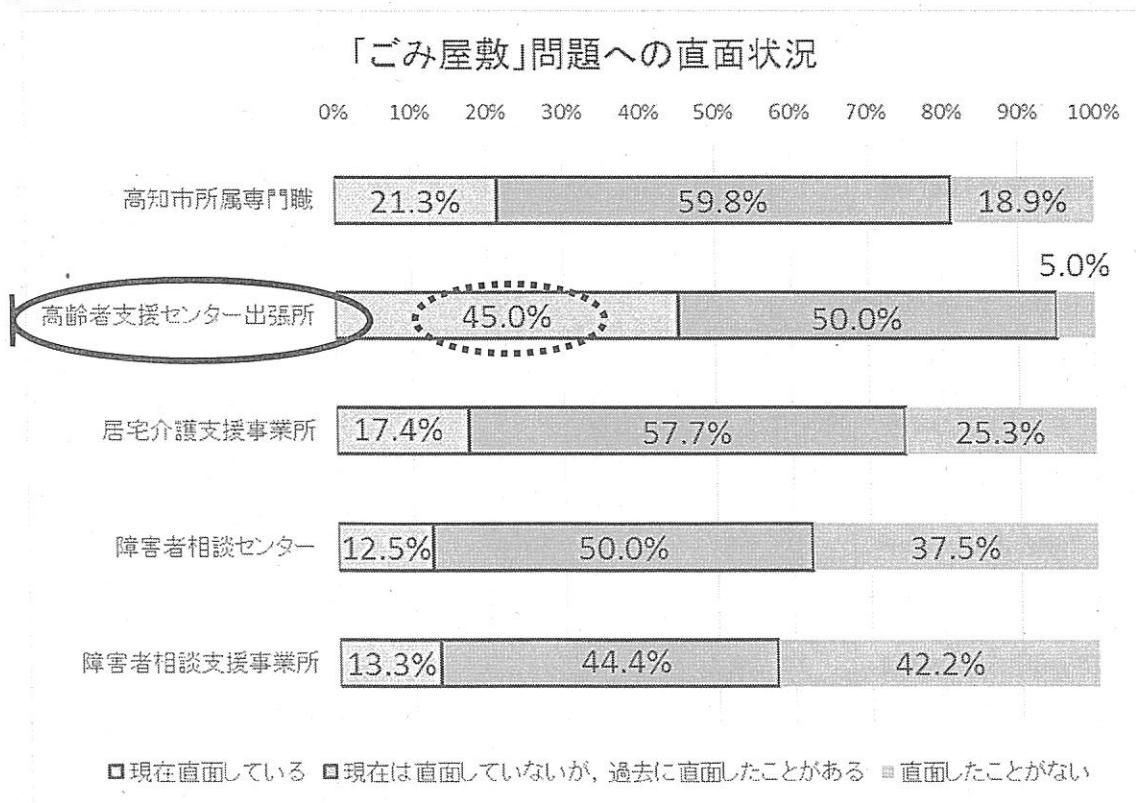
### (4)「ごみ屋敷」問題について

調査対象	「ごみ屋敷」問題への 直面状況			未記入
	現在直面している	現在は直面していないが、過去に直面したことがある	直面したことがない	
高知市所属専門職 (n=122)	26	73	23	
【委託事業所】 高齢者支援センター出張所 (n=20)	9	10	1	
【民間事業所】 居宅介護支援事業所(n=294)	51	169	74	
【委託事業所】 障害者相談センター(n=8)	1	4	3	
【民間事業所】 障害者相談支援事業所(n=45)	6	20	19	
合計	93	276	120	
割合	19.0%	56.4%	24.5%	

120

## 6 専門職対象調査 結果詳細

「現在直面している」「現在は直面していないが、過去に直面したことがある」と回答した専門職は全体の75.4%であった。



121

## 2. 平成30年度 地域福祉に関する 意見交換会結果

# 地域福祉に関する意見交換会の 結果について

## 1 地域福祉に関する意見交換会の概要

---

### (1) 目的

第2期地域福祉活動推進計画策定にあたり、地域福祉に関する関連機関等の状況及び今後の課題を把握する。

### (2) 対象

- ①地区社会福祉協議会連合会に所属する地区社会福祉協議会
- ②庁内相談支援担当者
- ③高齢分野: 高齢者支援センター出張所
- ④障害分野: 障害者相談支援事業所  
障害者支援施設等
- ⑤障害児分野: 障害者計画ワーキンググループ(療育連絡会)
- ⑥市民を対象とする啓発に関連する課及び関係機関
- ⑦地域の人材育成及びボランティア活動に関連する課及び関係機関

### (3) 期間 平成30年4月～8月

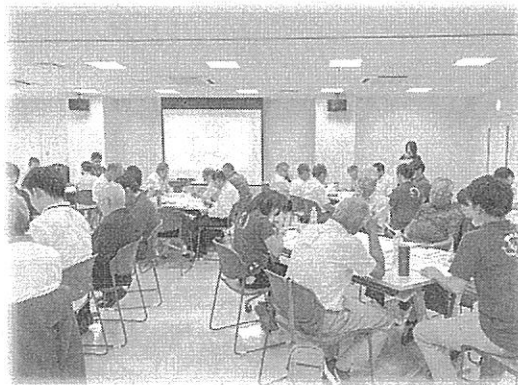
## (4) 意見交換会 詳細

対象	テーマ	意見交換会参加者
①地区社会福祉協議会連合会に所属する地区社会福祉協議会	①5年間の計画の振り返り ②これからの地域福祉の方向性	①地区社会福祉協議会 21/27地区 ②高知市社会福祉協議会 ③高知市
②高齢分野: 高齢者支援センター出張所	個別対応を実施する専門職からの ①地域福祉コーディネーターに求める役割	①高知市高齢者支援センター出張所 23名 ②地域福祉コーディネーター等 13名 ③高知市 2課3名
③-1 障害分野: 障害者相談支援事業所	個別対応を実施する専門職からの ①地域福祉コーディネーターに求める役割 ②地域住民の活動への期待	①障害者相談支援事業所 5名 ②地域福祉コーディネーター等 2名
③-2 障害分野: 障害者支援施設等		①障害者支援に関わる施設及び医療機関13名 ②地域福祉コーディネーター等 4名 ③高知市 4課9名
④障害児分野: 障害者計画ワーキンググループ(療育連絡会)		①高知市障害者計画ワーキンググループ 6課15名 ②地域福祉コーディネーター等 3名
⑤高知市相談支援担当者	制度の狭間や各分野横断的課題への対応の現状及び今後の対応	高知市 8課15名
⑥市民を対象とする啓発に関連する課及び関係機関	①各課で実施している啓発活動の現状及び課題 ②今後の地域を対象とする啓発活動の効果的な展開方法	①高知市 8課14名 ②高知市委託機関 3名 ③高知市社会福祉協議会 4名
⑦地域の人材育成及びボランティア活動に関連する課及び関係機関	①各課及び関連機関で実施している地域の人材育成及びボランティアに関する活動の現状及び課題 ②今後の地域の人材(ボランティア等)の活用の効果的な展開方法	①ボランティア活動に関連する関係機関 4名 ②高知市 7課11名 ③高知市社会福祉協議会 5名

2

## 2 意見交換会 結果詳細

### ①地区社協 意見交換会



開催日時：平成30年7月27日（金）13:30～15:00

開催場所：あんしんセンター3階中会議室

参加地区：21地区／27地区

参加人数：37名

<p style="text-align: center;"><b>住み続けたい街とは</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気遣い合いができる街</li> <li>・高齢者が笑顔。子どもの声が聞こえる活気ある街</li> <li>・地震災害に強い街・安心安全な街</li> <li>・助け合いのできる街</li> <li>・助けてと言える街</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>5年間の取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者支援 見守り・敬老会・宅老所運営・いきいき百歳体操など</li> <li>・子育て支援 赤ちゃん訪問・子育てサロン・子ども食堂など</li> <li>・あんしんキットによる見守り活動</li> <li>・福祉委員制度</li> <li>・共同募金活動</li> <li>・小地域活動への支援（活動助成）</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>各々の役割</b></p> <p style="text-align: center;"><b>【地区社協の役割】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合える場作り</li> <li>・町内会との連携</li> <li>・担い手の育成</li> <li>・小地域活動の支援</li> <li>・関係団体との連携体制の強化</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【市社協・高知市へ求める役割】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・財政的援助</li> <li>・人材育成（幼少期からの福祉教育）</li> <li>・相談しやすい組織体制</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>課題</b></p> <p style="text-align: center;"><b>【地域課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化</li> <li>・担い手不足</li> <li>・地域つながりの弱さ</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>【地区社協としての課題】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織との連携ができていない</li> <li>・役員自体も高齢化</li> <li>・自主財源がない</li> <li>・広報活動の手段が少ない</li> <li>・地区社協の役割が不透明</li> </ul>

**地域福祉コーディネーターへの期待**

- ・120%力を出して欲しい
- ・柔らかく会議に入っていけるようなネタを持って欲しい
- ・もっと他の地区の情報も教えて欲しい
- ・地域課題を知り、一緒に語らう場や人間関係の構築
- ・できれば常駐してもらい、社協の事務機能もしてもらいたい。
- ・地域福祉コーディネーターの増員
- ・地区の把握をきっちりして、地域の違い、人の違いをつかんで欲しい。
- ・支え合いの必要な人数の把握。ニーズ分析をしっかりと



## ②～⑤ 地域福祉に関する意見交換会 まとめ

---

### 【地域福祉コーディネーターに求める役割】

- ・地域の情報収集及び地域課題の明確化
- ・地域の人材の発掘
- ・地域の社会資源の開拓・立ち上げ支援・関係機関への情報提供
- ・地域の話し合いの場づくり
- ・各分野の個別支援を通してみえる地域の状況の理解・把握
- ・個別支援を実施している専門職との地域支援の部分の連携・協働
- ・地域福祉コーディネーターの役割の明確かと関係機関との役割分担
- ・幼少期からの福祉教育
- ・各関係機関の実施する啓発・福祉教育での連携・協働

### 【相談支援】

- ・各相談支援部門が各分野それぞれで対応している「制度の狭間」や「各分野横断的課題への対応」が必要。

6

## ⑥～⑦ 地域福祉に関する意見交換会 まとめ

---

### 【地域住民への啓発】

- ・各課がそれぞれの分野で市民を対象とする啓発事業を実施しているが、それぞれの担当での検討となっており、啓発方法の課題を感じている。今後、関連する各課がともに効果的な啓発方法の共有及び課題への対策を検討をする機会が必要である。

### 【地域の人材育成及びボランティアに関する活動】

- ・地域でボランティアの活動支援をしている機関の状況をみると、登録者の高齢化があり、実際の活動者は一部に集中している現状がある。

・市内にはさまざまな人材を養成している課があるが(委託事業も含む)、養成後の稼働率の把握が十分でなかったり、フォローアップの課題もある。また地域での活動は意識の高い方は様々な養成講座に参加している可能性もあり、重複者も多数いる可能性がある。養成した人材をどう実際の地域活動に結びつけていくのか、また新たな人材を発掘し、養成につなげていくのか、現在の活動者の方の高齢化、一部集中化等への対策が必要である。

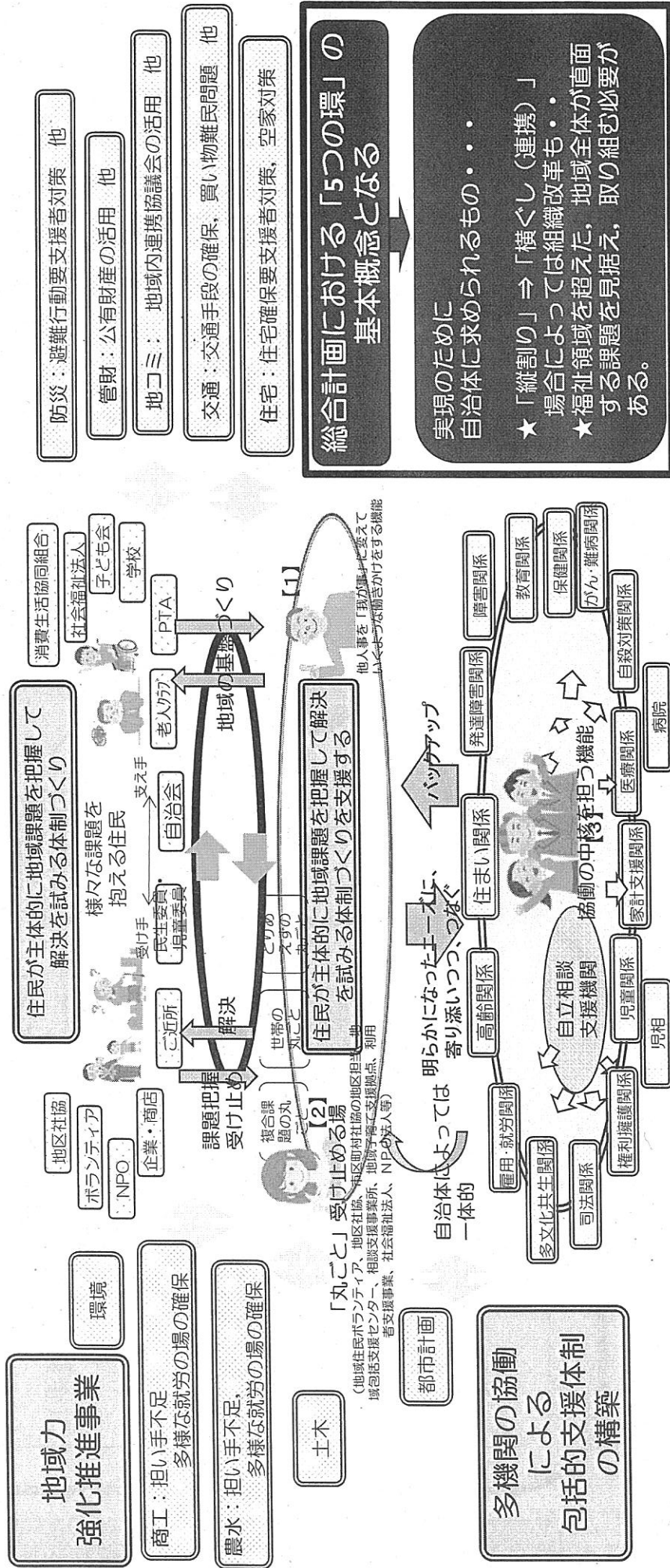
・どの活動においても、登録者は多数いるが、その稼働率になると低下している。特に子育て支援の分野では依頼会員が多い中、援助会員の稼働率が追い付いていない状況がある。次世代を担う子供への支援と、働く子育て世代の親への支援については今後、地域の人材の発掘及び活動への支援等が重要である。

7

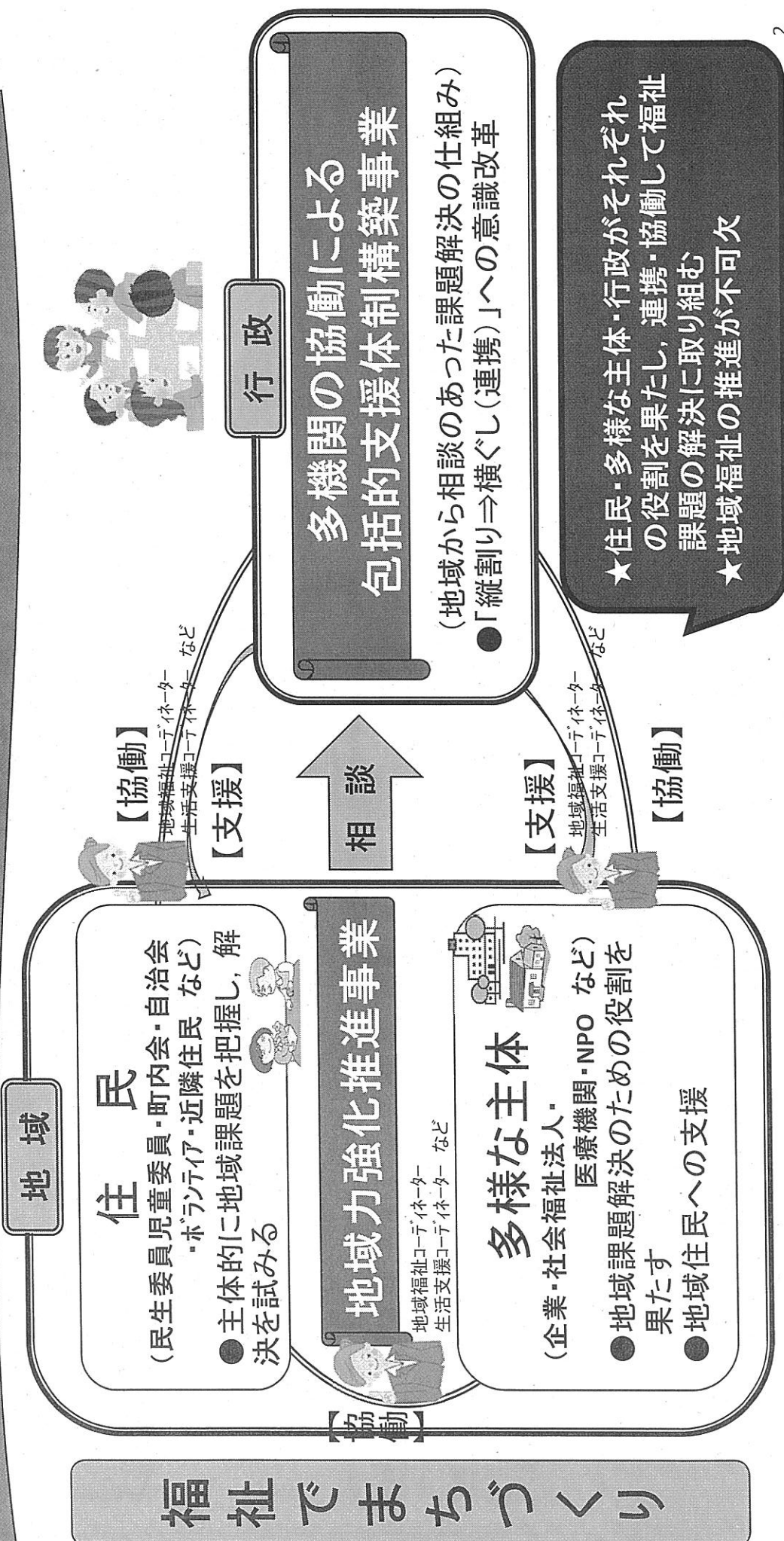
### 3. 高知市の地域福祉に関する 現状・課題と方向性

# 高知市地域共生社会実現に向けた全庁的な取組体制について

## 地域共生のイメージ図



# 地域共生社会実現のための役割分担のイメージ



## 福祉でまちづくり



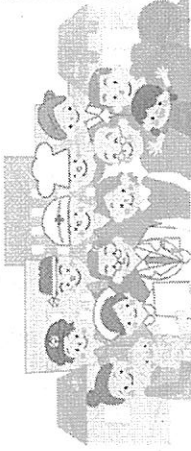
# 地域力強化推進事業

～地域住民等が主体的に地域生活課題を把握し解決を試みることができる環境の整備～



※「生活支援体制整備事業」(地域ケア会議等)との調整必要

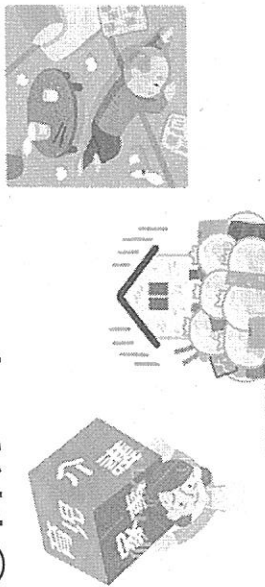
## ①「自分や家族が暮らしたい」という地域を考える



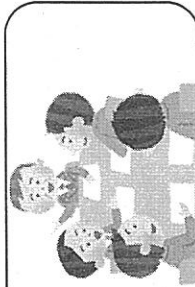
住民を中心とした  
話し合いの場, 集いの場 など...



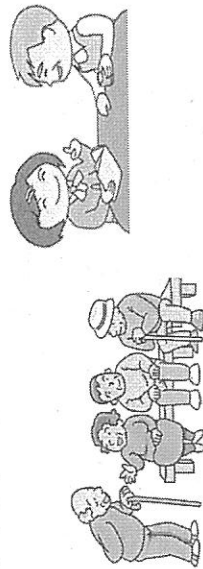
## ②自分の住んでいる地域の課題や社会資源について知る



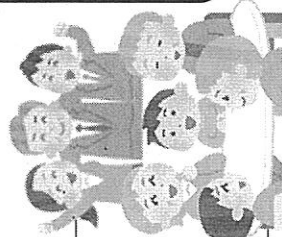
学習会, 勉強会 など...



## ③課題解決のために足りない社会資源や仕組みを創り出す



地域住民主体の  
「見守り」「相談窓口」の仕組みづくり...

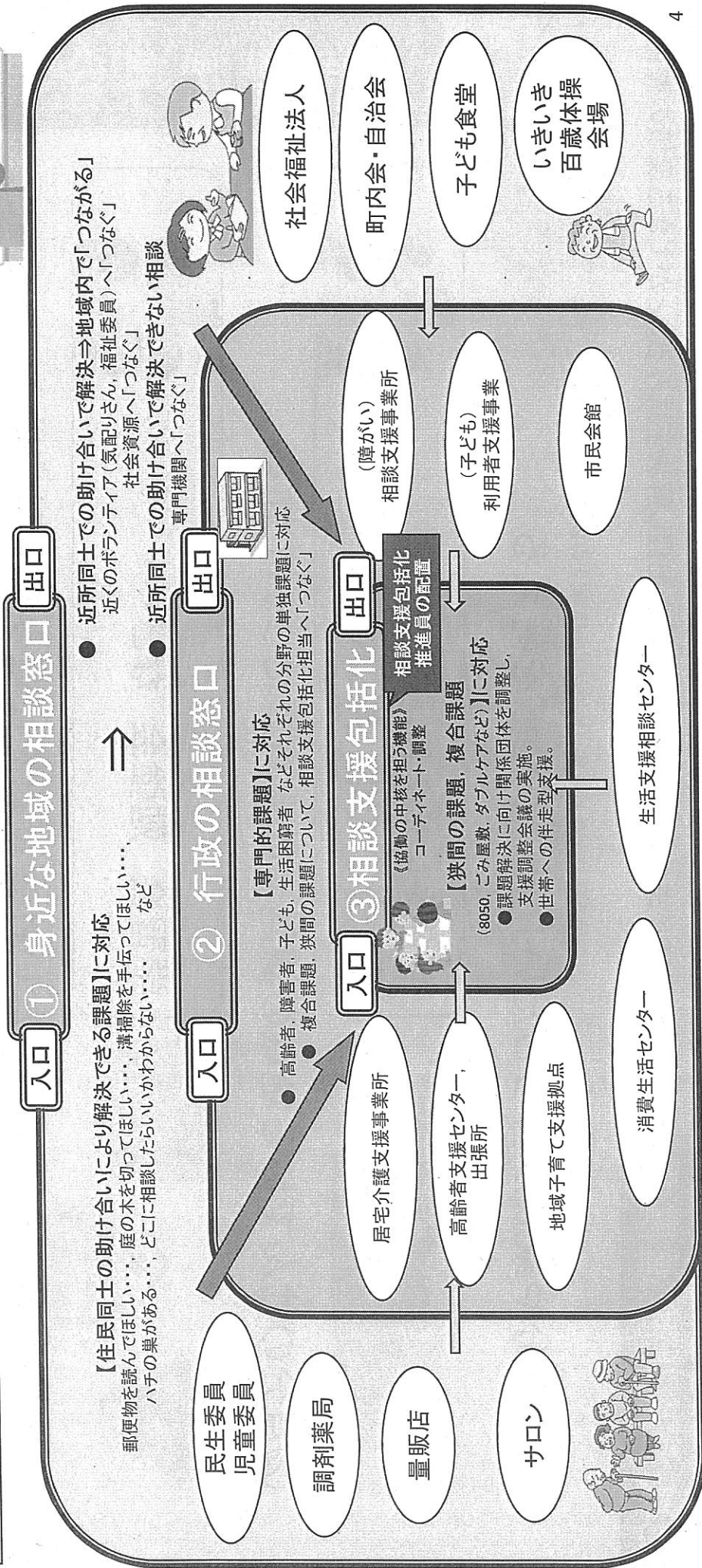
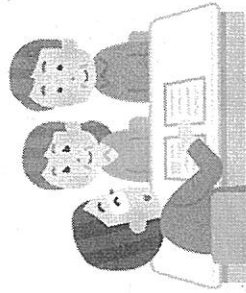


# 地域福祉の推進

# 地域力強化推進事業

## ～ 相談支援体制のイメージ(案) ～

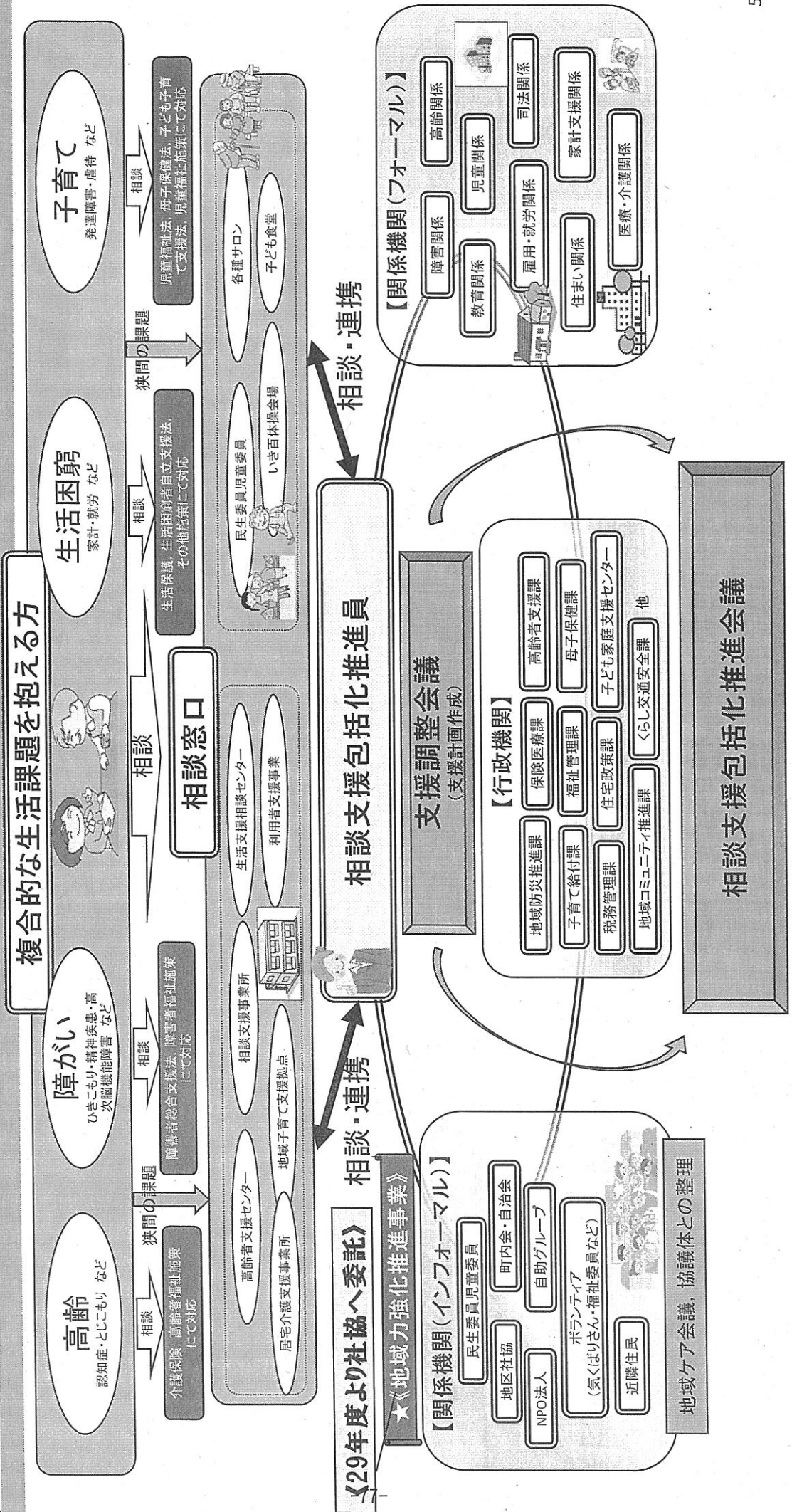
- ①「身近な地域の相談窓口」②「行政の相談窓口」は、「まるごと相談窓口」機能を持ちとりあえず相談を聞く。
- 相談内容に応じ、対応機関へ「つなぐ」。⇒「アセスメントシート」「ジョイントシート」など使用。
- 複合課題、狭間課題については、③相談支援包括化推進員に「つなぐ」。
- ③相談支援包括化推進員は、関係機関と連携して支援調整会議を開催し、支援計画をたてる。⇒伴走型支援





# 多機関の協働による包括的支援体制構築事業

## ～ イメージ(案) ～



# 第2期地域福祉活動推進計画の考え方(案)

【基本理念】: だれもが安心して、いきいきと自分らしく暮らせる支え合いのあるまち

第1期計画策定後、地域ではいろいろな取り組みが始まっている

- 支援が必要な人と支援する人を「つなぐ」
- ボランティアを「つなぐ」(マッチング)
- 同じ思いの人を「つなぐ」

【スローガン】: 地「参」地「笑」福祉でまちづくり

～ 地域の宝(社会資源)を活かした「つながり」のあるまちづくり ～

【キーワード】: 「つながる」「つなぐ」

みんなが主体的に…「つながる」

【市民ひとりひとりが「つながる」, 地域で「つながる」】

- 「おたがいさま・ほおちよけん」の思い
- 見守り, 支え合い

市民

【「つながる」】

- 地域共生社会の実現には地域福祉の推進が重要
- 地域福祉の推進には「つながる」ことが重要
- 「つながる」ことにより…点から面への広がり
- 「つながる」ことにより…「みんなのでやる」効果
- 地域力強化
- 多機関協働の包括的支援体制

「つながる」ことにより…  
「ひとりぼっちをつくらない」  
・自殺予防・ひきこもり  
・再犯防止 など

【「つながる」】

地域資源  
(NPO, 社会福祉法人, 医療機関, 企業等)

【各団体が「つながる」, 地域と「つながる」】

- 多職種連携
- 社福連携
- 地域貢献
- 多機関協働の包括的支援体制

【「つなぐ」機能】  
地域福祉コーディネート  
生活支援コーディネート など

【「つなぐ」支援】

高知市

【関係部局が「つながる」, 「つなぐ」(コーディネート)機能】

- 全庁的な取り組み
- 縦割り⇒横ぐし
- 多機関協働の包括的支援体制

対象を限定しない  
「地域包括ケアシステム」の構築

【「つながる」】

基本理念

【高知市の目指す地域共生社会】

だれもが安心して、いきいきと自分らしく暮らせる支え合いのあるまち

スローガン

地「参」地「笑」福祉でまちづくり  
～ 地域の宝(社会資源)を活かした「つながりのあるまちづくり」～

地域力の強化

包括的な支援体制づくり

2. 「おたがいさま」「ほおちよけん」の  
住民意識づくり

3. 地域活動など社会とつながる  
多様な交流の促進

4. 地域や福祉の担い手づくり

1. 地域共生社会の実現に向けた  
地域での課題解決力の強化

5. つながりのある相談支援体制の構築

6. 安全・安心につながる環境づくり

7. 地域共生社会の実現のための体制基盤強化



**互助・共助**

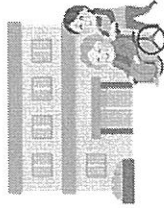
福祉委員・気くばりさんです。



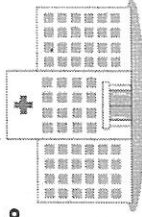
サロンなど近所の人との交流に参加します。



介護サービスを提供します。



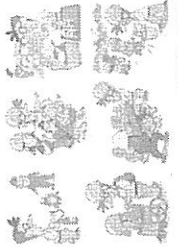
医療サービスを提供します。



「民生委員・児童委員」



民生委員児童委員です。



災害時には、近所で助け合います。

**社会福祉法人、医療機関、企業等は、地域貢献をします。**

**地域共生社会**

**「おたがいにま」「ほおちよけん」の気持ちを持つとう。**

ボランティア活動に参加します。



**多機関で協働して相談支援体制をつくります。**

民生委員児童委員活動を支援します。

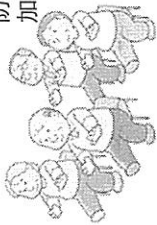
ボランティアの養成や、活動を支援します。

福祉サービスなどの情報を発信します。

**公助**

**自助**

防災訓練に参加します。



いきいき百歳体操などに参加し、健康を維持します。



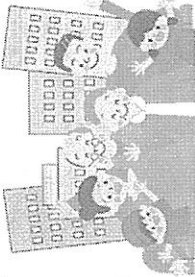
困ったことがあった場合には、助けを求めます。

**社会とつながりを持つとう。**

地域での学習会などに参加します。

町内会、自治会に加入します。

市民が気軽に相談しやすい仕組みづくりをします。



## 4. 次期高知市地域福祉活動推進計画 (平成31～36年度)概要(案)

# 高知市地域福祉活動推進計画 (平成31～36年度)

高知市地域福祉計画/高知市社会福祉協議会地域福祉活動計画

平成31年●月  
高知市  
高知市社会福祉協議会



## 第2期 高知市地域福祉活動推進計画目次(案)

1章 計画の策定にあたって	
1	計画策定の背景等
2	計画の位置づけ
3	計画期間
4	計画策定の体制等
2章 高知市の地域福祉を取り巻く状況と課題	
1	人口・世帯の状況
2	支援が必要な人たちの状況
3	地域における団体等の活動者の状況
4	意見交換会から見た高知市の状況
5	アンケート調査から見た高知市の状況
6	第1期計画の振り返り
7	高知市における課題のまとめ
3章 計画の基本的な考え方	
1	計画の基本理念
2	基本目標
3	施策の体系
4章 目標達成に向けた施策の展開	
	基本目標1
	基本目標2
	基本目標3
	基本目標4
	基本目標5
	基本目標6
	基本目標7
5章 計画の推進に向けて	
1	協働による計画の推進
2	計画の進捗管理と評価
資料編	
	用語解説
	推進協議会委員名簿
	協議会条例
	計画策定経過
	社会資源

# 第4章 目標達成に向けた施策の展開

基本目標1 ●●●●

1) (施策の方向性) ●●●

●●●

分担		期待される役割(自助・共助)/取り組みの内容(公助)
自助	住民	
共助	地域・福祉関係者	
公助	市	
	社協	

1000

1000